

平成24年度
過疎地域等自立活性化推進交付金事業

二セコ町たびいく地域調査等委託業務報告書

平成25年3月

二セコ町

も く じ

はじめに	1
1 調査の目的	1
2 調査の内容	4
第1章 現状と課題	5
1 観光に関する現状と課題	5
2 環境・エネルギー対策に関する現状と課題	12
第2章 調査の実施	14
1 たびいくプログラムの実証実験	14
(1) ツアーの概要	14
(2) アンケート結果 [共通設問]	27
(3) アンケート結果 [ツアーの感想など]	40
2 先進地視察による道外調査	47
(1) 北九州スマートコミュニティ創造事業	48
(2) 久留米まち旅博覧会：久留米まち旅博覧会事務局	53
3 たびいくに関する住民アンケート調査	57
(1) 調査のねらい	57
(2) 調査の概要	57
(3) 調査の結果	58
4 たびいく展開の可能性、課題	70
(1) 「環境型」プログラムについて	70
(2) 「食や農」に関するプログラムについて	73
(3) その他のプログラムについて	74
(4) 住民アンケート結果から考える、実施体制について	77
(5) 先進地視察から考える、プログラムや体制のつくり方について	78
第3章 事業化に向けて	87
1 事業化に向けた留意点	87
2 事業化に向けた取り組みとロードマップ	88
(1) 「環境型ニセコたびいくプログラム」のコンセプト（ねらい）を定める	88
(2) プログラムを支えるそれぞれの役割が生まれ、育つ	90
(3) スモールビジネスとしての定着をめざす	91
(4) 事業化に向けたロードマップ	92
3 事業化モデルの検討	94
(1) プレイヤーの事業化モデル	94
(2) プラットフォーム事業による事業化モデル	100
4 たびいくビジネスによる就労や雇用の可能性	103
5 観光クラスター構想	105
資料編	108

はじめに

1 調査の目的

ニセコ町は古くから道内の温泉観光地として知られており、さらに今日は、夏はアウトドア、冬はスキーが楽しめるリゾート地として、国内外から多くの観光客が訪れています。町の基幹産業は農業と観光であり、従業人口の約7割は第3次産業に就業し、その多くが観光産業に携わっています。

観光の振興は本町にとって重要な課題であり、「ニセコ町観光振興計画」においても、観光振興の実現だけでなく、地域全体の活性化を目的とし、「観光客の満足度を高める」「町民生活を豊かにする」「持続可能な地域経済を確保する」「自然(環境)を保全する」を基本的な考え方とし、観光協会の株式会社化や観光PRなど重点的に取り組み、新たな観光需要の掘り起こしを行ってきましたが、地域には観光資源となりうる地域資源がまだまだ眠っている状況です。

近年、観光形態が多様化し、より深く地域を理解し、楽しみたい観光客が増える中、旅を通じて地域の文化や産業を学んだり、地域の人と交流したりすることで、感受性や知見を高めていく観光スタイルが『たびいく』と称されるようになりました。

町内ではすでに、『たびいく』と呼べる体験観光プログラムが観光業を中心に行われていますが、そのほかにも、さまざまな趣味や特技、技術や知識を持つ住民が多く存在します。

住民の趣味や特技、知識などを生かせる『たびいく』を拡大することで、観光地としての裾野を広げ、ニセコでの旅に対する満足度を高める一方、「たびいくプログラム」をスモールビジネスとして定着させ、趣味が実益につながることによって、経済面や精神的な面で、携わる町民の方々を豊かにすることができないかと考えました。

さらに本町は、環境の取り組みこそが地域産業の礎となるという信念で、環境・エネルギー対策を進めており、それら環境・エネルギーに配慮した関連施設等も整いつつあります。このような背景から、たびいくの展開方向として「環境教育」に焦点をあて、本町にある自然環境、景観、自然エネルギー等の資源を組み合わせた「環境型ニセコたびいくプログラム」を開発することができないかと考えています。

以上のような背景から、本町における『たびいく』の可能性を検証することを目的として、この調査事業に取り組みました。

なお、本調査事業は、総務省の「過疎地域等自立活性化推進交付金事業」として実施しました。

「たびいく」について

「たびいく（旅育）」とは、「旅行」を通じて地域の文化や産業を学んだり、地域の人と交流することで感受性や知見を高め、生き生きとした生活を送るための手助けをする取り組みのことです。

平成19年6月に開催された政府の「観光立国推進戦略会議において、「地域が輝く「美しい国、日本」の観光立国戦略」が新たな提言として取りまとめられ、「旅育（観光の意義等についての教育、旅行を通じた文化・教養力の向上）の促進等」が提言されました。

食を通じて地域の文化や産業を観光素材として生かし、もてなす「食育」とともに、「たびいく」は、「旅の持つ力」によって、地域資源を活かした観光をより一層進めていく上でのテーマとなっています。現状における主な「たびいく」の取り組みパターンは、次の通りです。

親子を対象とした体験メニュー

旅行会社や航空・鉄道会社などでは、親子が旅先で楽しめる体験メニューを紹介する際に「たびいく」という言葉を使っています。



ANAのWebサイトより



JTBのWebサイト

総合的な学習の時間や社会科の授業

日本観光振興協会では、小中学校の児童生徒を対象に、総合的な学習の時間や社会科の授業に講師を派遣し、旅の意義・楽しさ、旅の効用、観光の重要性（経済波及効果など）の話を通じて、児童生徒たちの環境、職業観、国際理解についての授業を支援しています。

一般社団法人日本民営鉄道協会の協力により開催された講義「日本の鉄道と楽しいローカル鉄道の旅」（平成24年度、新潟県五泉市にて）

日本観光振興協会ホームページより



地域の資源を活かした体験観光プログラム

藤枝市では平成 22 年度より、地域にある資源を学びや交流の場として活かし、実りある「ふじえだ旅」を楽しんでもらうための「たびいく体験プラン」を設定しています。

「藤枝市観光協会」が窓口として事前予約を行っており、平成 24 年には 32 プランが設定されています。

たびいくのコンセプト（藤枝市観光協会作成の冊子より）

たびいくは実りある“ふじえだ旅”のための体験プログラムです
旅育？旅行く？！旅育！！
 ふじえだのこんなところでこんな人と出会える ふじえだのこんなところでこんな遊び方ができる
 出かけて出会って感じるふじえだ旅
 たびいくはより充実したローカルな旅を提案します それは、
新しい時間の過ごし方への提案 新しい出会いと交流の提案
新しいまなびとあそびの提案
 子供と親 地域の人 仲間 友達「人」と「人」の関係
 「地域」とそこに住む「人」そこを訪れた「人」との関係
 新しい出会いを楽しみ「交流」をはぐくむ
 水に触れ空を見上げ 遊ぶことで「環境意識」をはぐくむ
 畑を歩き「農」と「食」の繋がりを知ることで「生命」をはぐくむ
 ウォーキングやスポーツで「健康」な身体や心をはぐくむ
 職人さんから知識ではない生きた「智慧」をまなぶ
 まちを歩き土地の歴史や伝説をきき「物語」を伝え世代を越えて繋いでいく
 キラキラした子供のようなまなざしで **身体全部で感じる旅**
 よるこびの種 たのしみの種 しあわせの種 気づきのタネ
 まなびのタネ 感動のタネ ふじえだにはそんな種がいっぱいあります



- [ターゲット]**
- 学校の授業プログラムとして活用
 - 友達と一緒にの旅行
 - 家族で子どもと学ぶ旅
 - 旅行やサークルや社員交流に
 - 親戚や家族が遊びにきたとき

個々の「たびいく体験プラン」のほか、「たびいく体験プラン」と地域の資源（見どころ、寄りどころ）を組み合わせた「モデルコース」を設定しています。

地域資源は、自然、歴史や文化、産地であるお茶をはじめとした農と食、サッカー関連、工芸、祭り、工場見学など多岐にわたっており、それぞれテーマ性を持って組み合わせ、コースとして紹介しています。

たびいくのモデルコース（藤枝市観光協会作成の冊子より）

The brochure page shows a table of contents on the left and a detailed itinerary on the right. The itinerary is titled '04 江戸時代からのお茶問屋街・茶町 お茶の香ロードを味わう' (04 Edo Era Tea Merchant Town & Tea Town: Taste the Scent of Tea Road). It includes a map of the area with numbered points of interest (1, 2, 3, 4) and descriptions of each location, such as '1 泉岩寺 (いずみいわでら)' and '2 ひとことカフェ (hitokoto cafe)'. The page also includes a '交通手段' (Transportation) section and a 'コース' (Course) section.

2 調査の内容

本調査事業では、「環境教育」と地域資源を組み合わせたモニターツアー（実証実験）や先進地視察、住民を対象としたたびいくに関するアンケート調査などにより、本町における『環境型ニセコたびいくプログラム』の事業化を検証し、実際に進めていくために必要なことや手順などを検討しました。

また、本報告書のまとめにあたっては、「ニセコ町たびいく推進委員会」を設置し、各種調査結果のまとめをふまえながら内容を審議していただきました。

※本報告書での「プレイヤー」とは、たびいくプログラムを実施する立場の人、「サポーター」とはプレイヤーを手伝う人のことを指します。

本調査事業の進め方

調査の実施

1 たびいくプログラムの実証実験

・「環境（ゼロエミッションライフ）」や「地球温暖化対策」を学ぶことができる「環境型ニセコたびいくプログラム」の実証実験を3つ行い、有効性や事業化に向けた課題を検証する。

①地産地消の旅

・自然エネルギーや自然環境から「食（農業）」を学ぶツアー

②食と環境を美味しく学ぶツアー

・環境（ゼロエミッションライフ）を学ぶツアー

③ニセコ電気自動車の旅

・電気自動車を活用したモニターツアー

2 先進地視察による道外調査

・ニセコ町におけるたびいくプログラムを検討するうえで参考となる先進地の視察を行う。

3 たびいくに関する住民アンケート調査

・プレイヤーやサポーター※となり得る住民にたびいくへの参加に関するアンケートを行う。

4 たびいく展開の可能性、課題

・「環境型ニセコたびいくプログラム」の展開の課題と可能性を検討する。

【検討組織】ニセコ町たびいく推進委員会

・学識経験者及び見識者5名、町民2名の7名で構成

事業化に向けた検討

1 事業化モデルの検討

・推進体制ニセコ型スモールビジネスの事業化モデルを検討する。

2 事業化に向けた準備とロードマップ

・プログラムのコンセプトやねらい、推進体制の考え方を設定する。
・事業化に向けたロードマップを作成する。

3 たびいくビジネスによる就労や雇用の可能性

・「環境型ニセコたびいくプログラム」がスモールビジネスとして定着することによって、就労や新規雇用が拡大する可能性を考える。

4 観光クラスター構想

・個々の観光事業（スモールビジネス）が継続し、有機的に結びついていく「観光クラスター化」のあり方や形成に向けた推進方策について検討する。

第1章 現状と課題

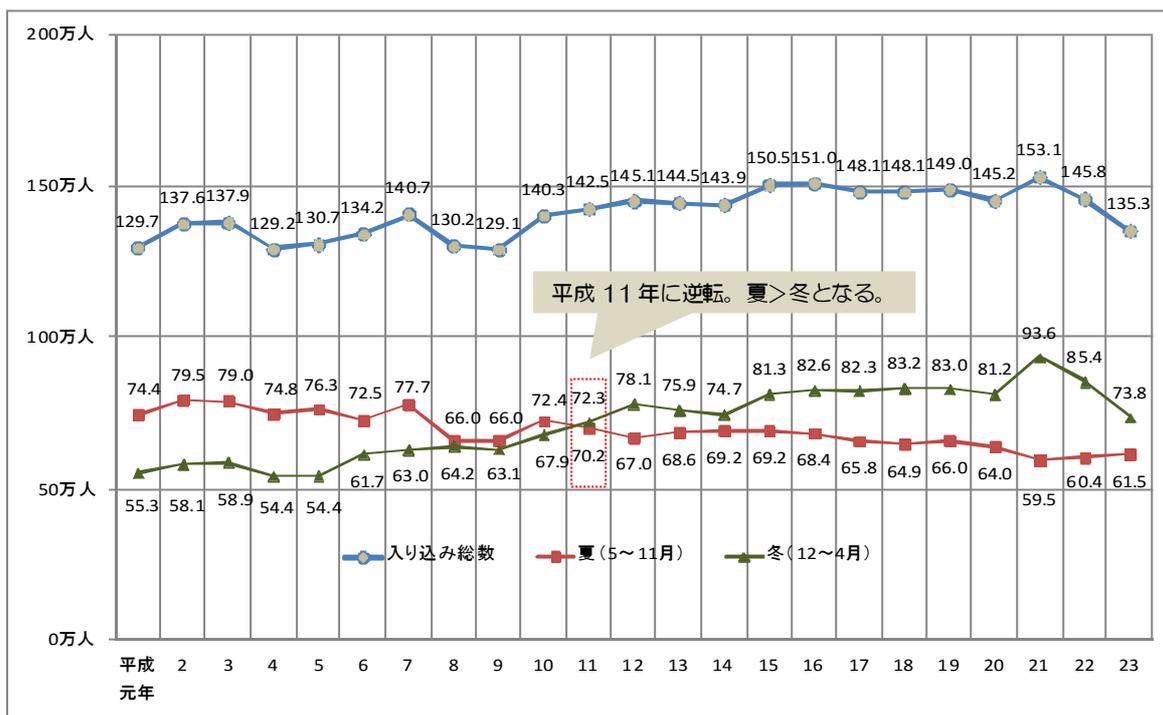
1 観光に関する現状と課題

[概況]

「ニセコ町観光振興計画（平成 21～30 年度）」や「数字で見るニセコ（2012 年 5 月版）」によると、観光の概況は次の通りです。

- 古くから道内の温泉観光地として知られ、高度経済成長期には倶知安町とともにスキーリゾートとして脚光を浴びるようになりました。途中、バブル経済などの影響を受けながらも、昭和 50 年代後半からペンションが急増し、スキー場、ホテル、ゴルフ場などの建設が進みました。平成 8 年ごろからアウトドアや体験事業など、地域の特色を生かした事業に取り組み、夏季の観光需要が大きく伸張しました。
- 近年は、雪質の良さがオーストラリア人スキーヤーを中心とした外国人にも知られるようになり、スキーを目的とした冬季の外国人観光客が増加しています。夏季にはアジア地域からの観光客が増加するなど、ニセコ地域は国際観光地として注目されるようになり、開発や投資が活発化しています。
- 観光客の入り込み数の推移をみると、平成 23 年は震災の影響により減少したものの、総数では平成 10 年からほぼ横ばいか微増傾向にあります。夏（5～11 月）と冬（12～4 月）で比較すると、平成 11 年から夏と冬の入り込み数が逆転し、夏の方が多くなっています。

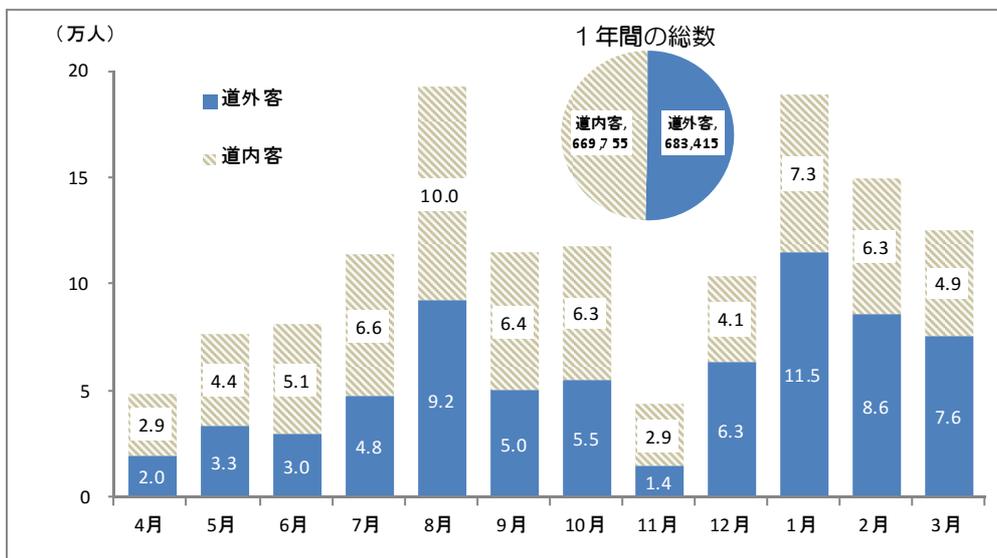
ニセコ町の観光客入り込み数の推移



出典：ニセコ町「数字で見るニセコ（2012 年 5 月版）」より

- 1年間の入り込み数の推移をみると、夏は8月、冬は1月にピークがあります。
- 平成 23 年の道内客・道外客の比率を比較すると、1年間の総数では道内客と道外客の割合はほぼ同率です。月別では4月から11月は道内客、12月から3月は道外客の割合が高くなっています。

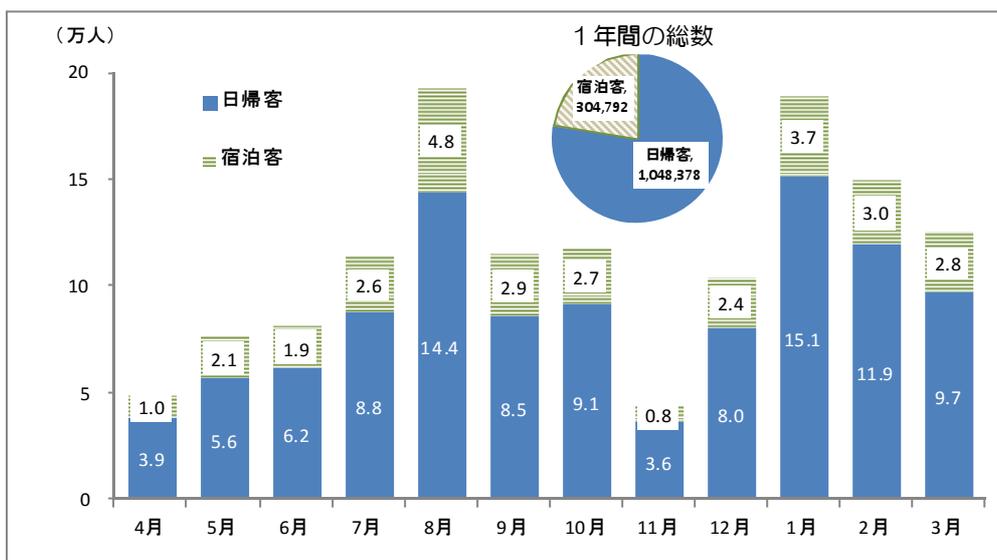
ニセコ町の観光客入り込み数の推移（平成 23 年度）



出典：北海道「北海道観光入込客数調査」、ニセコ町「数字で見るニセコ（2012年5月版）」より

- 平成 23 年の日帰客・宿泊客の比率を比較すると、1年間の総数では日帰客が 77.5%、宿泊客が 22.5%です。月別では5月、8月、9月に宿泊客の割合が 25%を超え、他の月に比べて高くなっています。

ニセコ町の観光客入り込み数の推移（平成 23 年度）



出典：北海道「北海道観光入込客数調査」、ニセコ町「数字で見るニセコ（2012年5月版）」より

●点在する豊富な観光資源

- ・本町には、世界遺産になるような壮大な自然や、道東地方のどこまでも続く畑の風景のようにナンバーワンと言えるものはないが、羊蹄山に代表される山々、イトウが生息する尻別川、多様な動植物が生息する森などが身近にあり、気軽にふれあうことができる。
- ・豊富な泉質を誇る温泉、スキーなどのさまざまなアクティビティ、おいしい水、安心安全で良質な農産物など、ニセコは豊富な観光資源に恵まれている。

●美しい山並み

- ・「えぞ富士」とも呼ばれ、地域のシンボルになっている羊蹄山、日本海から連なるニセコ連山や山頂のドーム形状に特色がある昆布岳などの風景がある。
- ・安定した降雪量と優れた雪質に恵まれたスキー場は世界的に注目を集めており、標高1,000m以下での天然雪のみによるスキー場は、希少な存在になってきている。

●手軽に親しめる自然

- ・車で10数分移動するだけで、豊かな自然とふれあうことができる。
- ・ニセコ山系には熊が生息していないので、家族連れなどでも安心してトレッキングや登山などを楽しむことができる。
- ・清流日本一の尻別川がまちの中央を流れまちなかで自然と親しめる。
- ・カヌーやラフティング、釣りなどのほか、水辺ではたくさんの動植物を見ることができ

●農村としてのニセコ

- ・農業の歩みとともに培われた農地景観は、ニセコの原風景で、山と傾斜地が織り成す牧歌的でおだやかな風景となっている。
- ・北海道有数の食料基地として品質の高い農産物（ジャガイモ、アスパラ、メロンなど）を生産している。

●さまざまなニーズに対応できる観光施設

- ・町内には大型ホテルから旅館、ペンション、B&B、コテージなどさまざまなタイプの宿泊施設が営業しており、観光客は自分の好みや滞在スタイルに応じて選択することができる。
- ・スキー場、道の駅、豊富なメニューが揃う体験観光などニセコを楽しめるさまざまなアクティビティが充実している。

●新しいものを受け入れてきた風土

- ・温泉の発見から始まり、スキーブームの到来によりニセコアンヌプリ山麓の観光開発が進む中で、町外から多くの人が入り観光に携わり、さまざまな知恵や技術を持った人が集まっている。
- ・早い段階から通年化観光をめざし、ペンションのオーナーなどが自らの特技を生かして「体験観光」に取り組んできた結果、近年、夏の観光入込客数が冬より増えた。
- ・最近では外国人観光客も急増している。

[課題]

「ニセコ町観光振興計画（平成 21～30 年度）」によると、観光の課題の中で、「一般的な観光資源だけではなく、地域の文化やそこに暮らす人たちの良さなどを含めた地域全体の魅力を高めていくこと」や「町民やさまざまな事業者などが連携し、資源を組み合わせることにより、さらなる魅力向上を図る」ことが課題としてあげられています。

また、「第5次ニセコ町総合計画（平成 24～35 年度）」策定時に行ったアンケートによると、観光分野では、大規模リゾート観光開発とともに「観光客への住民のおもてなし」に対する住民の評価が低く、改善の緊急性が高い項目となっています。

ニセコ観光の課題（「ニセコ町観光振興計画」より）

- 地域資源の保全、環境と調和したリゾート地づくりへの配慮が不十分
 - ・農家の高齢化や担い手不足などにより農地景観の保全がこれまで通りにいくとは限らず、農家以外の人たちも関わった仕組みづくりが求められている。
 - ・海外諸国で起きている「ニセコブーム」が自然環境や景観に悪影響を及ぼすのではないかと危惧されている。一方、開発行為は地域の価値を高めることにもつながるため、秩序ある開発を進めることが必要。
- リゾート地としての受入れ体制が整っていない
 - ・これまで、観光事業者以外の人たちが、観光の現状や観光振興の重要性などを共に考える機会がなく、「リゾート地づくりは観光事業者が行うもの」という気運があり、地域全体で行動することを難しくしている。
 - ・観光客が何度も訪れたいと思うリゾート地を実現するためには、一般的な観光資源だけではなく、地域の文化やそこに暮らす人たちの良さなどを含めた地域全体の魅力を高めることが求められている。
 - ・夏季の公共交通機関や地域内の移動、国際化に対応した案内や表示などの整備は十分とはいえず、関係機関などと協力しながら充実を図っていく必要がある。
- 多様な連携が確保できていない
 - ・ニセコには多様な観光資源が点在しているが、個々に利用されているに過ぎず、一体として活用されていない。町民やさまざまな事業者などが連携し、資源を組み合わせることにより、さらなる魅力向上を図る必要がある。
 - ・観光客を受け入れる宿泊施設などで使用されている食材の多くは町外から調達され、地域内で観光消費を循環させることができていない。地域内で観光消費のメリットを享受できるように、観光事業者の利便性を向上させながら地場製品の消費拡大を図る仕組みを構築する必要がある。
- ニセコの魅力が十分に伝えられていない
 - ・多くの方はスキーリゾート、若年層は冬のニセコのイメージを強く持ち、外国人観光客も雪を楽しみに訪れる。一方、アウトドア志向者はカヌーやラフティング、登山など活動的なイメージ、熟年層は温泉のイメージを持つ。世代や地域でニセコのイメージがまちまちであり、地域の実情と観光客の期待との間にギャップを生じさせてしまうことが懸念される。多くの人に地域の全体像を知ってもらえるよう、観光情報を含めた地域の情報を総合的に集約し、発信できる仕組みづくりが求められている。
- 観光客の満足度は高くない
 - ・個人対象のアンケートなどの調査結果によると、ニセコに対する満足度は必ずしも高くない。今後の旅行形態は、個人や小グループ旅行が主流になると予想されており、個人の満足度を高めていかなければ、旅行先として選ばれなくなっていく。
 - ・満足度を下げている問題点を地域全体で共有し、優先順位を明確にしながら地域全体で解決を図っていくことが求められる。問題点を明らかにするためには、そのことを押し量る客観的な情報を集めなければならず、継続的に調査を行う必要がある。

エリア別の観光資源の概要



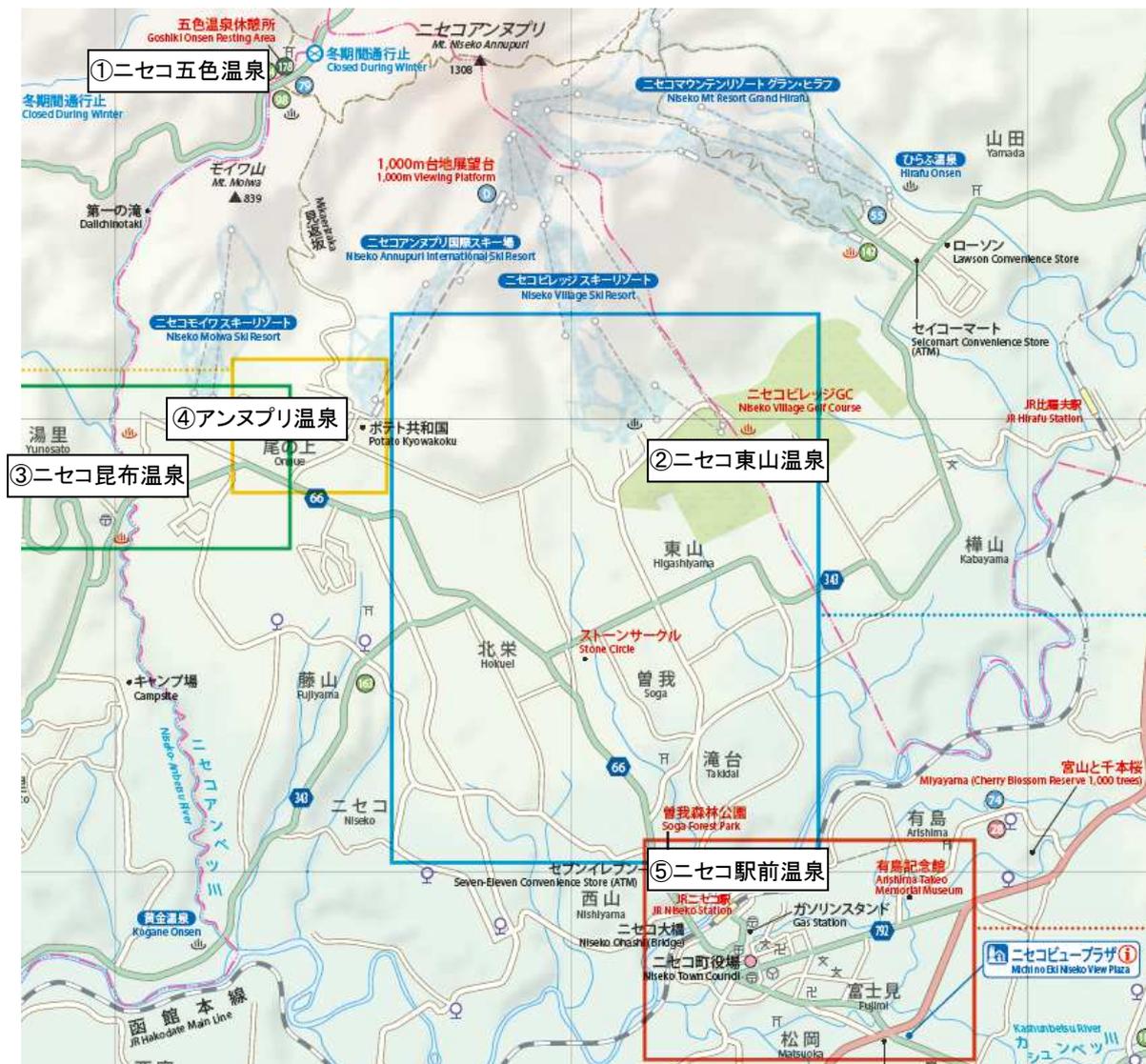
主な観光資源および施設の立地状況（「ニセコ観光振興計画」より）

分類	一般名称	説明文
景観	羊蹄山 (えぞ富士)	典型的なコニーデ式火山。山頂(1,898m)からは日本海、太平洋が望める。支笏洞爺国立公園に属しており、日本百名山の1つに選ばれている
	ニセコ連山	ニセコアンヌプリ(1,308.2m)を主峰に、イワオヌプリ、ワイスホルン、チセヌプリ、岩内岳、目国内岳、雷電山、他の山々で構成されており、山麓や中腹には、湖沼や高層湿原が点在する
	昆布岳	ニセコ町の南側に位置し、特徴的な形の山頂を持つ山。山頂(1,045m)からは、町内はもとより内浦湾や道南地方の山々を見渡すことができる
	尻別川	支笏湖との分水界をなすフレ岳(伊達市・標高1,048m)を源とし、伊達市、喜茂別町、京極町、倶知安町、ニセコ町、蘭越町を流れ日本海に注ぐ長さ126km、流域面積約1,640平方kmに及ぶ一級河川。清流日本一(環境省)の川でもある
	田園風景	町内広範に広がる農地は、四季折々の自然や山々の遠景と重なり、美しい田園風景を織りなす
	ふるさと眺望点	ニセコ町景観条例により、ニセコ町内の優れた景観を眺望できる場所を「ふるさと眺望点」として指定。現在は2か所を指定。 ①ニセコ町宇曾我 景観要素：2本のさくらんぼの木、羊蹄山、畑 ②ニセコ町宇豊里 景観要素：ダチョウ牧場、ニセコアンヌプリ、羊蹄山
	羊蹄山 ビューポイント	国道沿いに羊蹄山が美しく見える場所に駐車場を整備(宇黒川、宇宮田)
	綺羅街道	ニセコ町のメインストリートとして、羊蹄山やニセコ山系の大自然と調和したゆとりある市街景観を形成。電柱が地中化された街路は花で飾られ、道行く人の目を楽しませる

分類	一般名称	説明文
動・植物	高山植物帯	羊蹄山の頂上付近にある高山植物帯。周囲2kmの火口付近は花畑になっている。山麓にはカラマツやトドマツなどの雑木林、七合目からはハイマツ帯になっている
	景観作物	ひまわり、キカラシなど
	動物	アカゲラ、アオサギ、クマタカ、エゾリス、キタキツネ、エゾサンショウウオなど
	その他	じゃがいもの花、麦などの作物
公園・キャンプ場	有島記念公園	有島記念館に隣接し、花や羊蹄山の撮影ポイントになっている
	ニセコアンヌプリ森林公園	木立の中に散策路が整備されており、森林浴やバードウォッチングを楽しむことができる
	曾我森林公園	市街地に隣接し、花木の広場や多目的広場が整備されている。記念碑の丘からは羊蹄山が一望できる
	ニセコ野営場	豊かな自然環境の中にあるキャンプ場。ニセコアンヌプリの登山基地としても親しまれている
文化施設	有島記念館	有島武郎生誕100年を記念して建設。館内では写真、書簡、書、絵画、初版本など貴重な資料を展示。有島タワーからは羊蹄山、ニセコ連山を一望できる
	有島灌漑用水	有島共生農団が作った有島灌漑用水は、歴史的価値のある施設。現在も用水として利用されている
	駅前倉庫群	羊蹄山麓地域の農産物の集積地として栄えたニセコ駅の往年の姿を伝える石造りの倉庫群
	転車台	初代SLニセコ号(C62-3)が方向転換するために設置された転車台。現在は本線から切り離されている
	ニセコ山頂観測所跡	先の大戦で軍用機の翼に着く氷を研究するため、ニセコアンヌプリ山頂に試験場が設置された。そのとき設置されたゼロ戦を固定する台座や電源ケーブルが今も残る
イベント	ニセコマラソンフェスティバル	陸上競技場をメイン会場に開催しているマラソン大会。ハーフ・10km・3.5kmの3コースがある
	「七夕のタベ」花火大会	子供たちに夏の思い出を残すため商工会青年部が始めたイベント。近くから見ることができる花火は圧巻
	食べ菜！遊び菜！ニセコ収穫祭♪	農産物の産地である利点を生かし、おいしい食材をおいしい料理に変えて提供するイベント
	ニセコフェスティバル	ニセコのさまざまな魅力をメニュー化し、誰でも気軽にニセコを満喫できるイベント
スポーツ施設	ゴルフ場	2か所(ニセコビレッジゴルフコース、ニセコゴルフコース)
	パークゴルフ場	4か所(運動公園、ニセコアンヌプリ森林公園、ニセコパークゴルフ場、ニセコビレッジ)
	陸上競技場	面積8,997㎡。日本陸連4種公認1周300mの8コース
	総合体育館	面積2,556㎡。アリーナ、格技室、研修室、トレーニング室、放送室、更衣室(シャワー付)
	スキー場	3か所(ニセコビレッジスキーリゾート、ニセコアンヌプリ国際スキー場、モイワスキーリゾート)
店	ギャラリー	ガラス、メタルクラフト、写真など(主な事業所)7か所
	土産店	ガラス工芸、クラフト等など(主な事業所)3か所
	直売所	ニセコビュープラザ直売会、ニセコ野菜耕房、S、里見直売所
アクティビティ	アウトドア	スキーガイド、ゴルフ、トレッキング、ラフティング、カヌー、スカイスポーツ、乗馬、釣り、収穫体験など(主な事業所)14か所 ※宿泊事業者を除く
	インドア	食品づくり、ガラス細工、陶芸、各種クラフト(主な事業所)6か所 ※アウトドア事業者、飲食店、宿泊事業者を除く

分類	一般名称	説明文
地場産品	農産物	じゃがいも、米、カボチャ、メロン、アスパラ、トマトなど
	乳製品	チーズ、のむヨーグルト、アイスクリーム、プリンなど
	その他	ビール、日本酒、山菜など
	道の駅「ニセコビュープラザ」	ニセコ町のランドマークとして、国道5号沿いに整備された施設。地域の観光インフォメーション機能を担うほか、併設された農産物直売所では新鮮な農産品を提供する
温泉	①ニセコ五色温泉郷	泉質：含硫黄-マグネシウム・ナトリウム-硫酸塩・塩化物泉（五色温泉、ニセコ山の家）
	②ニセコ東山温泉	泉質：ナトリウム-炭酸水素塩・硫酸塩泉（ヒルトンニセコビレッジ、グリーンリーフホテル）
	③ニセコ昆布温泉郷	泉質：ナトリウム-塩化物・炭酸水素塩泉、鉄鉱泉、含硫黄-ナトリウム・カルシウム-塩化物・炭酸水素塩・硫酸塩泉（甘露の森、ニセコグランドホテル、あしりニセコ）
	④アンヌプリ温泉郷	泉質：ナトリウム-炭酸水素塩泉・硫酸塩・塩化物泉（いこいの村、ニセコノーザンリゾートアンヌプリ、湯心亭）
	⑤ニセコ駅前温泉	泉質：ナトリウム-塩化物・炭酸水素塩泉（綺羅乃湯）

町内の温泉（上記の表①～⑤）の位置

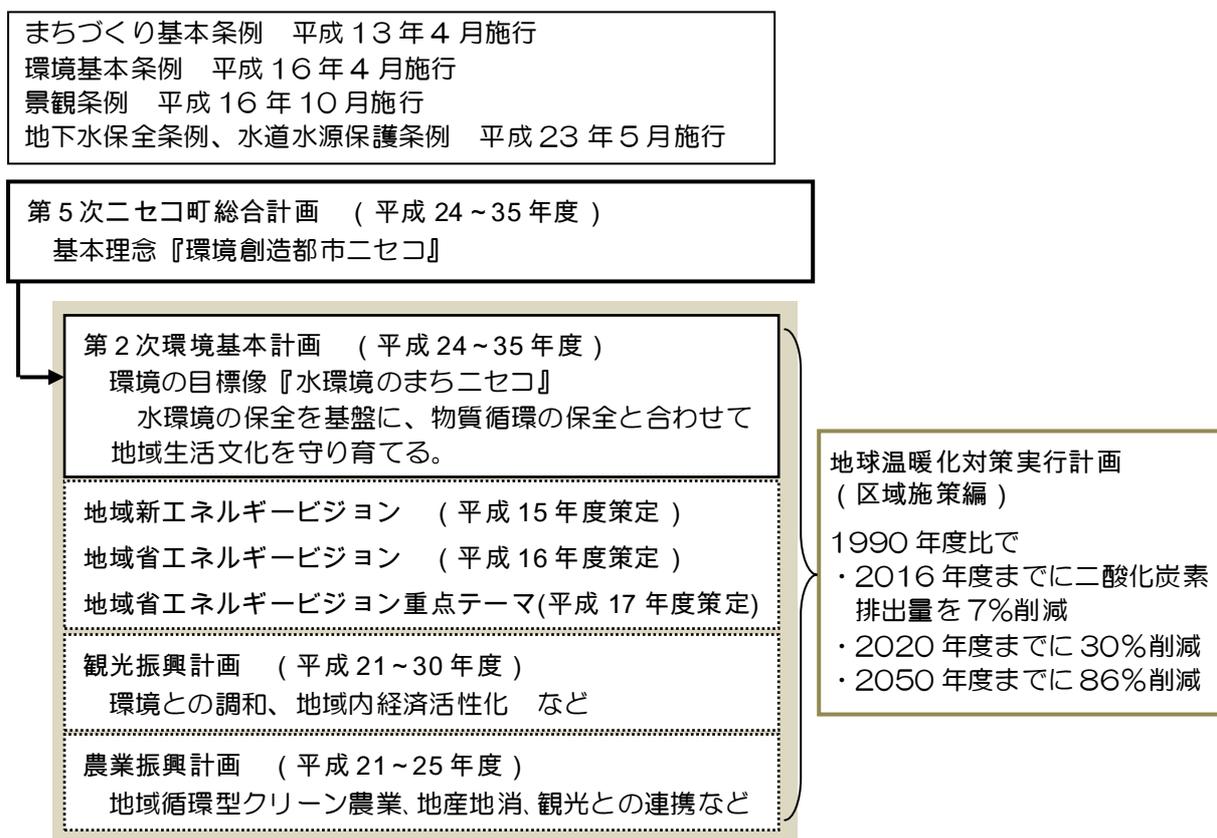


2 環境・エネルギー対策に関する現状と課題

また、「環境型二セコたびいくプログラム」を検討していく上でふまえていくべき、環境・エネルギー対策の取り組みは次の通りです。

- 年間約 150 万人もの観光客が訪れる本町では、今ある自然環境が崩壊すると、産業基盤が失われ、地域が破綻すると考え、環境保全の重要性を認識しています。「第5次二セコ町総合計画」では『環境創造都市二セコ』を基本理念とし、基本理念を支える将来像のひとつとして「ゆたかな自然環境を軸にエネルギーが循環するまち」を掲げています。また「第2次環境基本計画」を策定し、環境の目標像を『水環境のまち二セコ』としています。
- 二酸化炭素の排出量を削減していく上で、エネルギー自給率をあげて地域でエネルギーを使っていくことが重要な課題となっており、「地域新エネルギービジョン」「地域省エネルギービジョン」を策定し、エネルギー対策を進めています。
- 国際的観光リゾートとして認知度が高まっている本町では、既存の資源を守りさらに活かしていくことは、生業を守ることに繋がっており、中でも、国際的視点において地球環境問題に積極的に取り組むことが環境国際リゾート・二セコを世界ブランドへと発展させる鍵であると考えています。「地球温暖化対策実行計画」では、温室効果ガス削減目標を具体的に示し、温室効果ガス削減目標の達成に向けて取り組んでいます。

二セコ町の環境に関する取り組みの体系図



- 本町ではこれまで、街灯照明のLED化や公用車として電気自動車を導入したほか、公共施設への地中熱ヒートポンプの導入、屋根付きの一般廃棄物処理場の整備、家畜糞尿・下水道汚泥・家庭用生ごみを一括堆肥化し土作りを行っている「堆肥センター」の整備、町民センターへの追尾型太陽光発電（軌道追尾式の太陽光パネル）の導入などを進めてきました。
- マイクロ水力発電、農業系バイオマス、木質バイオマス、雪氷熱などのエネルギー活用に関する調査も行っています。
- フードマイレージ*を小さくするため、「地産地消」や堆肥センターで生まれた土を使うなどの「環境調和型の地元農産物の拡大」についても取り組んでいます。

*生産地から食卓までの距離が長いと二酸化炭素の排出が増え環境に負荷がかかるという考えのもと、食べものが運ばれてきた距離を示すこと。数値が大きいほど環境負荷が高いとされます。



堆肥センター



マイクロ水力発電機



追尾型太陽光発電

写真：緑の分権計画事業報告書、ニセコ自然エネルギー研究会 Facebook より

第2章 調査の実施

1 たびいくプログラムの実証実験

町内にある環境・エネルギーに配慮した関連施設の見学と、電気自動車の利用という体験プログラムを中心に、地域の資源を活かしたそのほかの体験プログラムを取り入れながら、「環境（ゼロエミッションライフ）」や「地球温暖化対策」などを学ぶことができる「環境型ニセコたびいくプログラム」のモニターツアー（実証実験）を3つ実施しました。

（1）ツアーの概要

①地産地消の旅（自然エネルギーや自然環境から「食（農業）」を学ぶツアー）

自然環境や景観に配慮し、家畜糞尿・下水道汚泥・家庭用生ごみを一括堆肥化し土作りを行っている「堆肥センター」を見学し、資源の循環や食の安全について学ぶツアーを実施しました。

加えて、堆肥センターで作られた土を利用して栽培された野菜の収穫を体験し、さらにその野菜を地元レストランのシェフによる料理教室によって調理し、試食するとともに、そこで出た生ごみを「堆肥センター」に持って行って土に戻す、という、一連の資源循環がプログラムの中で実際に体験できる内容としました。

開催日時	2012年10月20日（土） 日帰り
当日参加者	20名（男性1名、女性19名）
募集方法	チラシを作成したほか、シービーツアーズのホームページ、「BEST! from 北海道」のメールマガジンなどで告知
旅行日程	札幌発 プログラム①「ニセコ町堆肥センターおよび最終処分場を見学する」 ◎施設を見学する ◎ニセコ町の取り組みについて、話を聞く プログラム②「収穫を体験し食材を選ぶ」（ニセコアグリファーム） ◎料理教室で利用する野菜を収穫する プログラム③「料理教室に参加し、昼食をとる」（町民センター） ◎レストラン「プラティーヴォ」佐藤シェフの料理教室に参加し、収穫した野菜を使った料理を学ぶ ◎昼食をとる プログラム④「ニセコ町堆肥センターを見学する」 ◎再び、堆肥センターを見学し、料理で出た生ごみを堆肥に戻す <道の駅「ニセコビュープラザ」にて買い物> <アンケート記載&回収> 札幌着 解散

ニセコ地産地消の旅 モニターツアー

出発日 2012年10月20日(土) 日帰り

- 募集人員25名(女性限定、男性同伴可) ●参加費無料
- 添乗員同行 ●バスガイド付 ●昼食付
- 集合場所 中央バス札幌ターミナル1階待合室受付
札幌市中央区大通東1丁目3(四季劇場隣)
- 集合時間 7:45(出発8:00)

旅行日程

札幌ターミナル(8:00) == 中山峠[休憩](約15分) ==
== ニセコ町堆肥センター[見学](約40分) == ニセコアグリファーム[収穫体験・食材選び](約30分)
北海道でも珍しい生ゴミから肥料を作る施設 旬の野菜、イモ・人参・かぼちゃなどを収穫
== ニセコ町民センター[レストランフラティーヴォ佐藤シェフによる、料理教室・昼食](約180分)
収穫した野菜を使って、ニセコの有名シェフによる料理教室! その後はシェフの美味しいランチを頂きます
== ニセコ町堆肥センター[見学](約30分) == ニセコビューフラザ[買物](約30分)
料理教室で出た生ゴミを再度堆肥に戻します
== 中山峠[休憩](約15分) == 札幌ターミナル(19:00頃)

※交通事情等の理由により、到着時間および見学時間が変更となる場合がございます。

○ポイント!

- ・ニセコの人気レストラン「フラティーヴォ」の佐藤シェフによる料理教室&食材選びのポイントのお話がございます。
- ・昼食には、フラティーヴォのランチをご用意!
- ・ニセコで食材を収穫し、地元のシェフから学び、美味しく食べて、最後はまたニセコの大地へ還すという地産地消の旅です!

○モニターツアーについて

- ・当ツアーは「ニセコ町たびいく地域調査等委託業務」の事業の一環として、ニセコにおける食の循環を学んで頂くという趣旨にて行います。
- ・当ツアーはモニターツアーとなっておりますので、アンケートにご協力いただける方のご参加になります。また、個人が特定できない範囲にて写真などを撮らせていただきます。



←ミルク工房内に佇む、地元ニセコの新鮮野菜にこだわるレストラン「フラディーヴォ」。イタリア語で「牧草」という意味です。素材の持ち味を生かす料理が評判を呼び多くのリピーターが訪れます。また、大きな窓に羊蹄山がスッポリと収まる絶景も必見です。今回はそのフラディーヴォで腕をふるう佐藤シェフに、地元ニセコの野菜を使った料理を学び、地産地消を味わいます→



ニセコミルク工房レストラン
PRATIVO
【フラディーヴォ】

<http://www.milk-kobo.com/prativo/>

ぜひチェックしてみてください！



堆肥センター外観



堆肥センター貯蔵庫内

ニセコ町堆肥センター
有機性廃棄物の堆肥化、リサイクルに取り組むニセコ町の最新施設。
生ゴミを再利用し、大地へ堆肥として循環させる「リサイクルの現場を見学致します。

旅行条件【要旨】

お申し込みいただく前に、この旅行条件書とコースのご案内を必ずお読みください。詳しい旅行条件を印刷した冊子をご用意していますので、事前に確認の上、お申し込み下さい。この冊子は旅行業法第12条の4に定める取引条件説明書及び旅行契約が締結されたときは、同法12条の5に定める契約書の一部となります。

1 旅行業法に基づく説明

(1) この旅行は、株式会社シーブイツアーズ(以下「当社」といいます)が旅行企画・実施する旅行であり、この旅行に参加されるお客様は、当社(専業型企画旅行契約(以下「旅行契約」といいます。))を締結することになります。
(2) 旅行契約の内容及び条件は、本旅行条件書によるほか、当社旅行案内、パンフレット、ホームページ、出発前にお渡しする案内書(以下「最終旅行日情報」といいます。))及び当社旅行契約書、専業型企画旅行契約の部(以下「予約書」といいます。))によります。なお、案内書及び予約書は、情報通信の技術を利用する方法で提供されるものファイルを含みます。

2 旅行のお申し込み方法

(1) 当社又は旅行業法で規定された当社「受託営業所」(以下「当店」といいます。))において、ご予約、電話、郵便、ファクシミリ、インターネット等によるお客様の旅行契約のお申し込みまたは予約を受付けます。
(2) 当社は、同一コースにおいて、参加しおとせる複数のお客様が責任ある代表者を定めたときは、その方が旅行契約のお申し込み、締結、解除等に関する一切の代理権を有しているものとみなし、その団体に係る旅行業務に関する取引は、当該代表者との間で行い得ることとなります。

(3) 申込金の額は下記のとおりです。なお、申込金は後述する「お支払い対象旅行代金」「取消料」「解約料」のそれぞれ一部または全部として取り扱われます。

旅行代金の額(お一人様)	申込金または保証金の額(お一人様)
15万円以上	旅行代金の20%
10万円以上・15万円未満	30,000円以上旅行代金まで
5万円以上・10万円未満	12,000円以上旅行代金まで
6万円未満	6,000円以上旅行代金まで

3 申込条件・参加条件

お申し込みの時点で20歳未満の方が専業でご参加される場合は、原則として保護者の同意書の提出が必要です。15歳未満の方は原則として保護者の同行が必要です。

4 旅行代金に含まれるもの

パンフレット内に表記の「旅行代金に含まれるもの」のほかは、旅行代金に含まれません。その一部を(例示)します。
(1) 超過手荷物の料金(規程の重量、容積、個数の超過分の料金)
(2) コースに含まれない交通費、飲食代等の諸費用及びクリーニング代、電通電話料金、通知飲食代等お客様の個人的諸費用及びこれに(海)税・サービス料
(3) 傷害、疾病に関する医療費等

5 旅行契約の解除・変更

お客様は、常に定める取消料をお支払いいただくことにより、いつでも旅行契約を解除することが出来ます。ただし、解除の申し出は、当社の営業日・営業時間内にお受けします。
(お申し出の期日により取消料の額と発生することがありますので、お客様は、当社の営業日・営業時間をお申し込み時点で必ずご確認ください。)

取消日	旅行契約の解除期日	取消料(お一人様)
旅行開始の前日	21日目に当たる日以前	無料
から既出で	20日目に当たる日以前	旅行代金の20%
さかのぼって	7日目に当たる日以前	旅行代金の30%
旅行開始の前日		旅行代金の40%
旅行開始当日		旅行代金の50%
旅行開始後または無連絡不参加		旅行代金の100%

※「旅行契約の解除期日」とは、お客様が当社の営業日・営業時間内に解除の申し出をされた時点を基準とします。
① 旅行契約成立後にコース及び出発日を変更される場合も、上記の取消料の対象となります。
② 航空便の変更、宿泊施設の変更及びオプション・ナンプラの変更・取消も上記取消料の対象となります。

③ 複数人数でご参加で、一部のお客様が契約を解除される場合は、ご参加のお客様から選定・宿泊提携のご利用人数の変更に対する差額代金をいただきます。

6 旅行条件・旅行代金の請求

この旅行条件は、2010年1月29日を基準日としています。また、旅行代金は、2010年1月29日現在の有効な運賃、規則を適用して算出しています。

7 専業型企画旅行契約の内容及び個人情報の取扱いについて

この条件で定めのない事項は当社旅行契約書(専業型企画旅行の部)によります。個人情報の取り扱いとあわせてご希望の方は当社にご請求ください。また当社ホームページ「<http://www.cb-tours.com>」からもご覧いただけます。

⑧ 個人情報の取り扱いについて
当社及び子会社から収集したお客様の個人情報は、主に旅行業務の遂行に必要と認められる範囲で利用させていただきます。また、旅行契約の締結に際しては、お客様の個人情報を提供し、利用させていただきます。お客様がご提供いただいた個人情報は、旅行において電話・宿泊機関等(主催者等が、宿泊機関等については旅行契約に締結されている)の連絡手段として必要と認められる範囲で利用させていただきます。さらに、当社及び提携会社から当社法廷まで、マーケティング・統計資料の提供、販売、キャンペーンのご実施等に開示させていただきます。なお、旅行のお申し込み、お客様が上記取扱いについてご確認されたものとみなします。

北海道知事登録旅行業 第2-470号・JATAE会

予約センター

011-221-

旅行企画
実 施



本社営業所	麻生営業所	滝川営業所
TEL011-221-1122	TEL011-736-6611	TEL0125-26-1188
札幌市中央区南一条1丁目3番地 中央バス札幌ターミナル2F	札幌市北区北39条西4丁目 麻生バスターミナル1F	滝川市中央4丁目9番1号 中央バス滝川ターミナル1F
営業時間 平日 9:00~17:30 土曜日 9:00~14:00 (日祝定)	営業時間 10:00~18:30 (年末年始を除く毎日)	営業時間 平日 9:00~18:00 土曜日 9:00~14:30 (日祝定)

総合(国内)旅行業務取扱管理者とは、お客様の旅行を取り扱う営業所での取引に関する責任者です。この旅行契約に關してご不明な点があれば、ご連絡なく上記の取扱管理者にお尋ねください。

<http://www.cb-tours.com>

FAXお申込24時間受付中
FAX011-221-

●お申込み・お問合わせ

FAX用紙に

1. コース名
2. 出発日(第一希望・第二希望)
3. 代表者および参加者全員のお名前・年齢・郵便番号・住所・連絡先 をご記入下さい。

※通常でお受けできない場合がございます。予約のご回答は営業時間内にさせていただきます。

<ツアーの様子>

プログラム① ニセコ町堆肥センターおよび最終処分場の見学



- ・ニセコ町の環境施策の話に対して、参加者の関心が高かった。
- ・臭いが非常にきついことや、十分な説明を行うガイド役が必要なことなどが分かった。

プログラム② 収穫体験・食材選び（ニセコアグリファーム）



- ・収穫体験にお客様は非常に喜んでいました。じゃがいももにんじんも「楽しい！」という声があがっていたため、収穫体験は非常に良いコンテンツであると言える。
- ・一方で雨天時に、同等の満足度を得られる代替プログラムを用意しておく必要がある。

プログラム③ レストランプラティエーヴォ佐藤シェフによる料理教室・昼食（町民センター）



- ・料理教室自体の期待感是非常に高く、参加者も熱心にメモを取っていた。特に、佐藤シェフによる野菜の料理ワンポイントアドバイスは、参加者から感心の声があがっていた。
- ・調理器具の不足、時間が予定外にかかったなどの問題があった。
- ・町民センターで食事をした場合、食器の片付けが発生するのは、有料プログラムとして厳しいと感じる。
- ・場所については、晴天であれば屋外での実施も良いと感じた。
- ・佐藤シェフからはぜひ次回も、という感想をいただいた。

プログラム④ ニセコ町堆肥センターの見学



- ・ニセコ町長のお出迎えにより、参加者からはニセコ町の環境施策への熱意が伝わったという声があがっていた。
- ・午前中よりも臭いがきつくなっており、昼食後に立寄ることは厳しいと感じる。

そのほか



- ・佐藤シェフから参加者にお土産が渡されたこともあり、参加者からの満足度も高かった。
- ・出発時間ぎりぎりまでお土産を購入する参加者が多く、食の意識が高い状態を作り出した上で、ニセコビュープラザへ訪れると、より購買意欲が高まることがわかった。
- ・施設間の移動に電気自動車の試乗機会も設けたところ、好評だった。

②「食と環境を美味しく学ぶツアー」（「環境(ゼロエミッションライフ)」を学ぶツアー）

通年型農業の確立をめざし、冬期における農業の新たな事業展開を行うための実証実験を展開している、ニセコ高校の地中熱ヒートポンプ利用による「農業ハウス」を見学し、地球温暖化対策の重要性や化石燃料以外の活用方について実践から学び、本町がめざす環境（ゼロエミッション）について考えるツアーを実施しました。

加えて、地元農家や野菜ソムリエからニセコの野菜について話を聞いたり、冬場ならではの越冬ジャガイモの収穫・調理を体験するプログラムも加え、「食（農業）」を軸に、環境・エネルギー対策の取り組みとニセコの食材の豊かさをともに学び、楽しめるツアーとしました。

開催日時	2013年1月25日（金）～26日（土） 1泊2日
参加者	25名（男性9名、女性16名）
募集方法	チラシを作成したほか、シーピーツアーズのホームページ、「BEST! from 北海道」のメールマガジン、新聞掲載などで募集
旅行日程	<p>【1日目】</p> <p>札幌発</p> <p>プログラム①「アイスクリーム作りを体験する」（セゾンクラブ）</p> <p><昼食></p> <p>プログラム②「真冬のほうれん草を学ぶ」（ニセコ高校農業ハウス）</p> <p>◎ニセコ高校の地中熱ヒートポンプ利用による農業ハウスを見学</p> <p>◎真冬のほうれん草の収穫体験</p> <p><ホテルチェックイン></p> <p>プログラム③「地元の農家さんの夕暮れ話を聞く」（ホテル甘露の森）</p> <p>◎地元農家さんから、農業への想いや、ニセコ食材のおいしさなどを聞く</p> <p>◎野菜ソムリエから、野菜の栄養や食べ合わせなどについて聞く</p> <p>◎ホテルにて、地元食材を使った料理を味わう</p>
	<p>-----</p> <p>【2日目】</p> <p><チェックアウト></p> <p>プログラム④「越冬ジャガを掘って、味わう」（ニセコアウトドアセンター）</p> <p>◎越冬ジャガを、パウダースノーが積もった農家の畑の中から掘り出す</p> <p>◎掘った越冬ジャガを茹でたり、いももちに加工して試食する</p> <p><道の駅「ニセコビュープラザ」にて買い物></p> <p><アンケート記載&回収></p> <p>札幌着 解散</p>

ニセコで食と環境を 美味しく学ぶツアー

出発日 2013年1月25日(金) 1泊2日

- 参加費 モニター価格 **5,000 円**(宿泊・食事・体験料全て込み)
- 募集人員**25名**限定 ●添乗員同行 ●バスガイド付 ●昼食付
- 宿泊 ホテルニセコ甘露の森 ●2名様以上でお申込み下さい
- 集合場所 中央バス札幌ターミナル1階待合室受付
札幌市中央区大通東1丁目3(四季劇場隣り)
- 集合時間 **9:15(出発9:30)**

旅行日程

1日目 札幌ターミナル(9:30) == 中山峠[休憩](約15分) ==

== センクラフ[昼食・体験](約100分) == ニセコ高校農業ハウス [見学](約30分)
真狩ハーブ豚のソー/アイスクリーム作り体験 地中熱ヒートポンプ利用による画期的な農業ハ

== 甘露の森(15:30着)[地元野菜ソムリエ/地元農家さんによるニセコ野菜の話・試食付](約30分)
ニセコで取れる野菜の紹介とレシピの伝授/農家さんの生産にかける苦労話を伺って、ニセコ野菜への知識を深めます

== ホテルにて地元食材を使った夕食を堪能

2日目 ホテルチェックアウト(8:30) == 越冬ジャガイロ掘り体験[体験・試食](約180分) ==
パウダースノーが積もった農家の畑の中から掘り出し、いももちに加工して試食します

== ヒルトンニセコビルヂ[昼食](約60分) == ニセコビューフラザ[買物](約30分)

== 中山峠[休憩](約15分) == 札幌ターミナル(17:00頃)

○ポイント!

- ・ニセコ高校の農業ハウスでは、エコエネルギーを利用して高校生がほうれん草などを栽培している様子を伺います。
- ・地元農家さんや野菜ソムリエの話聞いたあと、地元野菜を使った料理を味わいます!
- ・パウダースノーの中からジャガイロを掘り出し、美味しくなったジャガイロをいももちにして味わいます!

○モニターツアーについて

- ・当ツアーは「ニセコ町たびいく地域調査等委託業務」の事業の一環として、ニセコにおける食の循環を学んで頂くという趣旨にて行います。
- ・当ツアーはモニターツアーとなっておりますので、アンケートにご協力いただける方のご参加になります。また、個人が特定できない範囲にて写真などを撮らせていただきます。

<ツアーの様子>

プログラム①「アイスクリーム作りを体験する」(セゾンクラブ)



- ・「4人での共同作業」となるため、作業を通して参加者同士の交流が深まった。「出会い」を作る演出は可能かもしれない。
- ・「学び」の要素は、比較的少ない。
- ・教育旅行向けのプログラムのため、2～4人で1ボウル。現状では個人向けにはあまり向いていない。

プログラム②「真冬のほうれん草を学ぶ」(ニセコ高校農業ハウス)



- ・高校の先生から地中熱ヒートポンプに関する専門的な話を聞くことができ、関心のある参加者は熱心に聞いていた。一方、地中熱ヒートポンプに関心の薄い参加者もあり、受け止め方に差が見られた。
- ・地元の高校生が迎えてくれたことが、好評であった。全体の講義以外に、高校生との交流の中で話を聞いたりしていた。
- ・収穫をすることができなかったため「収穫をしてみたかった」という声が聞こえた。話を聞くだけでは満足度を高めるのは難しいと感じる。
- ・花が置いてあったので、花に関心を持っていた(買いたいと思った)参加者もいた。

プログラム③「地元の農家さんの夕暮れ話を聞く」(ホテル甘露の森)



- ・野菜ソムリエである越野さんは、今回初めての話であったので、話の内容など十分発揮できていない面が見受けられた。
- ・ほうれん草を使ったスムージーづくりなど実演・試食は喜ばれた。参加者からレシピを知りたいという声が多く聞こえた。
- ・越野さん本人からは「勉強したことが伝えられて面白かった」という感想があった。頻度については現状では「1年に1回が精一杯」ということであった。
- ・農家である佐藤さんは、人前で話をするのは恥ずかしいとのことであったが、参加者からは「手間をかけてゆり根を育てる話が興味深かった」という声も聞こえた。室内ではなく、畑で話を聞くとさらに効果的かもしれない。
- ・佐藤さんの話の翌日に、ニセコビュープラザに寄った際、参加者の8割がゆり根を購入していた。

プログラム④「越冬ジャガを掘って、味わう」（ニセコアウトドアセンター）



- ・スノーシューを履いて雪の積もった畑の中を進み、ジャガイモを探して掘りおこす、という、この季節でしか味わえない、非日常的な体験を参加者の多くは楽しんでいた。
- ・その後、自ら掘ったジャガイモを使っていももちをつくり、手作りバターで焼いて食べる行程も、楽しんでいた。
- ・越冬ジャガイモについての「学び」、収穫といももちづくりという「作業体験」、いももちを食べるとい「食の体験」があり、たびいくプログラムとしてはさまざまな要素が入っていた。

③ニセコ電気自動車の旅（電気自動車を活用したたびいくツアー）

電気自動車でニセコ町を観光する小旅行型の環境たびいくツアーを約1か月間設定し、環境型ニセコたびいくプログラムの特長として、電気自動車をどのように有効活用していくかを検証するための実証実験を行いました。

実施期間	2013年1月～2月
参加者	6件
募集方法	ヒルトンニセコビレッジのホームページ ヒルトンニセコビレッジのフロントにて案内
内容など	電気自動車（日産「リーフ」）と充電スタンド（普通充電器）1台を、ヒルトンニセコビレッジに配備し、宿泊者に利用してもらった。 <ツアー参加の手順> ①電話あるいはフロントにて、ツアーの予約をしてもらう。（1日1組） ②ツアー参加者には、ドライブマップの配布と町内で利用できるクーポン券をプレゼントする。 ③ツアー終了後、アンケートに記載をしてもらう。

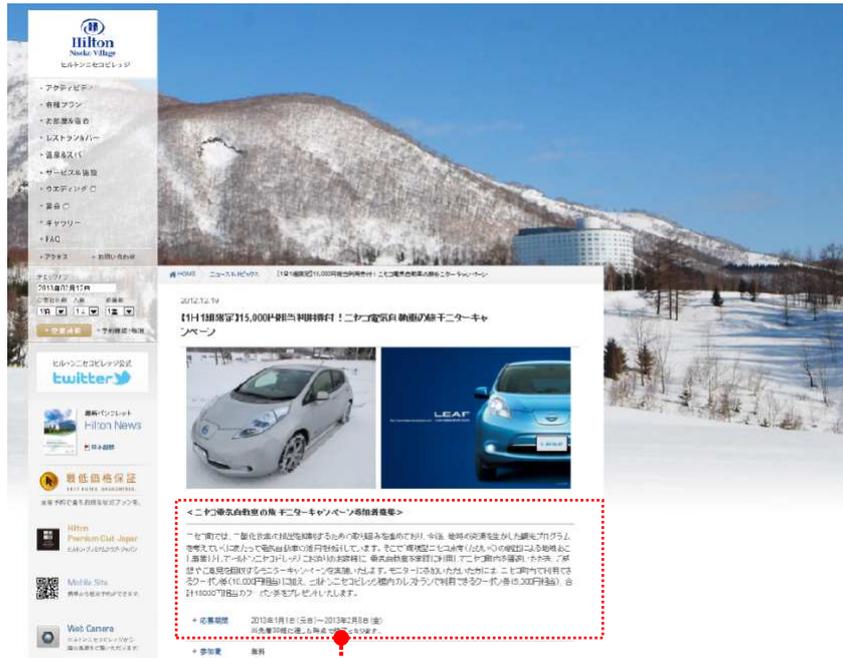
使用した電気自動車



充電スタンド（普通充電器）



応募の内容(ヒルトンニセコビレッジのホームページより)



＜ニセコ電気自動車の旅 モニターキャンペーン参加者募集＞
 ニセコ町では、二酸化炭素の排出を抑制するための取り組みを進めており、今後、地域の資源を生かした観光プログラムを考えていくにあたって電気自動車の活用を検討しています。
 そこで「環境型ニセコ旅育(たびいく)の創出による地域おこし事業」としてヒルトンニセコビレッジにお泊りのお客様に、電気自動車を実際に利用してニセコ町内を周遊いただき、ご感想やご意見を回収するモニターキャンペーンを実施いたします。
 モニターに参加いただいた方には、ニセコ町内で利用できるクーポン券(10,000円相当)に加え、ヒルトンニセコビレッジ館内のレストランで利用できるクーポン券(5,000円相当)、合計15,000円相当のクーポン券をプレゼントいたします。
 応募期間：2013年1月4日(金)～2013年2月8日(金) ※先着30組に達した時点で終了となります。

ドライブクーポン券

<p>Nis-eco[ニセコ] ドライブクーポン券</p> <p style="text-align: right;">No. 001</p> <p>発行日： 年 月 日 (※発行日のみ有効)</p> <p>※ 1店につき2,000円までしかご利用になれません(お釣りはできません)</p> <p>※ 未使用でも返金はございません</p> <p>＜クーポン券利用可能店＞</p> <table border="0"> <tr> <td>[] ①エフェフ</td> <td>[] ⑨SEED</td> </tr> <tr> <td>[] ②プラティーボ</td> <td>[] ⑩道の駅ニセコエュープラザ</td> </tr> <tr> <td>[] ③広州屋台</td> <td>[] ⑪ミルク工房</td> </tr> <tr> <td>[] ④ウレシバ</td> <td>[] ⑫ニセコロマージュ</td> </tr> <tr> <td>[] ⑤カフェメープル</td> <td>[] ⑬ニセコチーズ工房</td> </tr> <tr> <td>[] ⑥ M's カフェ</td> <td>[] ⑭ニセコの風</td> </tr> <tr> <td>[] ⑦ 茶房ヌプリ</td> <td>[] ⑮ Fanfun</td> </tr> <tr> <td>[] ⑧高野珈琲店</td> <td></td> </tr> </table> <p>※ クーポン券は切り離さず、そのままレジへお渡し下さい ※ お店の方は表にチェックを入れてください</p> <p>[発行:株式会社 ニセコリゾート観光協会]</p>		[] ①エフェフ	[] ⑨SEED	[] ②プラティーボ	[] ⑩道の駅ニセコエュープラザ	[] ③広州屋台	[] ⑪ミルク工房	[] ④ウレシバ	[] ⑫ニセコロマージュ	[] ⑤カフェメープル	[] ⑬ニセコチーズ工房	[] ⑥ M's カフェ	[] ⑭ニセコの風	[] ⑦ 茶房ヌプリ	[] ⑮ Fanfun	[] ⑧高野珈琲店		<p>Nis-ecoドライブクーポン券 001 1,000円券 ※切り離し無効</p>
[] ①エフェフ	[] ⑨SEED																	
[] ②プラティーボ	[] ⑩道の駅ニセコエュープラザ																	
[] ③広州屋台	[] ⑪ミルク工房																	
[] ④ウレシバ	[] ⑫ニセコロマージュ																	
[] ⑤カフェメープル	[] ⑬ニセコチーズ工房																	
[] ⑥ M's カフェ	[] ⑭ニセコの風																	
[] ⑦ 茶房ヌプリ	[] ⑮ Fanfun																	
[] ⑧高野珈琲店																		

ドライブマップ

Nis-eco[ニセコ]ドライバーズポイント利用可能店舗

①エフエフ (手作りソーセージ 食事・販売) ☎0136-58-3162 定休:火・水 年末年始:12/28～1/3 休 営9～17時 食事は土日祝のみ(11～15時)	②PRATIVO (地場野菜を使ったイタリアン) ☎0136-55-8852 定休:なし 年末年始:1/1 休、4日後のみ休 営11:30～15:30、17:30～21:00	③中華レストラン 広州屋台 (バイコルー麵、あんかけ焼きそば) ☎0136-43-2756 定休:水 年末年始:12/31～1/3 休 営11:30～14:00、17:30～20:00
④ファーマーズダイニング U-respa (とんかつ、地場産米) ☎0136-44-3700 定休:火 年末年始:12/30～1/4 休 営11:30～14:30、17:30時～19:30	⑤カフェ マーブル (自家製スイーツ、自家焙煎コーヒー) ☎0136-44-3380 定休:水・木 年末年始:1/1 休 営11:30～17:00	⑥M's Cafe (自家製スイーツ、自家焙煎コーヒー) ☎0136-44-3380 定休:木 年末年始:12/31～1/3 休 営10:00～16:00
⑦茶房 ヌプリ (「黒い」カレー) ☎0136-44-2619 定休:水 年末年始:12/31～1/10 休 営11:00～19:00 ※1/2は営業	⑧高野珈琲店 (自家焙煎コーヒー) ☎0136-44-1620 定休:火・水 年末年始:12/31～1/4 休 営10:00～18:00 (販売～19:00)	⑨SEED BAGEL&COFFEE (ベーグル) ☎0136-55-5331 定休:日・月 年末年始:12/28-1/3 休 営12:00～18:00
⑩道の駅ニセコビュープラザ (地場産品) ☎0136-43-2051 定休:なし ※クーポン券は情報機のみ使用可 営9:00～18:00	⑪ニセコミルク工房 (アイスクリーム、シュークリーム) ☎0136-44-3734 定休:なし 年末年始:12/31～1/1 休 営9:30～17:30	⑫ニセコフロマージュ (カンパニールチーズ) ☎0136-44-3471 定休:水・木 年末年始:1/1～3 休 営10:00～17:00
⑬ニセコチーズ工房 (空(ブルーチーズ)) ☎0136-44-2188 定休:火・水 年末年始:12/28～1/4 休 営10:00～16:00	⑭とんぼ玉工房ニセコの風 (とんぼ玉製作体験) ☎0136-44-1768 定休:なし 年末年始:12/31～1/1 休 営9:30～18:00	⑮fanfun (革細工制作体験) ☎050-7551-2688 定休:火 年末年始:定休日あり 営10:00～17:00

「緊急時の連絡先」

- ◆平日
ニセコ町企画企画課 ☎0136-44-2121 (8:40～17:15)
 - ◆上記時間外、土日祝
A1J 保険自動車事故センター ☎0120-30-9016 (通話料無料・365日・24時間)
 - ◆レッカー等の連絡先
札幌日産自動車株式会社 保安安心 ☎0136-22-0550
または JAF ロードサービス救急コール
車・バイクの故障、トラブルの受付
ロードサービス救急コール
全国共通・年中無休・24時間 ☎0570-00-8139
- 通話料は有料(固定電話は1分/10円、携帯電話は20分/10円)。ただし、PHSと一部のIP電話等からはご利用になれません。
※携帯電話からおかけの場合
基本使用料に含まれる無料通話分の対象とはなりません。
または、短縮ダイヤル 88139
上記ナビダイヤル及び短縮ダイヤルがご利用にならない場合は北海道コールセンター 011-857-8139

1,400円で3カ所の湯に入る
「湯めぐりパス」
 が絶対お得!

ニセコエリアの16施設で利用できます(マップに掲載しているすべての温泉施設で利用できます)。
 パスは、各温泉施設で販売しています。
 有効期間 180日

本マップは「ニセコ町たびよく地域調査委託業務」の事業の一環として制作しています
 事業受託:株式会社JTB北海道 制作:株式会社ニセコリゾート観光協会



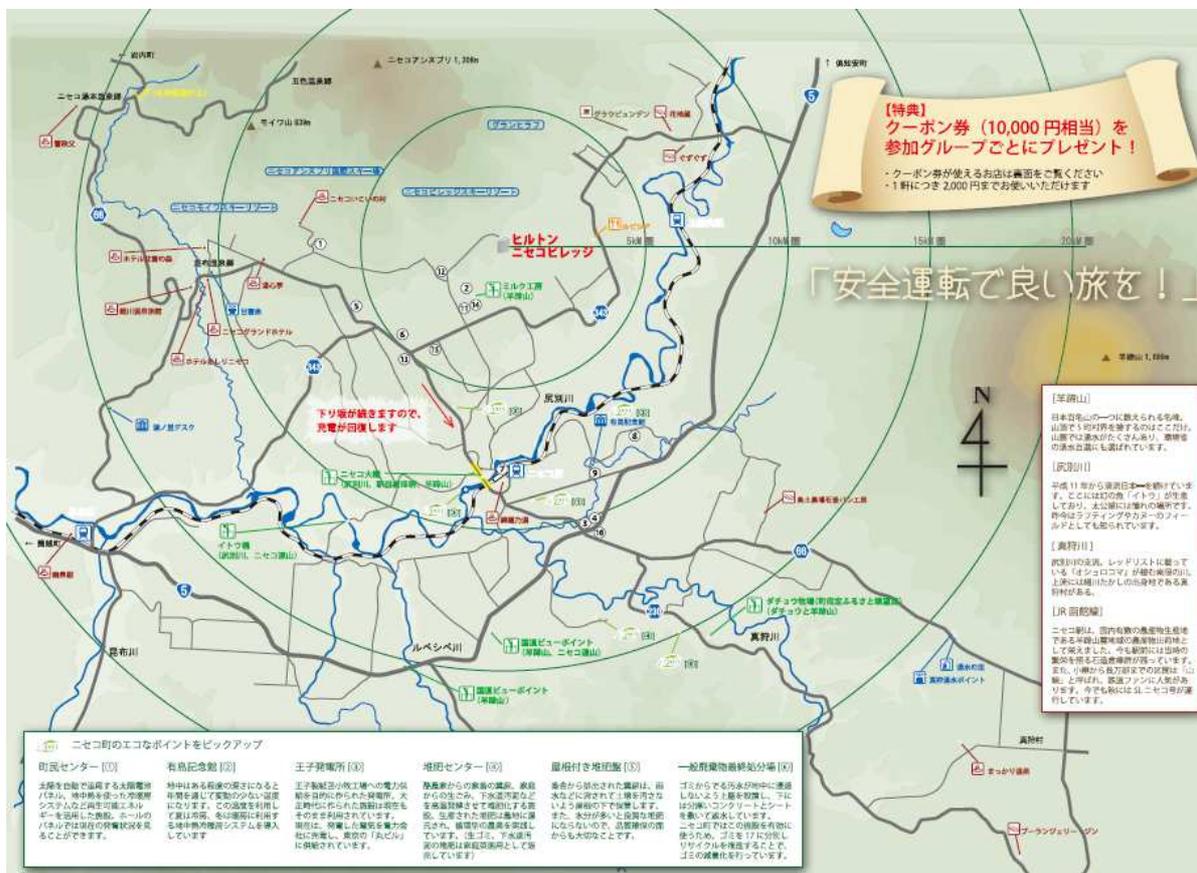
ニセコは「食」と「温泉」の宝庫
 せっかくの休日だから時間を気にせず楽しみたい
 EVなら交通機関の時刻を気にすることなく、ニセコを満喫できます

【発着】 ヒルトンニセコビレッジ ☎0136-44-1111

「ニセコを満喫ドライブコース」

- ニセコらしい風景をたながら地元のおいしいものを食べる
- 湯ノ里デスク**
 11km (約20分)
 商校を利用した木工品の工房。木の臭い香りを大切にされた作品が魅力。学校の職員室がそのままラビーになっていて、その当時の空気感が今でも感じられます。
 - 甘霧泉**
 3km (約5分)
 ニセコアンズリ山麓の湧き。畑と田舎が広がるニセコブランドホテルに併設された。趣がみになり「甘霧」と言われたか(真偽のほどは不明)。
 - ニセコミルク工房⑪・PRATIVO②**
 6km (約10分)
 自らの牧場で搾った牛乳を使ったアイスクリームの味は絶品。シュークリーム、ロールケーキはここで売ってない。敷地内にはニセコ産のアイスクリームが人気のレストランを併設。
 - fanfun⑮**
 1.5km (約3分)
 誰でも簡単に素敵な革製のアクセサリが作れる。作品は日常的に持ち歩くほどの完成品が楽しめる。ハダは、各温泉施設で販売しています。
 - ダチョウ牧場**
 9km (約12分)
 ニセコ町指定する「ふるさと特産品」でもあるダチョウ牧場。ダチョウは海外と比べて大きく育ちやすい。養鶏は羊飼。牛と同居するダチョウの風景は他では見られない。
 - 道の駅ニセコビュープラザ⑩**
 4km (約6分)
 ニセコビュープラザは、道内トップテンに入る人気の道の駅。野菜直売所、地場産品の品揃えが豊富な特産品売場、地場産品を使った軽食コーナーがある。
 - ホテルへ**
 8.5km (約13分)
- 大湯沼・国民宿舎雪杖交**
 15km (約23分)
 大湯沼の湧きがアクアと湧き上がる大湯沼。水鏡に映った山並みは、雪杖交の湧き水に由来する。国民宿舎雪杖交はこの湧き水に由来する。たくさんの露天風呂が自慢。

- 鱒川温泉旅館**
 7km (約11分)
 鱒川温泉にある昔ながらの旅館が誇る温泉旅館。風呂へ向かう下り階段を歩くだけで湯気があふかたうららかに感じる。露天風呂は目の前に滝が流れ落ちており、自然の中でじっくり楽しめる。
- エフエフ①**
 2km (約5分)
 本場ドイツの味を再現したソーセージの店。素材を吟味し、保存料など化学調味料は一切使っていない。レストランも併設。その味が特徴的。
- ニセコ大橋**
 6km (約9分)
 ニセコの自然に染まる色は「黄色」。そんな橋が今も残ったニセコ大橋。ここからはニセコ山系や羊飼山、尻別川や鱒川を望むことができる。朝日赤い橋を眺めよう。
- 有島記念館**
 2.5km (約5分)
 有島静江は「相互扶助」掲げ、ニセコに所有していた農場を解放しし作られた。記念館で展示されている。これはその足跡。作家として活躍した作品などの資料を展示している。
- 鱒川乃湯・ニセコ駅周辺**
 3km (約6分)
 ニセコ駅周辺には石炭倉庫やバス停留所など歴史的な建造物がある。お湯につかりながら地元の人と交流するの楽しみ。
- ホテルへ**
 6km (約11分)



ニセコ電気自動車の旅 モニター参加者の皆様へ

安全のしおり

重要事項が記載されています。ご出発前にお読みください。

補償制度

事故を起こさないように、安全運転をお願い致します。万一の為に、ニセコ町の車両には下記金額を限度として補償制度をご用意しております。但し、補償額を上回る賠償はお客様のご負担となります。

※警察発行の事故証明が無い場合(発行してもらえない場合)は適用されません。

※後席シートベルトの着用も義務付けられました。着用中は必ずご着用ください。

- 対人補償／1人につき無制限 (免責額1万円未満)
- 対物補償／1人につき無制限 (免責額1万円未満)
- 車両保険／1事故につき43.5万円 (免責額1万円未満)
- 人身傷害補償／無制限
- 搭乗者傷害／1人につき1000万円

事故時のお客様ご負担について

下記の事項に該当する事故のとき(又はこれらに類する場合も含む)の事故損害及び修理費は全額お客様のご負担となりますのでご注意ください。

- 当町の警約書に違反して発生した事故のとき。
 - 保険約款の免責事項に該当する事故のとき。
 - 警察署への事故届出を怠ったとき。
 - 当町へ速やかな連絡を怠ったとき。
 - 契約者以外の運転者による事故のとき。
 - 契約時間を無断で延長したとき。
 - 当町へ無断で相手方と示談したとき。
 - 無免許・飲酒運転のとき。
 - 保険補償限度額を超える損害のとき。
 - パンク修理費及びお客様の不注意、使用限度を超える酷使による不具合の修理は、お客様のご負担。
 - 維持・管理された道路以外での事故・損害のとき。
- ※借受人(運転者を含む)には法律上の損害賠償責任が発生します。

ノンオペレーションチャージについて

車両を借受け中に万が一事故を起こされ車両に損傷を与えた場合、または、電欠を起こされ車両のレッカーが必要な場合の営業補償の一部として下記のノンオペレーションチャージを申し受けます。

区分	金額
返却場所へ返車された場合(自走可能な場合)	20,000円
返却場所へ返車されなかった場合(自走不能の場合)	50,000円

違法駐車はやめましょう

万一駐車違反の取締りを受けた運転手の方は、速やかに所轄の警察署に出頭し、所定の手続きを完了してください。

充電について

万一の電欠を回避するために、バッテリー残量にご注意ください。バッテリー残量計が残り3メーターまで減った場合は、速やかに返却場所へお戻りください。



緊急時のご連絡先

- 平日(8:40~17:15)
ニセコ町交番企画環境課 TEL 0136-44-2121
- 上記時間外、土日祝(通話料無料・365日・24時間)
AIU 保険自動車事故センター TEL 0120-30-9016
- レッカー等のご連絡先
札幌日産自動車株式会社俱知安店 TEL 0135-22-0550
JAF ロードサービス救援コール TEL 0570-00-8139
(全国共通・年中無休・24時間)

通話料は有料(固定電話は1分が0円、携帯電話は30秒が10円)。ただし、PHSと一部のIP電話等からはご利用になれません。

※携帯電話からおかけの場合
基本使用料に合まれる無料通信分の対象とはなりません。
または、短縮ダイヤル #8139
上記ナビダイヤル及び短縮ダイヤルがご利用にならない場合は北海道コールセンター 011-867-8139

(2) アンケート結果 [共通設問]

(性別)

- 「地産地消の旅」は『女性限定、男性同伴可』という条件で募集したことから、20人中19人(95%)が「女性」です。「食と環境を美味しく学ぶツアー」は25人中9人(36.0%)が「男性」、16人(64%)が「女性」です。「電気自動車の旅」は男性5人(83.3%)、女性1人(1.7%)です。

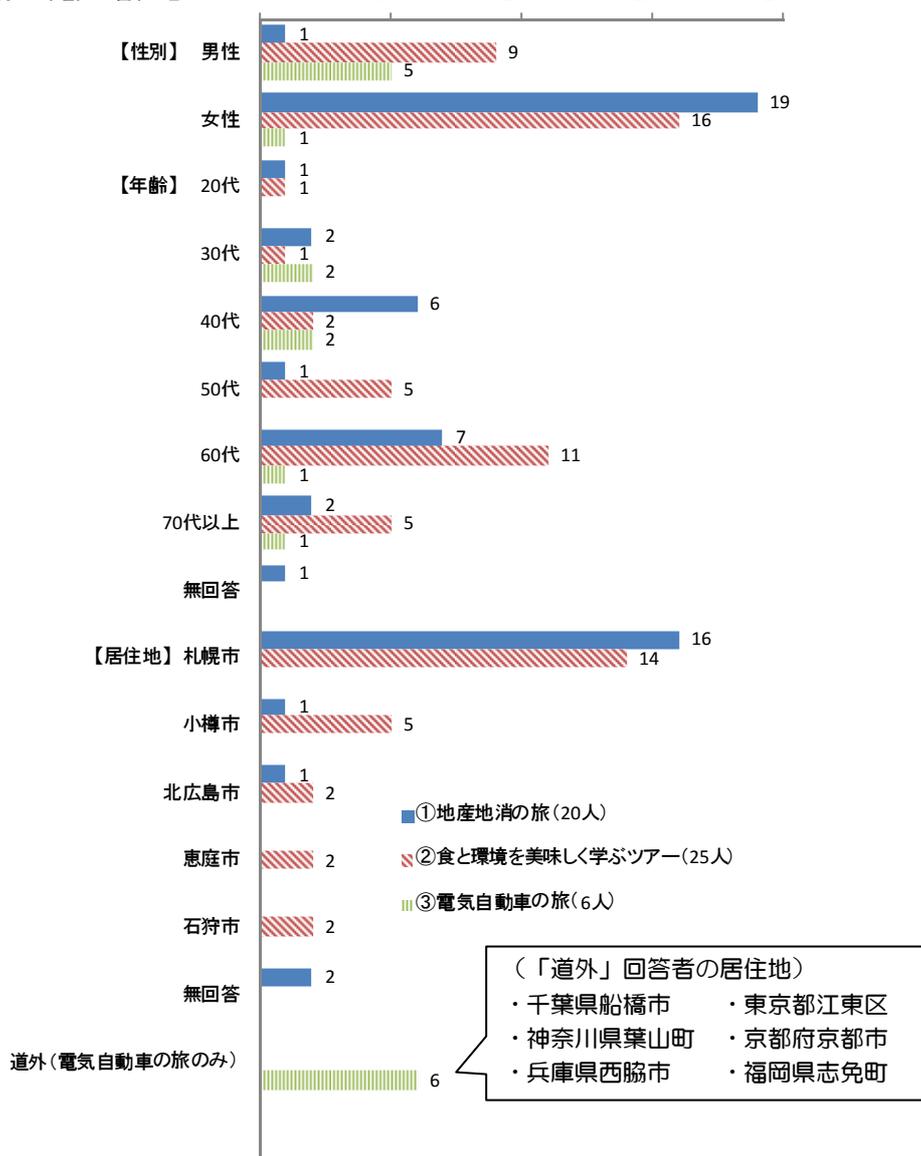
(年齢)

- 「地産地消の旅」は「60代」が最も多く、「40代」が続きます。「食と環境を美味しく学ぶツアー」も「60代」が最も多く、「50代」と「70代」が続きます。「電気自動車の旅」は「30代」「40代」が各2人、「60代」「70代」が各1人です。

(居住地)

- 「地産地消の旅」「食と環境を美味しく学ぶツアー」ともに「札幌市」が最多です。「電気自動車の旅」はすべて道外の方で、関東が3人、関西が2人、九州が1人です。

回答者の性別・年齢・居住地

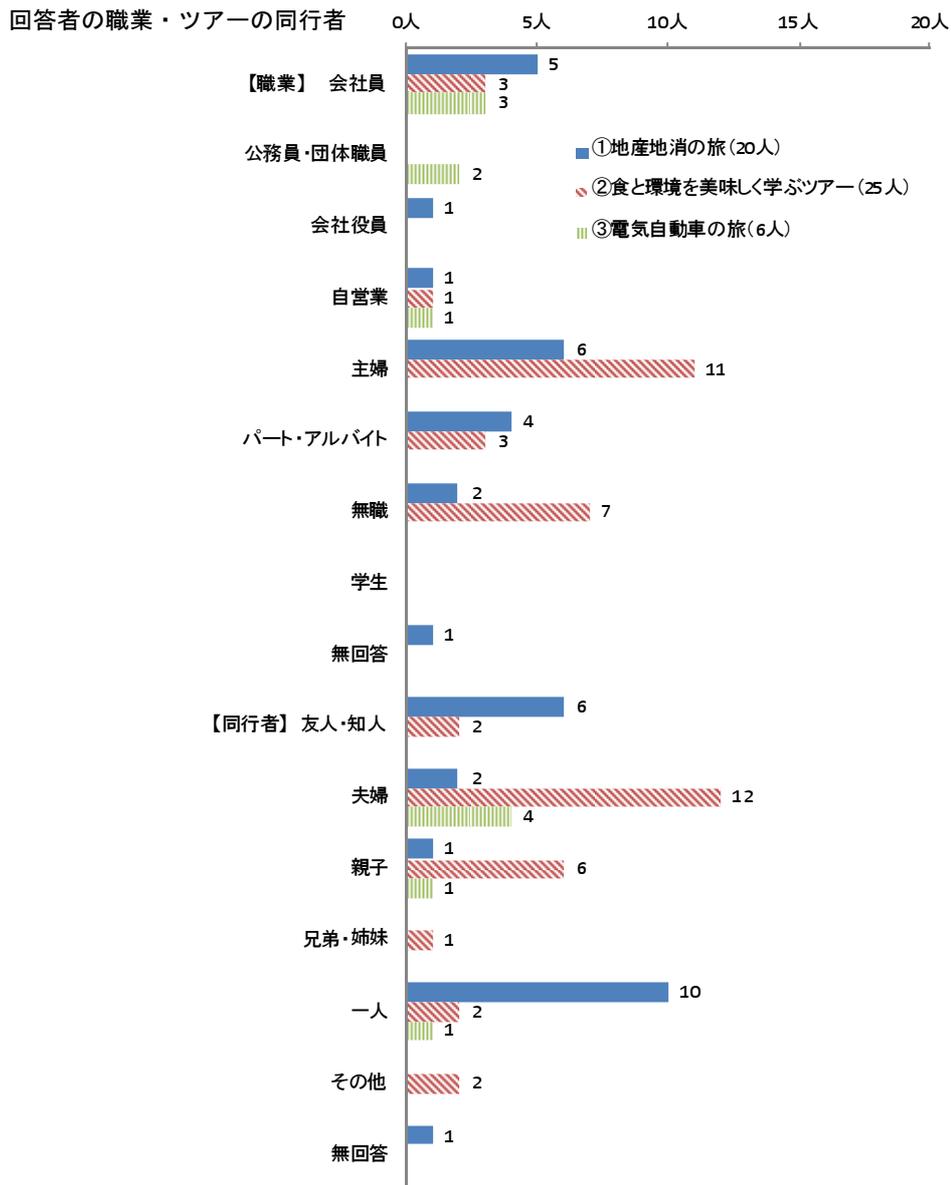


(職業)

- 「地産地消の旅」は「主婦」が最も多く、「会社員」「パート・アルバイト」が続きます。「食と環境を美味しく学ぶツアー」も「主婦」が最も多く、「無職」が続きます。「電気自動車の旅」は「会社員」が3人、「公務員・団体職員」が2人、「自営業」が1人です。

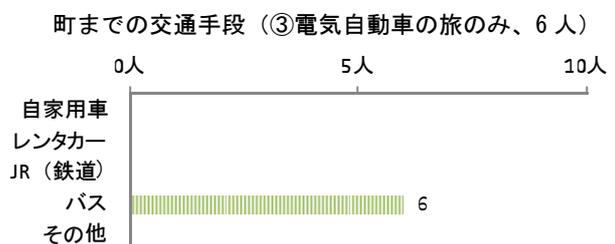
(ツアーの同行者)

- 「地産地消の旅」は「1人」での参加が最も多く、「知人・友人」が続きます。「食と環境を美味しく学ぶツアー」は「夫婦」での参加が最も多く、「親子」が続きます。「電気自動車の旅」は「夫婦」が4人で最も多く、「親子」「一人」が各1人です。



(ニセコ町までの (直前の) 交通手段/③電気自動車の旅のみ)

- すべての回答者が「バス」でニセコ町まで来ています。



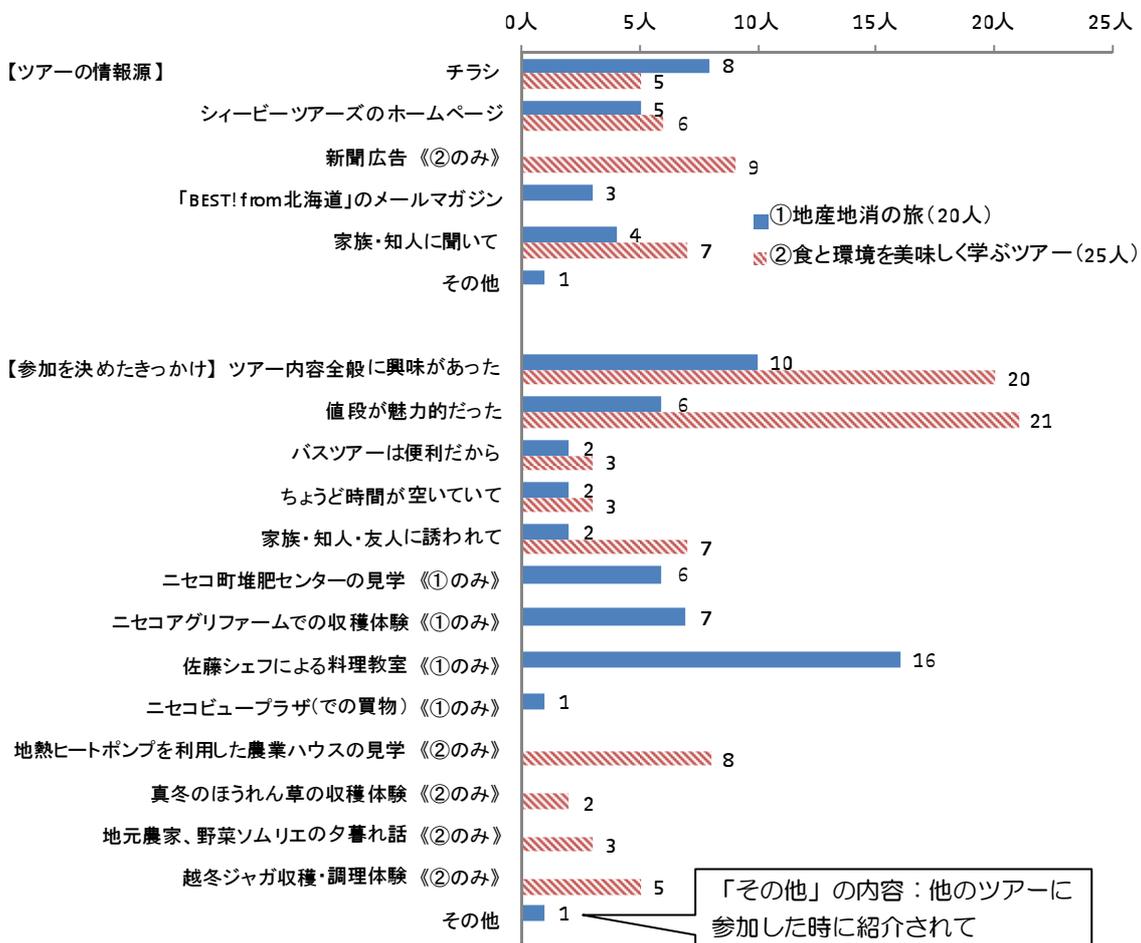
(ツアーの情報源/①地産地消の旅・②食と環境を美味しく学ぶツアーのみ)

- 「地産地消の旅」は「チラシ」が最も多く、「シービーツアーズのホームページ」「家族・知人に聞いて」「BEST! from 北海道のメールマガジン」と続きます。「食と環境を美味しく学ぶツアー」は「新聞広告」が最も多く、「家族・知人に聞いて」「シービーツアーズのホームページ」「チラシ」と続きます。

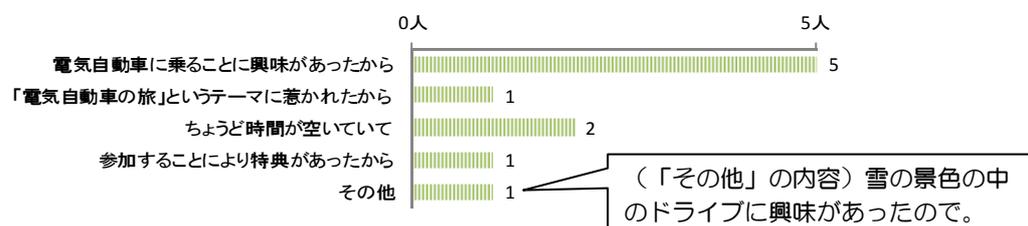
(参加を決めた理由)

- 「地産地消の旅」は「佐藤シェフによる料理教室に興味があった」が最も多く、「ツアー内容全般に興味があった」が続きます。「食と環境を美味しく学ぶツアー」は「値段が魅力的だった」が最も多く、「ツアー内容全般に興味があった」が僅差で続きます。「電気自動車の旅」は「電気自動車に乗ることに興味があったから」が最多です。

ツアーの情報源、参加をきめたきっかけ (①地産地消の旅・②食と環境を美味しく学ぶツアーのみ)

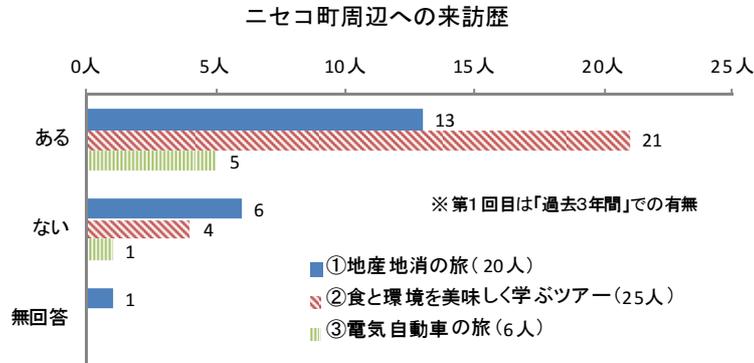


参加をきめたきっかけ (③電気自動車の旅、6人)



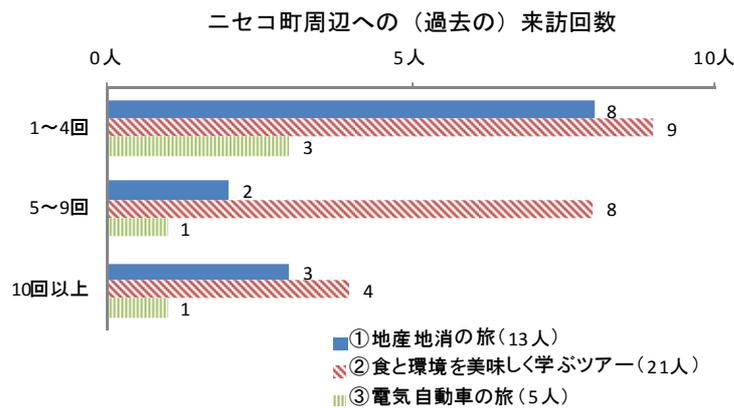
(これまでの、ニセコ町周辺への来訪歴)

- 「地産地消の旅」は、「ある」が20人中13人と65%を占めます。「食と環境を美味しく学ぶツアー」は、「ある」が25人中21人と84%を占めます。「電気自動車の旅」は6人中5人が「ある」と回答しています。



(「来訪歴がある」と回答した人の、ニセコ町周辺への(過去の)来訪回数)

- ニセコ町周辺に来たことがある人の回数は、「地産地消の旅」「食と環境を美味しく学ぶツアー」「電気自動車の旅」ともに「1～4回」が最多です。



(「来訪歴がある」と回答した人が行った町内やその周辺の場所、目的)

- 「温泉」や「スキー場」、「ビュープラザ」などが多くあげられています。

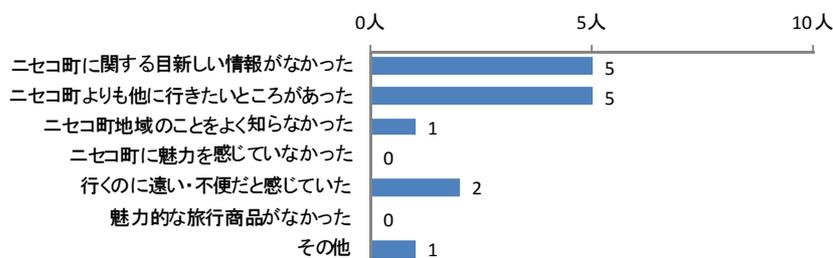
※()の中の数字は複数回答数

温泉、宿泊	・温泉(9) ・いこいの村(3) ・昆布温泉(2) ・ニセコヒラフ(2) ・東山プリンス ・ニセコヒルトン ・五色温泉
道の駅、店	・ビュープラザ(5) ・チーズ工房 ・楽一 ・高野珈琲 ・ミルク工房 ・プラティエヴォ
スキー場	・スキー場(9) ・ニセコアンヌプリスキー場(2) ・ヒルトンにスキー
ゴルフ場	・ゴルフ場 ・ニセコビレッジゴルフコース(2) ・ニセコ東急ゴルフコース(2)
ラフティング	・ラフティング(3)
山、沼	・登山 ・山めぐり ・沼めぐり(3) ・アンヌプリ(2) ・ロープウェイ(2) ・羊蹄山 ・イワオヌプリ登山
ドライブ	・紅葉ドライブ(2) ・紅葉観光 ・パノラマライン(紅葉)
その他	・有島記念館 ・甘露泉 ・真狩村(2) ・真狩フラワーセンター(2)

(ニセコに観光で訪れたことがない人の理由/①地産地消の旅のみ)

- 「ニセコ町に関する目新しい情報がなかったから」と「ニセコ町よりも他に行きたいところがあったから」が同数で最も多くなっています。

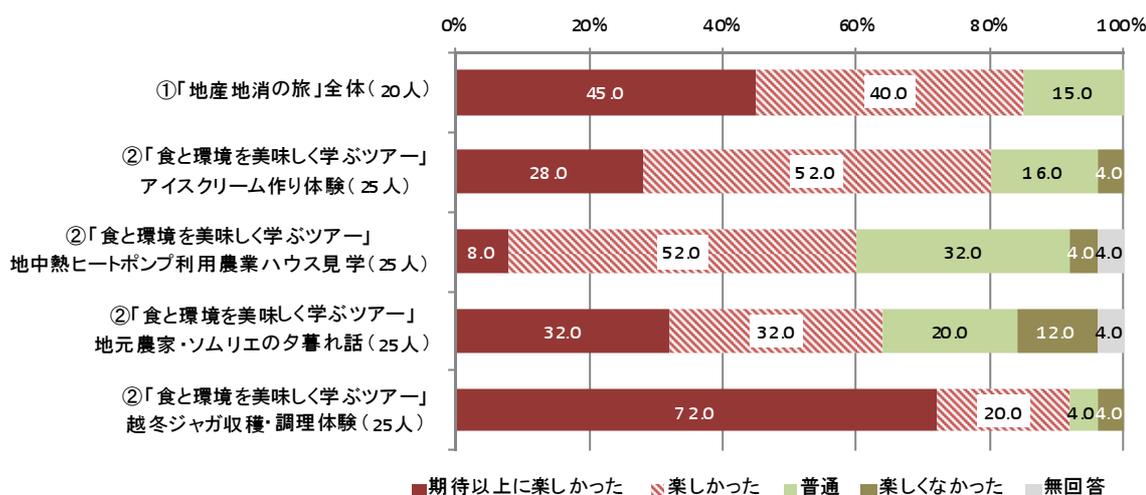
ニセコに観光で訪れたことがない人の理由 (①地産地消の旅のみ、20人)



(参加の感想/①地産地消の旅・②食と環境を美味しく学ぶツアーのみ)

- 「地産地消の旅」はツアー全体に対する感想を尋ねたところ、「期待以上に楽しかった」が最も多く、「楽しかった」とあわせると、8割以上が“楽しかった”と回答しています。
- 「食と環境を美味しく学ぶツアー」は個々のプログラムについて尋ねたところ、「越冬ジャガ収穫・調理体験体験」は「期待以上に楽しかった」が7割以上を占め、満足度が高くなっています。「アイスクリーム作り体験」と「地中熱ヒートポンプ利用農業ハウス見学」は約半数が「楽しかった」で、「期待以上に楽しかった」と合わせると、「アイスクリーム作り体験」で8割、「地中熱ヒートポンプ利用農業ハウス見学」は6割が“楽しい”と評価しています。「地元農家・ソムリエの夕暮れ話」は「期待以上に楽しかった」「楽しかった」がそれぞれ3分の1を占めます。

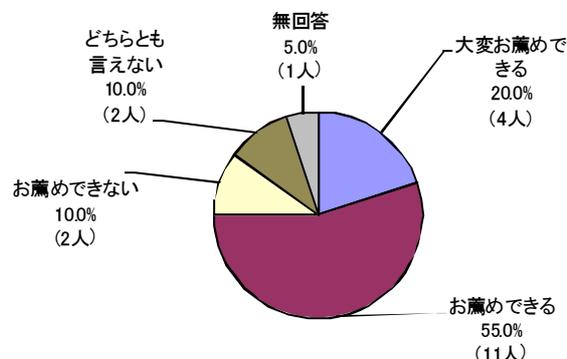
参加の感想 (①地産地消の旅・②食と環境を美味しく学ぶツアーのみ)



(友人・知人へのお薦め度/①地産地消の旅のみ)

- 今後同様のツアーがあった場合に友人・知人にお薦めできますか、という問いに対しては、「お薦めできる」が最も多く、「大変お薦めできる」が続きます。

友人・知人へのお薦め度 (①地産地消の旅のみ、20人)



(それぞれの選択肢を選んだ理由)

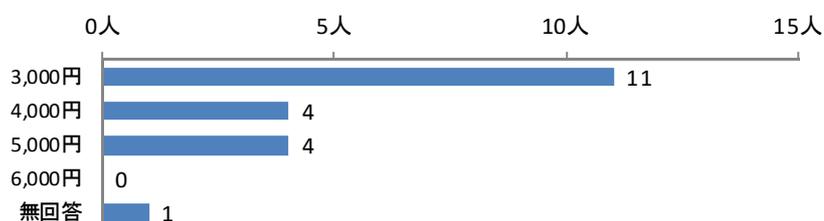
※ () 中の数字は複数回答数

大変お薦めできる	<ul style="list-style-type: none"> ・ニセコは町長はじめ良い所だらけだった。(60代女性、主婦) ・企画内容がとても良かった。(70代以上女性、主婦) ・環境に取り組んでいて地球に優しいところがすごいと思いました。(20代女性、パート・アルバイト) ・日常の生活意識が向上した。(60代女性、主婦)
お薦めできる	<ul style="list-style-type: none"> ・時間的な配分が予定とズレたけど、「土からスタートして、土に返す」テーマがとても良かった。(50代女性、パート・アルバイト) ・自分の知らない地域の活動や取り組みを知る事ができたから。(40代女性、パート・アルバイト) ・体験型で楽しめる企画だったから。(30代女性、会社員) ・収穫体験と料理教室が楽しかった。(60代女性、主婦) ・季節が良かった。(60代女性、主婦) ・エコの取り組みの話が聞いたのがすばらしかった。多くの人に知ってほしい。(60代女性、無職) ・今回の趣旨に申し訳ありませんが堆肥センターの動機付けが弱く、本当は大切なことだとは理解しますが、お金を払っていくのはちょっと…他は大変よかった。(40代女性、会社員) ・地産地消の料理(60代女性、主婦)
お薦めできない	<ul style="list-style-type: none"> ・昼食の時間が遅すぎた。堆肥センター見学は午前と午後の2回でなく1回でよい。食後すぐの訪問はいただけない。(40代女性、自営業)
どちらとも言えない	<ul style="list-style-type: none"> ・料理のメニューを2・3品にして料理教室の時間を短縮して欲しい。堆肥センターは大変素晴らしかったがニオイが少々気になりました。収穫体験は楽しかった。(40代女性、会社員) ・全般的には満足ですが、時間の都合上か昼食が遅すぎるため。(30代女性、会社役員)

(商品化した場合の金額/「①地産地消の旅」全体)

- 「地産地消の旅」は、「3,000円」が最も多く、「4,000円」と「5,000円」が同率で続きます。

商品化した場合の金額 (①地産地消の旅、20人)



(商品化した場合の金額/「②食と環境を美味しく学ぶツアー」のプログラムごと)

- 「食と環境を美味しく学ぶツアー」のうち、「アイスクリーム作り体験」は1,000円から1,500円までの値段を示した人の割合が高くなっています。

「アイスクリーム作り体験」を商品化した場合の金額 (24人)

回答者数	500円未満	500円以上1,000円未満					1,000円以上1,500円未満					1,500円以上2,000円未満				2,500円以上2,400円未満					
		500	600	700	800	900	1,000	1,100	1,200	1,300	1,400	1,500	1,600	1,700	1,800	1,900	2,000	2,100	2,200	2,300	2,400
1																					
2	■																				
3		■																			
4		■																			
5		■	■																		
6		■	■	■																	
7		■	■	■	■																
8		■	■	■	■	■															
9																					
10																					
11		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
12																					
13																					
14																					
15																					
16																					
17																					
18																					
19																					
20																					
21																					
22																					
23																					
24																					

■：記載されていた価格帯
例：※「500円から1,000円」と記載された場合、500円から1,000円までの価格帯を■にしています。

- 「地中熱ヒートポンプ利用による農業ハウス見学（真冬のほうれん草の収穫体験）」は、ほうれん草の収穫体験が行えなかったこともあり、「0円」の記載も3人いたほか、500円未満の値段を示した人の割合が高くなっています。

「地中熱ヒートポンプ利用による農業ハウス見学」を商品化した場合の金額（20人）

回答者数	500円未満	500円以上 1,000円未満					1,000円以上 1,500円未満					1,500円以上 2,000円未満					2,500円以上 2,400円未満				
		500	600	700	800	900	1,000	1,100	1,200	1,300	1,400	1,500	1,600	1,700	1,800	1,900	2,000	2,100	2,200	2,300	2,400
1																					
2																					
3																					
4																					
5																					
6																					
7																					
8																					
9																					
10																					
11																					
12																					
13																					
14																					
15																					
16																					
17																					
18																					
19																					
20																					

3人が「0円」と記載

- 「越冬ジャガ収穫・調理体験」は、1,000円から2,000円までの値段を示した人の割合が高くなっています。

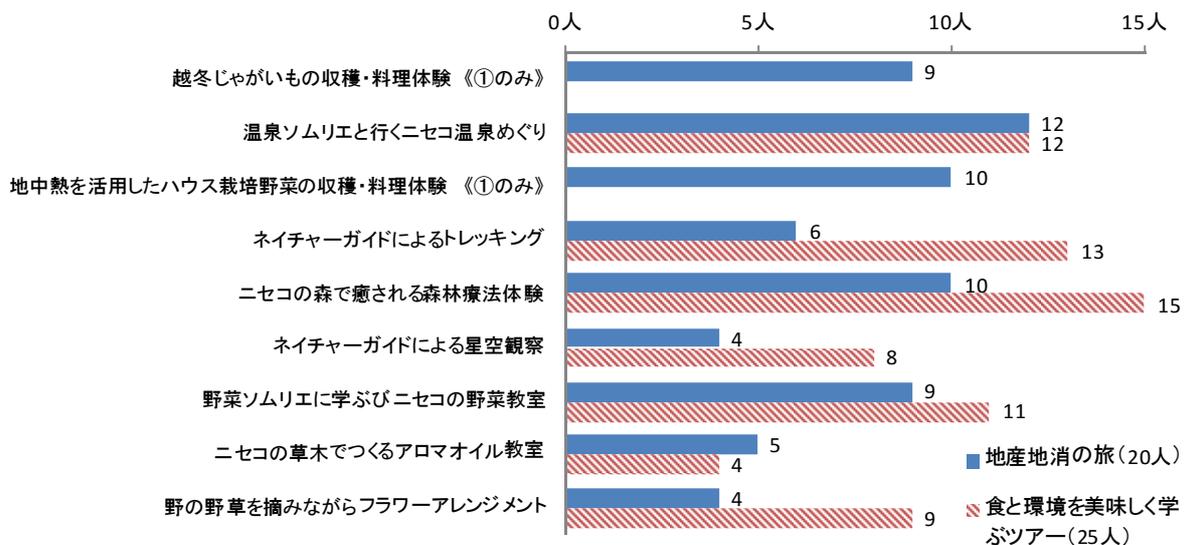
「越冬ジャガ収穫・調理体験」を商品化した場合の金額（23人）

回答者数	500円未満	500円以上 1,000円未満					1,000円以上 1,500円未満					1,500円以上 2,000円未満					2,500円以上 2,400円未満				
		500	600	700	800	900	1,000	1,100	1,200	1,300	1,400	1,500	1,600	1,700	1,800	1,900	2,000	2,100	2,200	2,300	2,400
1																					
2																					
3																					
4																					
5																					
6																					
7																					
8																					
9																					
10																					
11																					
12																					
13																					
14																					
15																					
16																					
17																					
18																					
19																					
20																					
21																					
22																					
23																					

(今後参加してみたいニセコで行う「たびいくプログラム」/①地産地消の旅・②食と環境を美味しく学ぶツアーのみ)

- 「地産地消の旅」は、「温泉ソムリエと行くニセコ温泉めぐり」が最も多く、「地中熱を活用したハウス栽培野菜の収穫・料理体験」と「ニセコの森で癒される森林療法体験」が同数で続きます。
- 「食と環境を美味しく学ぶツアー」は、「ニセコの森で癒される森林療法体験」が最も多く、「ネイチャーガイドによるトレッキング」、「温泉ソムリエと行くニセコ温泉めぐり」が続きます。

今後参加してみたい「たびいくプログラム」(①地産地消の旅・②食と環境を美味しく学ぶツアーのみ)



(選択肢以外で、あったらいいと思うプログラム/②食と環境を美味しく学ぶツアーのみ)

- 上記選択肢以外に、あったらいいなと思う内容を尋ねたところ、自然を楽しむアウトドア体験に関する内容が多くみられました。また、「自然」と「食(野外クッキング)」、「自然」と「学び(写真撮影教室、野草の勉強など)」など、要素を組み合わせたプログラムの提案もありました。

※()の中の数字は複数回答数

乗り物	・サイクリングツアー(2) ・乗馬(2) ・ラフティング
自然を楽しむ	・山菜採りツアー(3) ・自然写真撮影ツアー ・あまり行かない見どころウォーキング ・雪の体験、雪の中のハイキング、雪像を作ってみようとか。 ・かんじきトレッキング(スノーシューではなく) ・溪流釣りの体験
食 農業関係	・牛の乳搾り ・バターづくり ・そば作り体験 ・山菜、キノコの料理(採集でなくてもよい) ・簡単な野菜料理を作ったの食事(昼食として)
複合	・羊蹄山を楽しむ(温泉に入り、バードウォッチングしたり歩いたり、森林浴したりして一周する) ・農家さんに、家庭菜園における土作り、育成方法などを学びながらの収穫体験、その後、調理や試食など。 ・ウォーキングしながら野草の勉強をしてみたい ・羊蹄山を望みながら野外クッキング、写真教室など ・農作業体験+食+温泉
その他	・ニセコめぐりツアー。美術館など ・自然を活かした花と緑、ガーデニングの観光ポイントめぐり

(宿泊先で聞いてみたい話、プログラム/②食と環境を美味しく学ぶツアーのみ)

- 今回のプログラムのテーマが野菜であったことから、野菜に関するプログラムを希望する内容が多くみられました。

※ () の中の数字は複数回答数

<p>食 農業関係</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の調理レシピの紹介 (4) ・野菜の保存方法 (2) ・調理次第で野菜の栄養を最大限に活かす方法 ・新種野菜の紹介・料理方法、野菜各種の美味しい時期など ・地元野菜やフルーツを使った料理教室 ・野菜中心のサラダ料理教室を体験したい。 ・農家さんの苦労話 ・ニセコの野菜についてもっとアピールして良いのでは)
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ニセコの自然についてのポイントの説明 ・アウトドア的なもの ・ミニコンサート ・ヨガ ・ホテルのあゆみ ・外国の方が、どんどんニセコで事業を始めているが、その体験談など。 ・話を聞くだけではなく、参加型(体験型)のプログラムが良いと思う。 ・個人で宿泊の場合、翌日に参加、行動できるようなものも紹介しては。

(これまで他に体験したことがあるプログラム/②食と環境を美味しく学ぶツアーのみ)

- 「食と環境を美味しく学ぶツアー」の参加者に、今回のツアーのほかに、ガイドや指導者と一緒に体験する観光プログラムに参加したことがあるかと尋ねたところ、25人中16人が「ある」と回答しました。
- 参加した経験が「ある」と回答された方に、印象に残った観光プログラムを尋ねたところ、乗り物や散策で自然を楽しむアウトドア体験に関する内容が多くみられました。

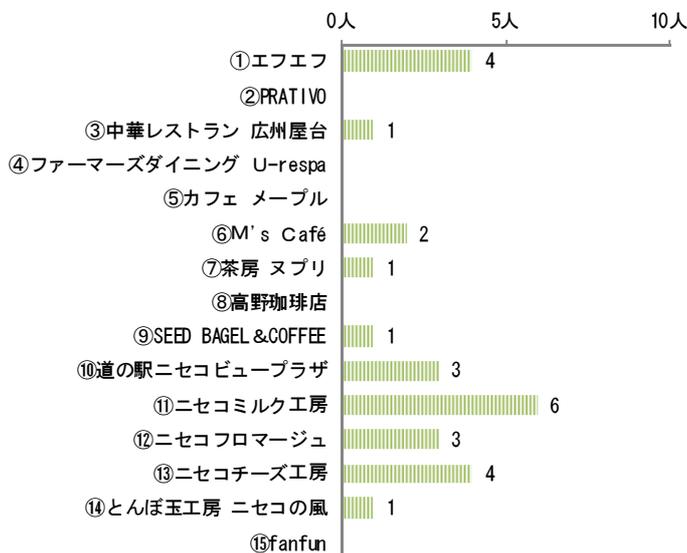
※ () の中の数字は複数回答数

<p>乗り物</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ニセコでのラフティング、ラフティング (2) ・自転車によるツアー ・パラグライダー体験 ・雪上車に乗って林道を走る ・然別湖でのカヌー ・アクティビティツアー
<p>自然を楽しむ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・かんじきツアー ・サロベツ原野をスノーシューで歩く。湿原の意味など環境問題を問いかけてくれて意義深く楽しかった。 ・然別湖での自然散策 ・知床でのネイチャーガイド ・羊蹄山山頂での星空観察 ・川の源流を訪ねて
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・田植え、稲刈り、野菜収穫、牛の世話と乳搾りとにわたりの卵とり、魚の地引き網 ・アイヌの刺繍など (2) ・藍染め体験 (2) ・伊達日帰りモニターツアー (2) ・木工製品づくり

(立ち寄った観光・飲食ポイント/③電気自動車の旅のみ)

●立ち寄った箇所として最も多かったのは「⑪ニセコミルク工房」で「⑬ニセコチーズ工房」が続きます。

立ち寄った観光・飲食ポイント (③電気自動車の旅のみ、6件)



(立ち寄った観光・飲食ポイントの順番み/③電気自動車の旅のみ)

●一番多く立ち寄った人は6件、少なかった人は2件でした。2件でとどまった方は、車の調子が悪かったことを理由にあげています。

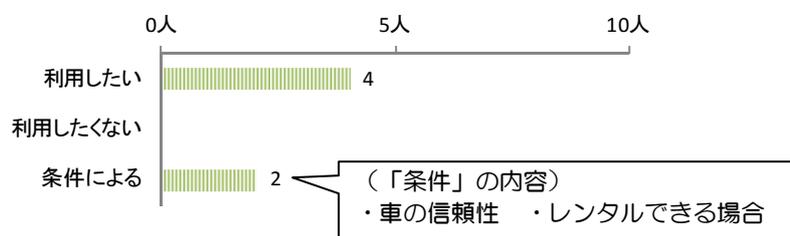
回答者 No.	立ち寄り件数(件)	1件目	2件目	3件目	4件目	5件目	6件目
1	6	⑪ →	⑥ →	⑬ →	⑩ →	⑨ →	⑦
2	5	⑫ →	⑪ →	① →	⑬ →	⑩	
3	2	⑪ →	⑭				
4	4	⑥ →	⑬ →	① →	⑪		
5	5	⑪ →	⑬ →	① →	⑫ →	③	
6	4	⑪ →	⑫ →	① →	⑩		

回答者 No.	立ち寄った観光・飲食ポイントで良かったところとその理由
1	⑪ニセコミルク工房：シュークリームが美味しかった。 ⑬ニセコチーズ工房：店の方が丁寧に説明して下さり、親切に対応してもらった。
2	⑫ニセコフロマーージュ：対応が良かった。
3	⑪ニセコミルク工房、⑭とんぼ玉工房ニセコの風：車の調子が悪くてそこしか行けなかった。
4	⑥M's Café：雪の中で食べる食事は味ともに芸術でした。景色もお店の中も外国みたいでした。
5	①エフエフ、②PRATIVO、⑪ニセコミルク工房、⑬ニセコチーズ工房：ニセコの特産品を知ることができて良かった。
6	(記載なし)

(町内に電気自動車と充電スタンドが設置されたら利用するか/「③電気自動車の旅」のみ)

- 6人中4人は「利用したい」、2人は「条件による」と回答しており、その条件として、「車の信頼性(による)」「レンタルできる場合」をあげています。

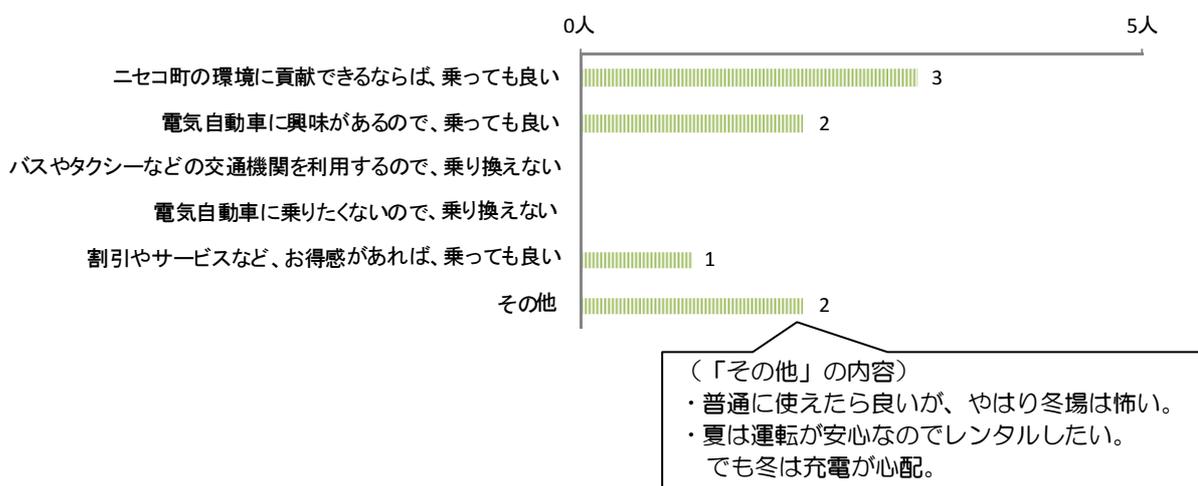
町内に電気自動車と充電スタンドが設置されたら利用するか (③電気自動車の旅のみ、6件)



(電気自動車で観光することについて/「③電気自動車の旅」のみ)

- 「ニセコ町環境に貢献できるならば乗っても良い」が最も多くなっています。

電気自動車で観光することについて (③電気自動車の旅のみ、6件)



(ニセコ町のイメージ)

- ニセコ町のイメージについては景観の美しさや自然の豊かさ、空気の良さ、雪の多さなど、「自然環境」に関するイメージが多く、そのほか、野菜や加工品などの「食」や、スキーやラフティング、リゾート地、外国人観光客、温泉などの「観光」に関する回答が多く見られます。

※ () 中の数字は複数回答数

自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ・羊蹄山 (2) ・羊蹄山を含め、ニセコ連峰を望む、景観の素晴らしさ！ ・羊蹄山を望み、広々とした雄大な場所 ・景色がよい ・紅葉がきれい ・景観に優れた自然あふれる、大変すばらしい場所 ・自然が豊か、自然豊かな美しい町 (8) ・自然豊かな街並みできれいになっている ・自然とともにある町 ・自然、羊蹄山、四季を通じて楽しさ満載 ・自然の雄大さ ・自然がすばらしい ・空気が澄んでいる、きれい (3) ・とても環境の良い町 ・大雪、冬は雪が多い (4) ・世界に誇れる雪 ・雪が多く、車で行くのは大変 ・大変冬は寒い ・夏は暑い
食	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜、おいしい野菜 (3) ・農作物が豊富 ・ジャガイモ (3) ・アスパラ ・ゆり根 ・食べ物がおいしそう ・グルメ ・手作りチーズ、パン、ミルク
観光	<ul style="list-style-type: none"> ・スキー場 (8) ・スキー場の雪質がよい ・スキーなどアウトドアスポーツが楽しめる ・スキー、ラフティングなどスポーツアクティビティが充実している ・ラフティングのまち ・ゴルフ場 (2) ・オシャレなお店でランチ ・ペンション (3) ・大型ホテル ・リゾート地 (2) ・1年中楽しめるリゾート地 ・外国人観光客が多い (4) ・オーストラリアからの人が多い ・海外客の収容に力を入れている ・温泉 (3) ・秋の温泉・
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・美しい街 ・ザ・北海道って感じ。雄大で素敵な町です。 ・これぞ北海道！ ・ニセコ（周辺）に来た時は（自家用車利用）、甘露水とニセコの道の駅、豆腐屋（真狩）に必ず寄ってから帰ります。 ・大都会とは違う、のんびりと休日を過ごす旅行はニセコでしょう。 ・意欲的な取り組みをしている。 ・通過することが多い。

(3) アンケート結果 [ツアーの感想など]

①地産地消の旅（自然エネルギーや自然環境から「食（農業）」を学ぶツアー）

- 全体的には、二セコ町が環境施策に積極的に取り組んでいることへの感心や評価の声が多く、“学ぶ”ツアーとしての目的をおおむね果たしたことが伺えます。
- 個々のプログラムに対しては、「佐藤シェフによる料理教室」についての記載を特に求めたこともあり、佐藤シェフのプロならではのアドバイスや美味しい料理に対する評価の声が多く寄せられました。佐藤シェフやそのお店、調理で使ったゆり根に対する関心や親しみも深まり、帰りに寄った道の駅でのゆり根の購入にもつながるなど、今後リピーターとなってもらえることが期待できます。
- 「堆肥センターの見学」では、午後に、町長から直接二セコ町の取り組みを聞くことができて良かったという声がありました。
- 一方、料理教室に時間がかかり、昼食の時間が遅くなったため、スケジュール管理への意見がありました。（なお、参加の感想を尋ねた設問では、堆肥センター見学時の臭いから、食事など他のプログラムと組み合わせる際に配慮を求める声がありました。）

※（ ）の中の数字は複数回答数

<p>全体の感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・とてもエコな取り組みをしている、先進的な町だと知りました。（60代女性、パート・アルバイト） ・クリーン農業をめざして、とてもよい町だと思った。（60代女性、主婦） ・今まではスキーマのイメージしかなかったが、エコの面でかなり進んでいて驚いた。考え方に共感できた。二セコは素敵な町ですね。町長さんも明るく、感じが良かった。（40代女性、会社員） ・ゴミやエネルギーなど本当に環境を大切にしている町であることを知った。元々、野菜の美味しさや温泉でイメージは良かったが、ますます好きになった。町長の熱意が伝わりました!!（40代女性、会社員） ・町全体で一つの事に取り組んでいると思った。（40代女性、パート・アルバイト） ・エコに力を入れる二セコの考え方に共感した。（60代女性、無回答） ・今回二セコに来て最新の取り組みをしているのに感心させられました。未来の子供たち、二セコにいらっしやい。安全・安心を実践していて、すばらしいと思いました。（60代女性、無職） ・二セコの取り組みを知ることができ、大変よかった。（30代女性、会社員） ・同行スタッフの感じがよく、至れり尽くせりでした。（60代女性、主婦） ・今回、ツアーに参加して勉強できたのでとても良かったです。温泉の日帰りツアーや今回のようなツアーに今後も参加したい。（20代女性、パート・アルバイト）
<p>堆肥センターの見学</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・堆肥センターのにおいには、ちょっと閉口しましたが、町の取り組みに感心しました。（50代女性、パート・アルバイト） ・町長さんが素晴らしく良い方で、楽しそうに堆肥のお話をしてくださった事が印象的でした。（30代女性、会社員） ・二セコはゴミの分別など環境に大変力を入れているので勉強になりました。ゴミのリサイクルに感激しました。すごい事だと思います。（60代女性、主婦） ・環境型堆肥センターはすばらしい。（60代女性、主婦）

<p>アグリファームでの収穫体験</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫も楽しかったのですが、農家の方のご苦労が認識できるような、何かがあればと思いました。(50代女性、パート・アルバイト) ・収穫体験が思った以上に楽しかった。(30代女性、会社員)
<p>佐藤シェフによる料理教室</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・佐藤シェフのお話は「目からウロコの」なものがあり、主婦として知識を広げられたのが良かったです。料理も、野菜の素材をたいせつにされていて、美味しかったです！(50代女性、パート・アルバイト) ・プラティーヴォの料理は、とてもやさしい味で、美味しかったです。シェフの人柄が感じられる味でした。(40代女性、パート・アルバイト) ・料理教室はもっと本格的に自分たちも作るかと思った。使用する調理器具など予め用意されているのもっとスマートで良かった。お料理した後、あわただしく席についてしまったので、佐藤シェフに感謝の拍手をするタイミングがなかったため残念だった(最後バスには来てくれなかったが申し訳なかったです)。お食事は美味しかったです。(30代女性、会社員) ・佐藤シェフの料理は大変美味しく、残さず食べました。(60代女性、主婦) ・佐藤シェフの教え方がわかり易かった。 ・かぼちゃのムースが美味しかったです。(40代女性、会社員) ・料理教室では親切に教えていただき、お料理もとても美味しく楽しかった。(70代以上女性、主婦) ・ワンポイントアドバイスがあり、とてもためになりました。(60代女性、主婦) ・お料理が美味しかったです。食材や調理のワンポイントアドバイスが良かったです。シェフの話が上手。(40代女性、会社員) ・きのこの処理の仕方は大変参考になった。料理も素材に対する愛情を充分感じられ、味付けも美味しかった(特に豚肉と人参のドレッシング)。説明もわかり易く、ユーモアがあり、時間が立つのが早かったです。レストランにも行ってみたいくなりました。(40代女性、会社員) ・実習しなかった料理の説明やレシピ紹介があると良かった。食材選びのこだわりについて、もっと話を聞きたかった。(40代女性、自営業) ・料理の講習が良かった。プロの技を間近で見られた事は目からウロコの話(サラダ用のジャガイモは塩を入れてからゆでるなど)で、参考になりました。(60代女性、主婦) ・家庭でも使えるワンポイントを混ぜながらの説明がとても良かったです。先日、レストランは満席で入れなかったのですが、また、行ってみたいと思います。(30代女性、会社役員) ・食材の扱い方や調理法で多くを学びました。早速役立てます。グラタンや野菜の酢漬けや種々のソースの技も学びたいので、第2、第3の学びの場を設けてください。すべてすばらしい料理でした。(60代女性、主婦) ・ジャガイモのグラタン、パプリカのソテー、美味しかったです。かぼちゃのムースのワンポイント(生クリームを少量ずつ分けて入れる)を家でやってみます。(60代女性、無職) ・とてもためになったし、楽しかったです。ヨーグルトが好きで、いつも道の駅や大丸で買って、プラティーヴォには行ったことがなかったが、美味しかったですし、シェフも素敵な方でお店にも必ず行きたいと思います。心のコもったお料理と、料理教室、おみやげもありがとうございました!!(40代女性、会社員) ・野菜を大切に、やさしく扱っていた。自然の野菜を美味しくするプロだと思った。ちょっとした料理のコツが大変参考になった。(60代女性、主婦)

ニセコビュープラザ	<ul style="list-style-type: none"> ・これからはニセコ管内に来たら、ニセコの直売所に寄ります。ゆり根を買いました。家に帰ったら早速食べようと思います。(60代女性、主婦) ・道の駅の野菜は新鮮で安い、掘出しものがある。(60代女性、主婦) 	
その他	スケジュール管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ツアー全般は大変良かったが、ランチの時間帯は改善したほうが良い。(40代女性、会社員) ・リサイクルの観点から、あの行程になったとおもいますが、昼食の時間を考慮すると、かなり無理があると思います。(30代女性、会社員)
	今後の提案	<ul style="list-style-type: none"> ・盛りだくさんの内容だったように思います。次回、もしあれば料理教室をメインにしたツアーがあるといいなと思いました。(60代女性、主婦) ・ニセコで希望するツアーはラフティングやトレッキングがセットになったバスツアーです。ニセコの町はエコツーリズムという形で、学習要素を盛り込んだ企画で十分大人も満足できると思います。他の市町村と連携して行うグルメツアーもいいと思います。(30代女性、会社役員) ・真冬にイグルーを組み立てるとか、そこやロッジなどで寝る体験ツアーとかどうでしょう。フィンランドやノルウェーで体験するようなことは、関東や関西の人は体験したいのではないのでしょうか。(40代女性、会社員) ・カーシェアリングは有料でも大賛成です。ニセコのホテルを拠点に小樽、函館などに日帰り人が向かうようになれば滞在型のお客さんも増えるかも。(40代女性、会社員)

②「食と環境を美味しく学ぶツアー」（「環境(ゼロエミッションライフ)」を学ぶツアー)

- 全体的には、2日間に渡って、食事も含めいろいろなプログラムを楽しむことができたという声がある一方、「食べる体験」が多すぎたことや、テーマの絞り込みを求める意見もありました。
- 個々のプログラムに対しては、それぞれ、楽しかったという声とともに、「アイスクリーム作り」は量の多さ実施する時期（冬は寒い）、「地中熱ヒートポンプ利用による農業ハウス見学」は収穫体験や生徒との交流への希望、「地元農家・野菜ソムリエの夕暮れ話」はより魅力的な内容を求める声、「越冬ジャガイモ収穫・調理体験」は長靴の準備をしなくても良い対応を求める意見などがみられました。

※（ ）の中の数字は複数回答数

全体の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・各プログラムの皆さん全員が一生涯懸命に対応しており、とても好印象でした。ニセコファンをもっと増やすよう、頑張ってください。(60代男性、無職) ・最近のツアー旅行の中では、一番楽しく、食事も美味しかった。(70代男性、無職) ・食事は大変おいしいものばかりでした。(70代女性、主婦) ・体験ツアーとても良いと思います。やる気をおこさせるし興味も増す。またこのようなツアーだと参加してみたいです。料理はすべて最高でした。(60代女性、主婦) ・雪の中で楽しい思いをさせていただき、また、おいしい食事と温泉、盛りだくさんの体験、自然と、ありがとうございました。(60代女性、主婦) ・今回のツアー、感謝あるのみ！体験、バス、ホテルともに素晴らしい。食事美味。素晴らしいプレゼントを工夫して創りだしていただきました。(70代男性、無職) ・よく食べよく遊び、小さい頃の自分発見の旅だった。(60代女性、主婦)
-------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・冬の他に夏、秋などに来町したい。(60代女性、自営業) ・自然いっぱい、ホテルの朝食はガラスいっぱいの雪景色、すばらしかった。(60代女性、主婦) ・ガイドさんの話が、知らないことも教えてもらい楽しかったです。でも盛りだくさんで、少々疲れました。(60代女性、主婦)
アイスクリーム作り体験	<ul style="list-style-type: none"> ・アイスクリーム体験も良く、家に帰ったら孫と一緒に楽しみたい。(60代女性、主婦) ・アイスクリーム作り体験は、冬は寒いので夏の方が良いのでは。子どもは階段やトイレが大変かもしれない。アイスの量が多いので、冬は小カップぐらいが良いのでは。(40代女性、主婦)
地中熱ヒートポンプ利用による農業ハウスの見学	<ul style="list-style-type: none"> ・農業ハウス見学は良いが、道の駅で買って下さいだけでは物足りない。(40代女性、主婦) ・農業ハウスは、収穫体験があって、分かりやすい説明と生徒さんの参加、何か教えてもらうことがあれば良いと思う。(40代女性、主婦) ・学生さんとの交流がもう少しあると良かった。(70代男性、無職) ・ニセコ高校に行った時、花を買いたかった。(50代女性、パート・主婦) ・将来、高校で野菜を直売してほしい。(60代女性、主婦)
地元農家、野菜ソムリエの夕暮れ話	<ul style="list-style-type: none"> ・農家の方のステキなお話を伺い、うれしかったです。(60代女性、主婦) ・農家さんの話は興味深いと思う。段取りと話のまとめにもう少し工夫がほしい。(40代女性、主婦) ・農家さん、ソムリエさんの話は明らかに素人の話し方であり、ツアーに盛り込むには、料金を払っても聞きたいと思わせるような内容にすべきである。(30代男性、会社員) ・ソムリエさんの話は資料と話だけではなく、スライドやパワーポイントなどを使うなどすると話も聞きやすくなると思う。(40代女性、主婦) ・農家さん、ソムリエさんの話はもう少し話がうまいと楽しくなると思う。(50代男性、会社員) ・ゆり根の試食はおいしかった。農家さんの話で、なぜ高級品なのかが分かった。ソムリエさんの話は内容を絞って話されると楽しいのではないかと。(40代女性、主婦) ・農家さん、ソムリエさんの話は、ランチセットと組み合わせてもよいのでは。(70代男性、無職) ・ゆり根農家さんの大変さが分かりました。(70代男性、無職) ・ゆり根の作り方を聞いて、こんな苦労があったのかと思った。今後は心を込めていただきます。(70代女性、主婦) ・ゆり根のレシピがあるといい。(60代女性、主婦)
越冬ジャガイモ収穫・調理体験	<ul style="list-style-type: none"> ・越冬ジャガイモ収穫のための準備で荷物が多くなって少し大変。地中熱ヒートポンプを利用した活用法に関心が持てた。(50代女性、パート・アルバイト) ・越冬ジャガイモ収穫は、芋掘りや雪堀が想像以上に大変だったけど、スノーシューも楽しかったし、バターづくりなども家族でするにはすごく楽しいと思います。(40代女性、主婦) ・越冬ジャガイモ収穫はとても楽しかった。所要時間や服装などを事前に詳しく伝えるといいと思う。(70代男性、無職) ・いも掘り、スノーシュー体験、いももち作りも良かった。いももちも美味しかった。(60代女性、主婦) ・ジャガイモ収穫、調理体験が一番楽しかった。ゆり根の作業が大変なこと、雪が多いこと、地中熱が我が家の生活でも利用できるといいなと思った。(60代女性、自営業) ・芋掘りは思っていたより大変でした。(70代男性、無職) ・楽しかった。長靴の用意で荷物が増えるので、足力バーなど用意していた

		<p>だけたらありがたかった。(70代女性、主婦)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・荷物が多くて大変でしたが、期待以上にすべての行程が楽しかったです。特に芋掘り体験は疲れたけどすごく楽しかったです。ニセコ高校さんのヒートポンプ利用の農業ハウスの見学もとても勉強になりました。一緒に収穫ができたらもっと良かったです。(20代女性、会社員) ・天気が良かったので芋掘りも楽しかったけど、天気が悪いと寒さが不安。長靴など荷物が多いと、旅先での買い物がおっくうになるので、足カバーを貸してくれたらありがたい。でも、芋掘りは楽しかった。農業ハウスはイチゴなど収穫できたりすると楽しいのでは。(50代女性、パート・アルバイト)
その他	内容の絞り込み	<ul style="list-style-type: none"> ・企画とテーマを統一し(絞り込み)、統一テーマに沿った内容として最後にホテルでまとめるようなプログラムには。今回の各プログラムがもっと連携したものができれば、ニセコ町の想いがもっと伝わるのではないかと思います。(60代男性、無職) ・物づくり体験は1か所で良かった。今回の場合は、いも収穫を前日に終了し、2日目は見学の方が良いかも。(60代女性、パート・アルバイト) ・時間配分は、講義は少なく、体験を多く。盛りだくさんでなくてもよい。他にもこんなことができるという説明を受ければ、次回のリピーターになるかもしれない。今回のツアーはとても良かった。天気が良ければさらにベターだったが、悪天候でもOKだったと感じる。(60代男性、無職)
	食べる機会の時間配分	<ul style="list-style-type: none"> ・昼食すぐとか、夕食ちょっと前とかで食べる事が多く、お腹もいっぱいなので、もう少し、時間の空きを考えてほしい。(40代女性、主婦) ・冬のツアーなので、食事は早く出て暖かいものが良い。(50代男性、会社員) ・問題だったのは食べ過ぎたこと。(60代男性、無職)
	説明	<ul style="list-style-type: none"> ・全体に説明や知らせが足りないと思う。(40代女性、主婦)
	交流	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の人とのふれあいが楽しかった。時間の余裕があり、大変楽しかった。(70代男性、無職)
	今後の提案	<ul style="list-style-type: none"> ・リゾートホテルがたくさんあるなか、たくさんのプログラムがすでに用意されているようです。ニセコ町として独自のプログラムも良いでしょうが、地域のホテルとタイアップしてのプログラム、地域の産業とホテル・ペンションなどの橋渡しなど良いと思う。(50代女性、主婦)

③ニセコ電気自動車の旅(電気自動車を活用したたびいくツアー)

(ガソリン車と比べて良かった点、悪かった点)

- ガソリン車に比べて良かった点として「静か」「(思ったより)馬力がある」「スムーズ」などがあげられました。一方、悪かった点として「充電の減りが早い(走行距離が短い)」、すべりやすい、下り坂でエンジンプレーキが効かないなどの「操作性」に関する指摘があげられました。

ガソリン車に比べて良かった点

※()の中の数字は複数回答数

静か(5)	・静か ・エンジン音も静か。子ども(0歳)もぐっすり眠っていた。
馬力がある(2)	・馬力(がある) ・坂道でも馬力がきちんと出ている。(2)
スムーズ(2)	・スタートがスムーズ。 ・雪道の走行もとてもスムーズだった。
環境	・環境に優しい。

ガソリン車に比べて悪かった点

走行距離、充電 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・充電がすぐ(思ったよりも)なくなった。そして充電に時間がかかる。もっと行きたい所があったが、あきらめてホテルに戻った。 ・走行距離が短い(特に冬)
操作性(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・前輪駆動のため、発進時にすべりやすい。冬場の観光には四駆が良い。(普段自分が冬場に使っているタイヤのメーカーと違ったことも影響したかもしれない。) ・下り坂でガソリン車のようにエンジンプレーキが動かないので、スピードが出すぎて少し怖かったです。
慣れていない	<ul style="list-style-type: none"> ・トラブルがあった時、何もできない。冬のニセコでは命に関わる問題である。

(電気自動車の充電スタンドを設置する際に、設置してほしい場所)

- 沿道や観光ポイントのほか、道の駅やコンビニエンスストアなどの商業施設、ホテル、ガソリンスタンドがあげられました。

<ul style="list-style-type: none"> ・国道 ・道沿い ・主な観光地 ・観光名所 ・道の駅 ・ショッピングする場所(ショッピング中に充電できるので) ・コンビニエンスストア ・ホテルの駐車場 ・ガソリンスタンド
--

(電気自動車を運転した感想)

- 普段立ち寄らないポイントに行くことができ良かったという感想がある一方、雪道での運転やバッテリーの減りに対する不安があげられました。

<ul style="list-style-type: none"> ・今回は楽しくドライブができました。特典がありましたので、普段なかなか立ち寄らない店も利用させていただきました。ニセコの道に不慣れな者が、雪道をドライブするには前輪駆動は若干不安がありました。しかし新しい旅の発見もでき、次回の旅の楽しみもできました。次回は湯めぐりや施設見学をしたいと思います。 ・ホテルから数キロ進んだだけで満充電だったはずの車がいきなりほとんどゼロになってしまい、どこにも観光できなかった。 ・夏にこのようなツアーがあれば、運転をもっと楽しみながら観光できると思います。雪国だからか、充電がすぐなくなり、行きたい所に行けなかったのが残念でした。それを考えると、ハイブリッドカーの方が、安心感があります。 ・電気が減るのが思っていたよりも早かったので、充電スタンドをたくさん設置すれば、より多くの方に利用してもらえと思いました。
--

<電気自動車を利用したスタッフの感想>

ヒルトンニセコビレッジのスタッフに電気自動車を利用してもらい、感想を尋ねました。

雪道の運転に慣れていることもあり、雪道への不安の声はなく、加速やパワー、操作性などについても高評価でしたが、バッテリーの減り早さを指摘する声がありました。

静かさについては良いという意見がある一方、周りの人や動物が車に気づかず危険ではという意見もありました。

※（ ）の中の数字は複数回答数、重複して記載しているか所あり

区分	電気自動車を利用した感想
加速	<ul style="list-style-type: none"> ・加速がすごく良い。(2) ・加速は良。ブレーキ良。 ・加速度が最高にすばらしい。つい速度を上げてしまう。 ・加速が思っていたより良く、アクセルを踏むと腰にグッと力が入った感があるので、安心して運転できた。 ・軽自動車にしては加速力もある。
パワー、速度	<ul style="list-style-type: none"> ・非常に馬力がある。 ・力があり、スピードも出る。 ・静かでスムーズな走り出し、パワーもある。 ・思ったよりも力がある。 ・意外にパワーがある。 ・最高速度もある程度出るので、高速道路も安心です。 ・静かで走りやすくて速いです。
操作	<ul style="list-style-type: none"> ・加速も良いしハンドルも操作しやすく快適でした。 ・小刻みにハンドリングしても車全体に対応している。
バッテリー	<ul style="list-style-type: none"> ・バッテリーの減り方は早い。 ・バッテリーについては、冬期間（ヒーター）、夏季（エアコン）など使用時間が増すが、近距離走行ならば安心と思われる。ただ、長距離走行時は不安が残る。これに対応するには、色々な地域にチャージングマシンの設置や、走行が出来なくなった場合に非常用リザーブバッテリー切替で対応できるシステムなど検討しては。(例：非常用に切り替え→30 km走行可) ・夜の走行だったので、バッテリーゲージの減りが早いと思いました。 ・フル充電で200Km位は走行できればよいのだが。 ・下り坂でアクセルを外すと針がCHARGEを示しましたが、バッテリーを充電しているのでしょうか。
静か	<ul style="list-style-type: none"> ・とても静かだった。 ・静かで走りやすくて速いです。 ・音が静かで快適な乗り心地。 ・静かでストレス無く走る。 ・エンジン音がまったくしない。 ・原動力がモーターなので、非常に静かである。 ・運転中は静かで快適だが、周りにいる人が気づきにくいのでは。 ・快適な走りで文句なしですが、人や動物に気付いてもらえないくらい静かなのが逆にこわいです。 ・エンジン音が静かすぎるので、通行人にとっては車が近づいても目で見えない限り気がつきにくく危険な面もあるように感じました。 ・静か。エンジンの始動の音がないので、慣れるまでは不安。
広さ	<ul style="list-style-type: none"> ・外見から感じるよりも中は広かった。 ・車内が広く感じる。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・非常に運転しやすかった(2) ・快適だった(2) ・思った以上に乗りやすい。 走りもキビキビしてよい。 ・足回りが少し柔らかい。 ・雪道の走行に不安を感じました。 ・夜だったので、D→Rに入れづらかった。 ・コンパクトなので取り回しが良く、スペースも空くので使いやすい。 ・まわりが良く見えて駐車しやすかったです。とても良い車です！

2 先進地視察による道外調査

ニセコ町におけるたびいくプログラムを検討する上で参考となる先進地として、「久留米まち旅博覧会」（福岡県久留米市）と「北九州スマートコミュニティ創造事業」（福岡県北九州市）を選定し、視察調査を行いました。

<スケジュール>

日程	行 程
1/28(月)	新千歳空港⇒【直行便】⇒福岡空港 福岡空港＝地下鉄＝博多乗換＝スペースワールド駅 (1)「北九州スマートコミュニティ創造事業」視察 （約2時間半） （対応：NPO 法人・里山を考える会） <ul style="list-style-type: none"> ・テレコムセンター（カーシェアリング） ・PRルーム（地域節電所） ・日鉄エレックス（BEMS） ・コミュニティ設置型蓄電池 ・ENEOS（次世代SS） ・水素実証住宅（HEMS） ・東田エコクラブ（講義） スペースワールド駅＝小倉（宿泊）
1/29(火)	小倉＝新幹線＝久留米、久留米まち旅博覧会事務局と合流、 久留米＝田主丸駅 (2)久留米まち旅博覧会事務局による講義 （約2時間） まち旅プログラム「しめ飾りをつくろう」 視察（約3時間） 田主丸駅＝久留米乗換＝博多（宿泊）
1/30(水)	福岡＝福岡空港⇒【直行便】⇒新千歳空港

<参加メンバー>

- ・たびいく推進委員会（中島委員長、大迫副委員長、工藤委員、木下委員、Eva-Maria Haslaure 委員）
- ・事務局（福村課長）
- ・(株)JTB 北海道（吉田、石井）

(1) 北九州スマートコミュニティ創造事業

北九州市と協働で企画・運営している「NPO法人・里山を考える会」の案内による「ココスマツアー※」に参加し、「北九州スマートコミュニティ創造事業※」に関連した施設等を見学し、東田エコクラブにて講義を受けました。

※政府が取り組んでいる「次世代エネルギー・社会システム実証」を行う地域の一つとして選定された北九州市が進めている事業です。

日清戦争後から軍備拡張や鉄道建設のために製鉄所が建設された八幡村東田地区（現在の北九州市）は、工業の発展と引き換えに公害を背負うことになりました。このような歴史背景から、循環型都市や低炭素社会をめざし、産官民学挙げての取り組みとして、この事業がスタートしています。

実施主体：北九州スマートコミュニティ創造協議会（北九州市、新日本製鐵（株）、日本アイ・ピー・エム（株）、富士電機（株）、（株）安川電機、（株）日鉄エレックスなどで構成）

実施地区：北九州市八幡東区東田地区（約120ha）

実施機関：平成22年度～平成26年度（5年間）

※八幡東区東田地区には行政をはじめ国内外の企業から視察や研修などが多く訪れるようになったため、受付窓口の一元化を図るため、北九州スマートコミュニティ創造事業の取り組みを案内するガイドツアー「ココスマツアー」を「NPO法人里山を考える会」が実施しています。

北九州市八幡東区東田地区の位置

[見学した施設]

- ①テレコムセンター（カーシェアリング）
- ②PRルーム（地域節電所）
- ③日鉄エレックス（BEMS）
- ④コミュニティ設置型蓄電池
- ⑤ENEOS（次世代SS）
- ⑥水素実証住宅（HEMS）
- ⑦東田エコクラブ



[講義テーマ]

- ・カーシェアリング事業の生い立ち（どのような課題を背景に活動が始まったか、事務局の運営体制など）
- ・電気自動車および充電器設置の事業費用と捻出方法
- ・事業を展開していく上でこれまでの課題とその解決策
- ・自治体など公費が、どの程度支援されていたか
- ・現在の利用状況と将来の事業展開図

北九州スマートコミュニティ創造事業の概要

地域社会が参加するエネルギーコミュニティの実現 ▶ エネルギーを使いこなす社会 ▶ 50% CO₂削減

■新エネルギー等10%街区

～まちの設計の中で、新エネルギーを計画的に導入・工場エネルギーの長生利用～

●太陽光発電



地域内で、1,000kWの大規模な発電を確保

●バイオ発電



工場内廃棄物を活用したバイオ発電の確保

●北九州水素タウン



再生水素をバイオ燃料セルにより発電し燃料電池で利用

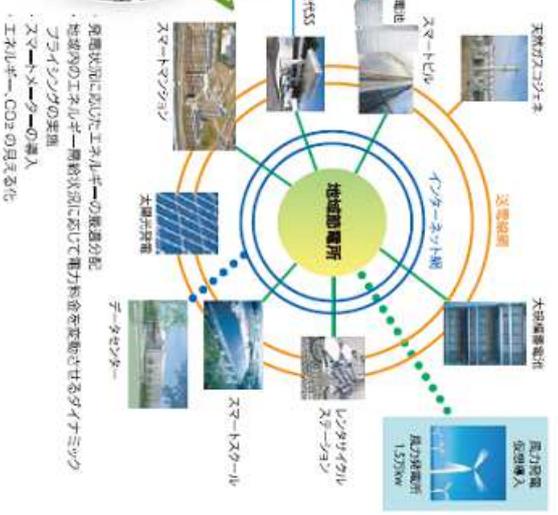
●小型風力発電



工場内廃棄物処理施設等で小型風力発電を導入

■地域エネルギーマネジメントの構築

～「加速節電所」という新しい概念・仕組みのもとに、地域全体のエネルギー量り化、大規模ネットワークとの相互補充の実現～



発電設備に拠ったエネルギーの最適分配
 ・地域内のエネルギー需給状況に応じて電力料金を変動させるダイナミックプライシングの実現
 ・スマートメーターの導入
 ・エネルギー・CO₂の見え易化

■街区まるごとの省エネシステム導入

～個別節電の効率的エネルギー利用と、まち全体のエネルギー利用の最適化を両立～



地域節電所と双方向で通信、制御を可能とするシステムの導入と、それに対応したHEMS、BEMSを集中導入

- 太陽光発電
- 重点緑化地域
- 小型風力発電
- EV、PHV用充電器

●東田グリーンブリックの構築
 街区のデザイン、人の歩行動線を考慮した植栽帯の整備や建築家の監修・監上級化を推進

■次世代交通システムなどの地域社会づくり

～健全社会・水素社会に即した定着可能な社会システムを構築～

- EV、PHVの大量導入、充電設備の整備
 - ・市民共同でEV、PHV等を300台程度導入
 - ・東田地区を中心に50ヶ所程度充電設備を設置
 - ・スマートシステム（貸金システム等）を開発・実証
- 公共交通機関との連携システムの開発・導入
 - ・小乗務員、自転車等と公共交通機関との乗り継ぎ円滑化のため、「I」を利用した大規模シミュレーションと最適化システムを開発・実証
 - ・両施設と連携し、両施設に設置したスマート型コミュニティ（ICV）の導入
- 「エコポイント」「環境学習」システムの整備
 - ・市民の環境行動の促進に向けたインセンティブとしてエコポイントシステムを整備
 - ・エコポイントの集約環境、e-ラーニングやワークショップ等の活用で実践教育を推進

STEP.1
 地域全体の省エネ化

STEP.2
 地域全体のエネルギー量り化

STEP.3
 地域全体の環境改善

全体へ
 環境学習の推進

本事業の中で
 市民が環境学習の場を創出し、環境意識を高めることを目指す

<視察の様子>



- ・当日は「NPO 法人里山を考える会」の小林さんと、最寄駅スペースワールド駅にて合流し、エリア内をミニバスで巡って視察を行った。
- ・行程は「車窓から見学」「降車して見学」「PRルームでのプレゼン」「スペシャルトーク」の4つで構成されていた。

・本視察では、以下の箇所を視察した。

①テレコムセンター

テレコムセンター前には、サイクルシェアリングおよびカーシェアリングのポートがあり、ミニバスから降車して視察した。本町のニセコグリーンバイクと似ているが、認証カードによるシステムが導入されている。また、ポートのルーフには太陽光パネルが設置されており、ポートの外灯が太陽光発電によって賄われている。

②PRルーム（地域節電所）

北九州スマートコミュニティ創造事業においては、季節や曜日、時間帯によって変動する需要に対応して電気料金を変動させる「ダイナミックプライシング」の実証実験が行われており、地域節電所で、その日の天候や気温で変わる発電量と需要量を予測し、各家庭や職場に設置されている「スマートメータ」にそれらの情報を発信し、最適な発電計画を作成している。またPRルームには北九州スマートコミュニティ創造事業の詳細なパネル展示があり、事業の全体概要がわかる。PRルームにて小林さんより事業のプレゼンテーションを拝聴した。

③日鉄エレックス（BEMS）

④コミュニティ設置型蓄電池

⑤ENEOS（次世代SS）

それぞれの施設のポイントについて、バス車内で小林さんの案内を聞きながら、車窓から視察した。

⑥水素実証住宅（HEMS）

東田地区では、水素での発電システムによる新しいエネルギーマネジメントの実証実験も行われている。製鉄所で発生する水素を、地下のパイプラインを通して、各施設に送り設置された純水素型燃料電池によって発電する仕組みをとっている。水素実証住宅は実際に住居して利用されており、水素による発電を行っている。

⑦東田エコクラブ

環境配慮型の民間の公民館であり、「NPO 法人里山を考える会」の事務所でもある。ここでスペシャルトークとして「NPO 法人タウンモバイルネットワーク北九州」の方より、サイクルシェアリングおよびカーシェアリングの取り組みについてご説明いただいた。このようにココスマツアールでは、見学および実証に関する詳しい話をゲストを招いてスペシャルトークとして提供している。ゲストは、北九州スマートコミュニティ創造事業に関わる企業や行政の担当者が無償協力で行っている。



- ・「ココスマツアー」の窓口を担っている「NPO 法人 里山を考える会」は、これまでの東田のまちづくりにおいて培ってきたネットワークや経験を活かし、専門性の高いガイドとして、東田のまちづくりを広く国内外に PR できるツアーを実施している。



- ・「ココスマツアー」は、ガイド料金および資料代金などで収益をあげており、収益のうち一部は、東田のまちづくりに還元されている。

- ・「ココスマツアー」では、行程中、見学及び実証に関する詳しい話や熱い想いを聞ける「スペシャルトーク」を1か所加えることができる。今回は、「NPO 法人 タウンモービルネットワーク北九州」の方より、サイクルシェアリングおよびカーシェアリングの取組みについてご説明いただいた。（この「スペシャルトーク」は、企業や行政の担当者が無償協力で行っている。）



- ・NPO 法人 タウンモービルネットワーク北九州は、「都市環境問題の課題解決」「自転車利用環境の改善」「マルチモーダル化の促進」をミッションに掲げている。公共交通機関の結節点から目的地までの「空白」を埋めるために、小回りの利く自転車の共同利用（サイクルシェアリング）やカーシェアリングといった、移動手段を提供することで中心市街地の活性化を図っている。



- ・サイクルシェアリング事業とカーシェアリング事業は会員制で、それぞれ会員数は 800 名と 128 名である。運営で判明したこととして、カーシェアリング事業の会員 128 名は全員マイカーを所有しており、カーシェアリング利用によりマイカーを手放した会員は 1 名だけだった。カーシェアリングの利用率は想定より少なく、利用料による収入も年間約 200 万にとどまっている。



- ・カーシェアリング専用スポットは 1 か所で約 1,000 万円（ハード・ソフト含む）がかかり、うち 600 万円を北九州市が補助している。カーシェアリング事業は収入が少ないため、NPO 法人 タウンモービルネットワーク北九州では別事業を収益の柱とし、カーシェアリング事業は公共事業として捉え、運営している。

<視察の感想>

「環境型」	<ul style="list-style-type: none"> ■北九州市の節電所での取り組み、特にインセンティブ・プログラムが気になった。ニセコでも実現できる。例えば、節電したり、自転車や電動自転車をレンタルする人にポイントを与える（「ニセコ綺羅カード」のポイントでも良いのでは） ■サイクルシェアをミックスして総合的に検討する必要がある。低炭素コミュニティを加速させる上では、公的支援が必須。
電気自動車	<ul style="list-style-type: none"> ■カーシェアリングは利益が出にくく普及しない理由が分かった。しかし、広域で連携したり、連携による季節波動の調整などで課題解決できないものか。 ■ニセコで電気自動車を利用する事業は観光者向けに貸し出ししても、レンタカーで来町する観光客がほとんどで、利用はないだろう。JRで来町した客は免許がなく、借用は皆無に等しい。例えば、エコカーで環境関連施設をガイド付きで巡るなど工夫が必要である。 ■北九州のバイク・カーシェアリング事業は市民向け。ニセコ町では観光客に使いやすくすればいい。例えば、クレジットカードで自転車などを借りられるなど。町民利用者がリピーターの場合は、ポイントカードや他のインセンティブ・システムがあればいい。
その他交通	<ul style="list-style-type: none"> ■ニセコにはグリーンバイク（自転車を無料で借りられる事業）があるが、ニセコは坂が多いので電動自転車があれば良いと思った。
町取組	<ul style="list-style-type: none"> ■地域節電センターや水素化などの取り組みは、ニセコ町としても取り組みを急がねばならないし、住民の理解も得やすい。 ■生活とリゾートの両面を持つ当町の先駆的取り組みは、ニセコ町の魅力向上ともなり、カーボンオフセットの考え方も含めて観光客および教育旅行先としての差別化に結びつく。

(2) 久留米まち旅博覧会：久留米まち旅博覧会事務局

久留米市民がプログラム提供者として参画する「久留米まち旅博覧会」について、事務局より講義を受け、2012年秋の農家プログラム「しめ飾りをつくろう 焚き火もやるよ！」を体験しました。

[講義テーマ]

- ・久留米まち旅博覧会の生い立ち（どのような課題を背景に活動が始まったか、事務局の運営体制など）
- ・プログラムをどのように造成しているか
- ・プログラムの品質を維持するための取り組み
- ・一元的に事務局が管理運営していることのメリット・デメリット
- ・事業展開におけるこれまでの課題とその解決策
- ・自治体などからの公費支援がどの程度されていたか
- ・現在の集客状況と将来の事業展開

[体験プログラム]

- ・「しめ飾りをつくろう 焚き火もやるよ！」
（久留米市田主丸町「百笑倶楽部※（田中さん宅）」で実施）
※20年ほど前から農薬・化学肥料を一切使わずにお米を作り続けている田中さんの店の名前です。

プログラムの内容（久留米まち旅博覧会ホームページより）



大人は子どもに、子どもはちょっと大人になって

46 しめ飾りをつくろう 焚き火もやるよ！

田主丸でお米を無農薬で栽培する百笑倶楽部の田中さん。丹精こめて育てた古代米の稲わらを使って、撚起ものしめ飾りをつくりまします。子どもも大人も一緒に作りましょう。お昼は、焚き火を囲みみんなで交流。火おこしから楽しめます。

<講師>

田中 大輔
百笑倶楽部。農業で笑顔を伝えるをモットーに、無農薬で米づくりに取り組む。

プログラムの概要

プログラム	46 しめ飾りをつくろう 焚き火もやるよ！
開催日	2012/11/17(土)
開催時間	10:00～14:00
参加料金	中学生以上2,300円、小学生500円（食事付）、幼児無料
Web予約定員	-
Web予約残席	-
WEB予約	事業者電話予約

予約電話番号 **090-8221-8454**

【定員】20名
予約先/実施日の5日前までに要予約
百笑倶楽部 田中 ☎ 090-8221-8454

会場・集合場所

百笑倶楽部（田中正花園）

住所・アクセス
久留米市田主丸町竹野283
電話
090-8221-8454



<視察の様子>



- ・久留米駅にて、久留米まち旅博覧会事務局の浜砂さんと合流し、観光案内所において特産品や地域内の取組みについて、説明を受けた。
- ・JRで田主丸駅まで移動し、駅構内にあるコンベンション市民交流室において、久留米まち旅博覧会事務局の取組みについての講義を受けた。



- ・その後、プログラムを体験するため「百笑倶楽部」の田中さん宅に移動し、「しめ飾りをつくろう 焚き火もやるよ!」プログラムを体験した。通常、このプログラムは冬期に行っていないが、今回の視察のために特別に実施していただいた。

- ・しめ飾りづくり体験の前に、田中さん宅の家族による手作りの家庭料理をいただいた。北海道にはない食文化が垣間見え、また田中さんから積極的に話しかけていただいたことにより会話が進み、アットホームな雰囲気となった。



- ・食事後は、しめ飾り作りを体験。全員が夢中になって作成し、大人でも楽しめる内容であった。完成したしめ飾りは各自持ち帰ることができた。

- ・プログラム実施中、久留米まち旅博覧会事務局も同行いただき、田中さんのフォローを行うなど、きめ細やかな対応が随時見られた。



- ・田中さん宅は長年米作りに携わってきたものの、卸業者や市場に出荷していたため、直接お客さんと交流する機会がなかったため、プログラムを通じてお客さんに直接会い、話を聞き、お礼を言ってもらえる喜びを感じ、久留米まち旅に参画しているとのことだった。

<視察の感想>

コンセプト、体制等について

<p>コンセプト</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■「まち旅」は、「一般的な観光コンテンツ」がない中、新たなこれからのコンテンツとなり、利用する過半数の人が地元住民で、そのことが地域の魅力アップに好影響を与えている。 ■今後ますます期待される「学ぶ」「向上」「自己実現」といった側面と併せ、ニセコ町のオールシーズンリゾート地の要素を有機的に組み合わせることで、大きな魅力を造成することが可能。 ■行政視察は別だが「たびいくプログラム」は、楽しみながら学んだり交流したりすることが必要。 ■「たびいく」というくくりでクラスター化することのメリットは「まち旅」から十分に感じたが、個々のプログラムは実施者やコンテンツによりさまざまであり、事業計画は各実施者がプログラムごとに綿密に検討し作成する必要がある。
<p>「スモールビジネス」としての事業性について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■「まち旅」は利潤を追求せず、実施者が純粋に楽しむことができています。 ■ニセコは「たびいく」を通じた「スモールビジネス」であり、利潤を追求するという点では「まち旅」とはコンセプトが少々異なるのでは。 ■「やりがい」を重んじる人と「収入」目当ての人がいるので、「たびいくプログラム」としてプレイヤーを募ってやる場合は、最初のコンセプトを固める必要がある。 ■（まず）「ニセコをもっと知ってもらいたい、人と交流して生きがいを見つけたい、事業を通じてニセコを活性化させたい、自分の仕事の次のヒントにしたい、ニセコに何度も来てもらいたい、自分も楽しんでお客様にも喜んでもらいたい」という収入ではなくやりがいを重視した交流ビジネス→スモールビジネスへ→小さな立地→そこから高収入プログラムも。そうすると企業立地にもつながる。 ■ビジネス目的の場合、実施者の覚悟もある程度必要であり、マーケティングも含めた事業計画を。
<p>運営体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ニセコ町でも、いろいろな体験を提供できる人が多いが、その人をつなぐ体制（事務局）は必要。 ■全体をコントロールする「運営委員会」の客観的な視点と、高い品質維持が重要。 ■数多くのプログラムを回す場合、プラットフォームとなる窓口が必要だが、ニセコはどこが担うのか。 ■「まち旅」のように、市民参加型で実施する際の声かけの主体はどこが担うのか。行政は？ ■「まち旅」は、行政、実施者、NPOが役割分担を共通に理解しバランス良く運営されている。ニセコでも、誰が何をどこまでやるのか、それは何のためなのかを関係者が共通に理解することが重要。 ■ワーキングチームづくりと事務局体制をどうするか早急に検討する必要がある。役場、観光協会、商工会3団体が連携を深め、取り組まなければならない。資金、人材（事務局）の問題もあり、体制などは「まち旅」参考にしたらどうか。 ■「まち旅」は、事務局の浜砂さんの役割が大きい。事業化には大枠のアウトラインのほか、現場の細かな調整や気配りが重要。NPOや市も浜砂さんにある程度任せているので、彼女が楽しんで、やりがいを持って、意欲的に取り組める。

プレイヤー (プログラム実施者)	<ul style="list-style-type: none"> ■「まち旅」は、意欲的人材が多く、さまざまな企画が提案され実施されている。ニセコでは、人材不足が気になる。 ■委員会を作る場合、最初の人選が重要（人格、人脈、職業の多様性、年齢の幅、ノウハウ…）。一般市民を巻き込まない場合は、アウトドア事業者や飲食店、ホテル、ペンション、有志の農家、直売会など連携して楽しいプログラムを作る。 ■プログラム実施者であるアウトドア事業者には、特に新しいプログラム作りを一緒に取り組んでほしい。 ■プレイヤーとの出会いから生まれる感動は非常に重要。「技術」を学ぶことはあくまでも手段で、訪問地で人とふれあうことで無限の魅力と再訪の機会を生む。プレイヤーにその趣旨をいかに理解してもらうか。 ■「もてなす」意識はまだ薄く（低く）、意識改革が必要。より主体的なプログラムが望まれる。
サポート	<ul style="list-style-type: none"> ■「まち旅」では、事務局（浜砂さん）がさりげなく田中さんご一家が進行しやすいように気配りをしていた。実施者の方（プレイヤー）の意欲はもちろんのこと、サポートする方の重要性も感じた。
PR	<ul style="list-style-type: none"> ■「まち旅」では、良い写真を使ったり、季節に合わせたパンフがあった。ロゴマークも良くて、分かりやすい。ブログなどのネットPRもいい。ニセコ町でも、プログラムを提供する人のためのロゴマーク、ウェブサイトやパンフレットをつくれれば、コミュニティは繋ぎやすくなり、観光客に分かりやすくなる。 ■外国人観光客が多いので、外国語でプログラムや体験を提供できる人に「英語OK」などのロゴマークを付ける。 ■北九州のPR資料や市内のインフォメーションポイントは、分かりやすく多言語性もあり良かった。
開催時期	<ul style="list-style-type: none"> ■「まち旅」は、2週間で80プログラム、参加人数は1,700人程度が限度とのことであった。ニセコはどうか？ニセコフェスティバルと一緒にやるのか。

プログラムについて

農業	<ul style="list-style-type: none"> ■農家さんをプレイヤーとして考えると、ニセコでもたくさんのプログラムを作ることができる。アスパラの収穫とピザづくり、トウモロコシを収穫し贅沢なコーンスープをつくる、農家さんから学ぶ、本格的な家庭菜園づくり
食、 レストラン	<ul style="list-style-type: none"> ■美味しいコーヒーの入れ方、豆の選び方、ラテアートと遊ぼう、薪割りのたき火で、焼き芋を食べよう、素敵なガーデニングづくりを学んで、おいしいティータイム
そのほか	<ul style="list-style-type: none"> ■ニセコでも、わらを使ってインドア体験もできる。 ■陶器で自分のオリジナル茶碗作り、わらを使ってお飾りづくり、木工細工で自分だけの本立て、鉄の彫刻づくり、〇〇と行くニセコ飲み歩き ■FMラジオがあるので、「ニセコでラジオのDJ」も良い。

3 たびいくに関する住民アンケート調査

(1) 調査のねらい

このアンケート調査を実施するねらいは、次の通りです。

- ニセコ町で「たびいくプログラム」を実施する場合、「たびいく」に関心を持っている方や、プレイヤーとなり得る方がどのくらいいるのかを把握する。
- プレイヤーになれる方々は、どのようなプログラムを考えているのかを尋ねるとともに、プログラムを企画・運営するにあたって心配ごとや不安な点がないか、どのようなサポートがあると良いと思うかを尋ねる。
- 自らが中心となってプログラムを開催することはできなくても、手伝いが可能な方々がどのくらいいるのか、どのような手伝いが可能かを把握する。
- 参加できないと回答した方が、どのような理由を持っているのかを把握する。
- ニセコ町でたびいくプログラムとなり得る地域資源や、たびいくに関する意見や提案を尋ねる。

(2) 調査の概要

調査期間：平成25年1月～2月

対象：宿泊施設のほか、観光に携わっている事業者、たびいくプログラムとして提供できそうな事業や活動を行っている方々など 329名

アンケート送付先

区 分	送付数
宿泊施設	70
体験事業者	31
小売・飲食	56
その他事業者	60
「ものづくりパンフ」掲載者	17
ニセコビュープラザ直売会出店者	63
その他(農業者)	32
合計	329

調査方法：郵送による配布・回収（無記名）

回収数：80票（回収率24.3%）

(3) 調査の結果

※集計結果は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを%で表示しています。そのため、選択肢から1つだけ選択する設問では、%を合計しても100.0%にならないことがあります。

①回答者の属性

(性別)

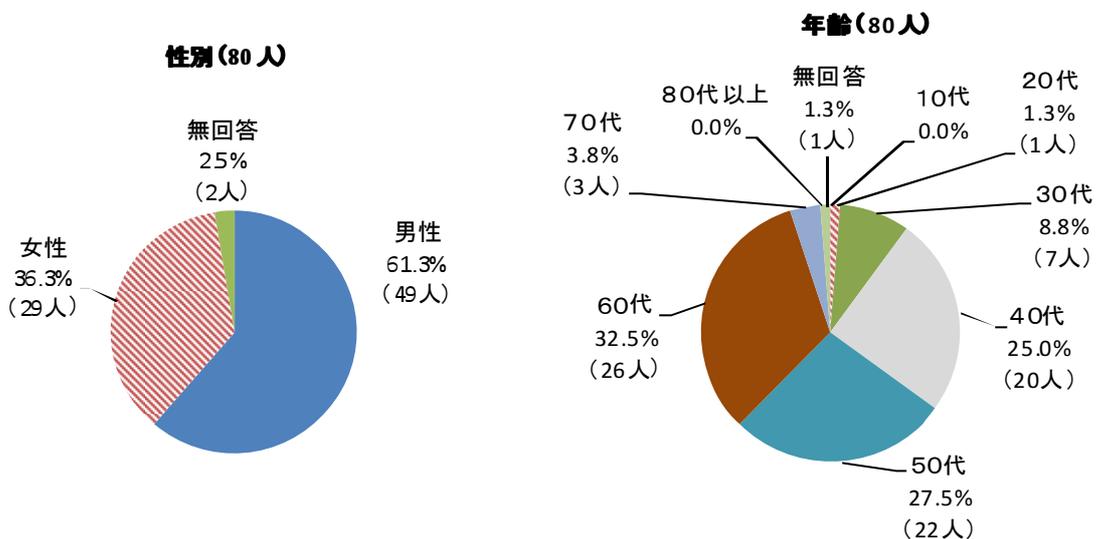
- 「男性」が61.3% (49人) と多く、「女性」は36.3% (29人) です。

(年齢)

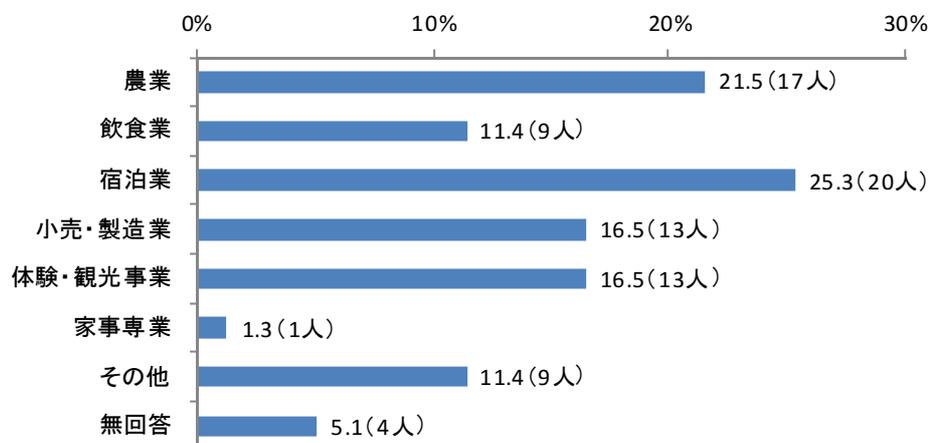
- 「60代」が32.5% (26人) と最も多く、「50代」 (27.5%、22人)、「40代」 (25.0%、20人) と続きます。

(職業)

- 「宿泊業」が25.3% (20人) と最も多く、「農業」が21.5% (17人) で続きます。3位は「小売・製造業」と「体験・観光業」で、ともに16.5% (13人) です。



職業 (80人、複数回答あり)

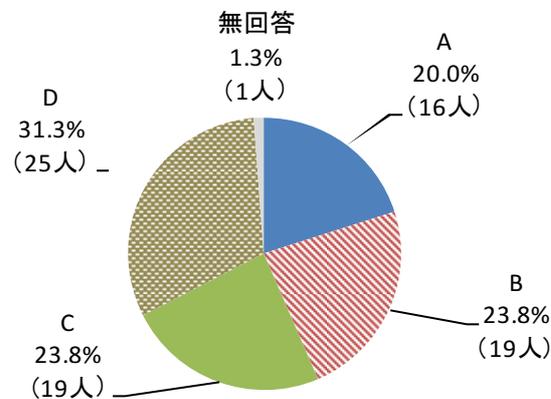


①設問別調査結果

問1 「ニセコたびいくプログラム」として観光客に（有償で）提供するとしたら、あなたはどのように思われますか。

- 最も多かったのは「D. プログラムの提供や手伝いはできない（しない）」で31.3%（25人）で、次に「B. 関心はある。でも、問題点や不安があり、現状では提供は難しい」と「C. 自分でプログラムはつくれないが、手伝ってみたい」が23.8%（19人）と同率で続きます。「A. 自分の趣味や特技、知識などを生かして、プログラムを提供したい」は20.0%（16人）です。

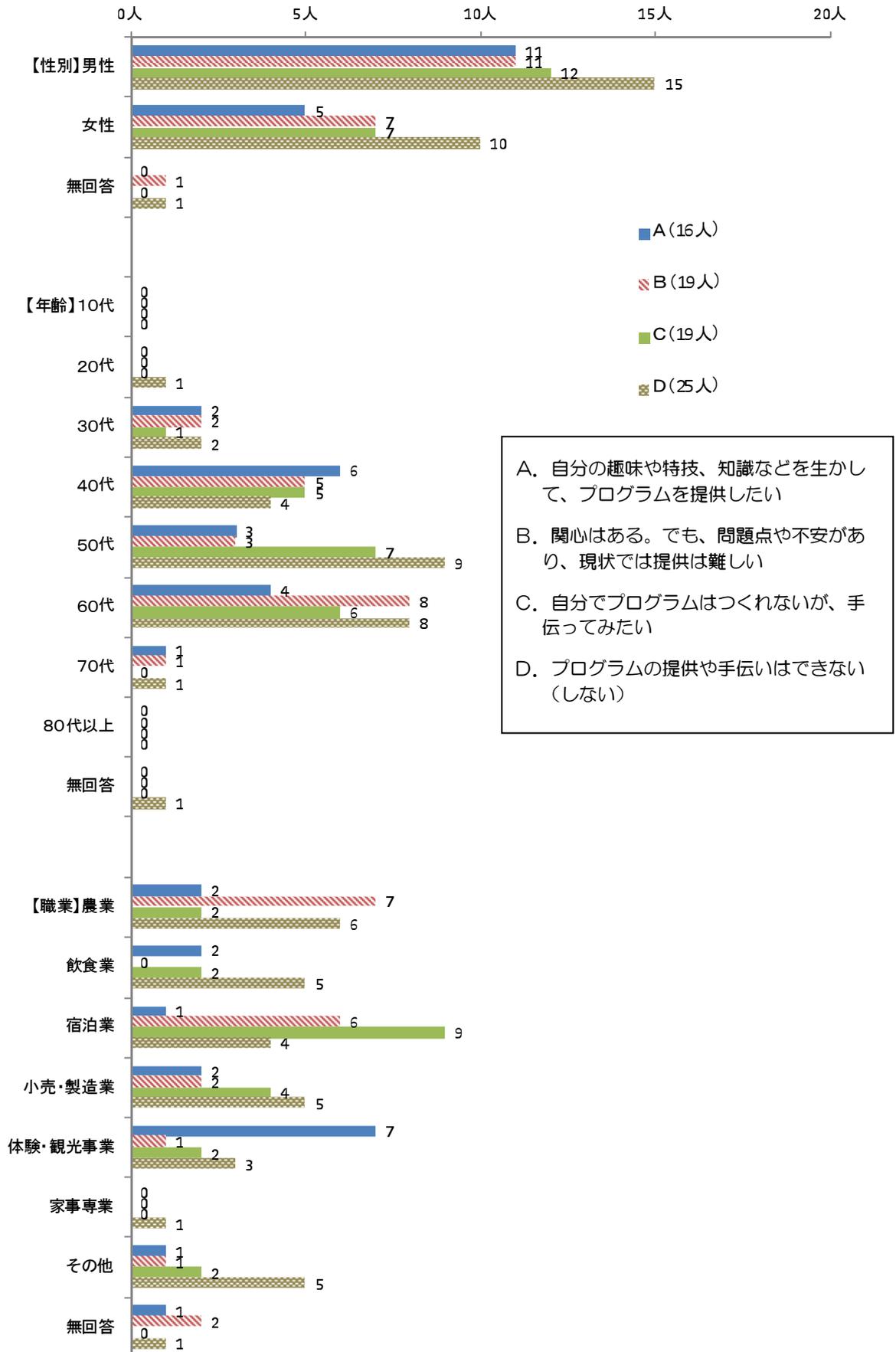
たびいくプログラムの参加意向(80人)



- A. 自分の趣味や特技、知識などを生かして、プログラムを提供したい
- B. 関心はある。でも、問題点や不安があり、現状では提供は難しい
- C. 自分でプログラムはつくれないが、手伝ってみたい
- D. プログラムの提供や手伝いはできない（しない）

- 「A. 自分の趣味や特技、知識などを生かして、プログラムを提供したい」と回答した人の中で最も多かった年齢は40代（16人中6人）で、職業では「体験・観光事業」（16人中7人）です。
- 「C. 自分でプログラムはつくれないが、手伝ってみたい」と回答した人の職業の中で、「宿泊業」は19人中9人を占め、割合が高くなっています。

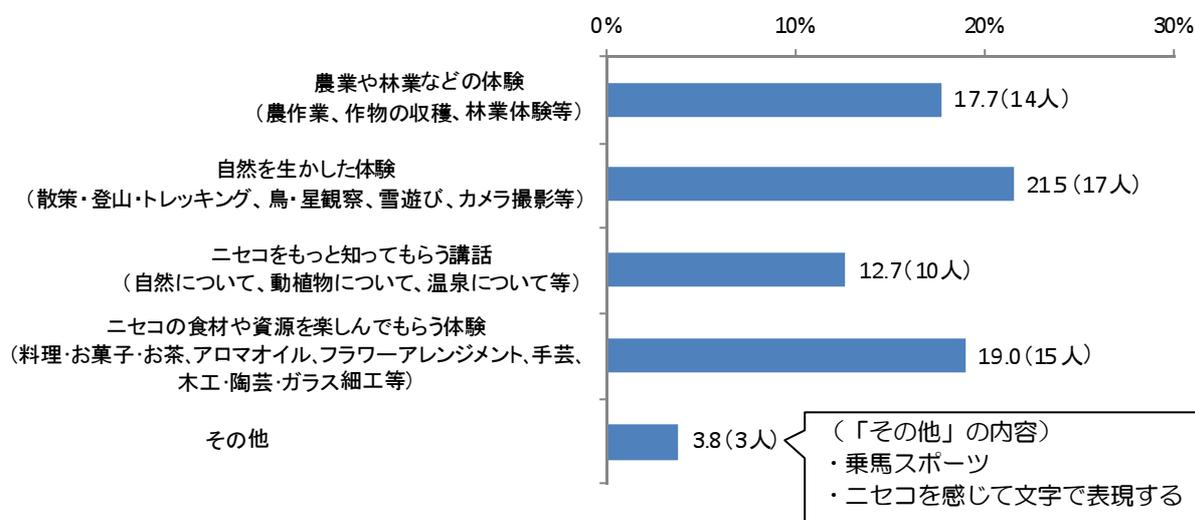
問1の回答ごとの属性内訳



問2 (問1でAまたはBに○をつけた方) ガイドや講師として、どのようなプログラムを提供することが考えられますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 「自然を生かした体験（散策・登山・トレッキング、鳥・星観察、雪遊び、カメラ撮影等）」が21.5%（17人）と最も多く、「ニセコの食材や資源を楽しんでもらう体験（料理・お菓子・お茶、アロマオイル、フラワーアレンジメント、手芸、木工・陶芸・ガラス細工等）」が19.0%（15人）、「農業や林業などの体験（農作業、作物の収穫、林業体験等）」が17.7%（14人）、「ニセコをもっと知ってもらおう講話（自然について、動植物について、温泉について等）」が12.7%（10人）です。

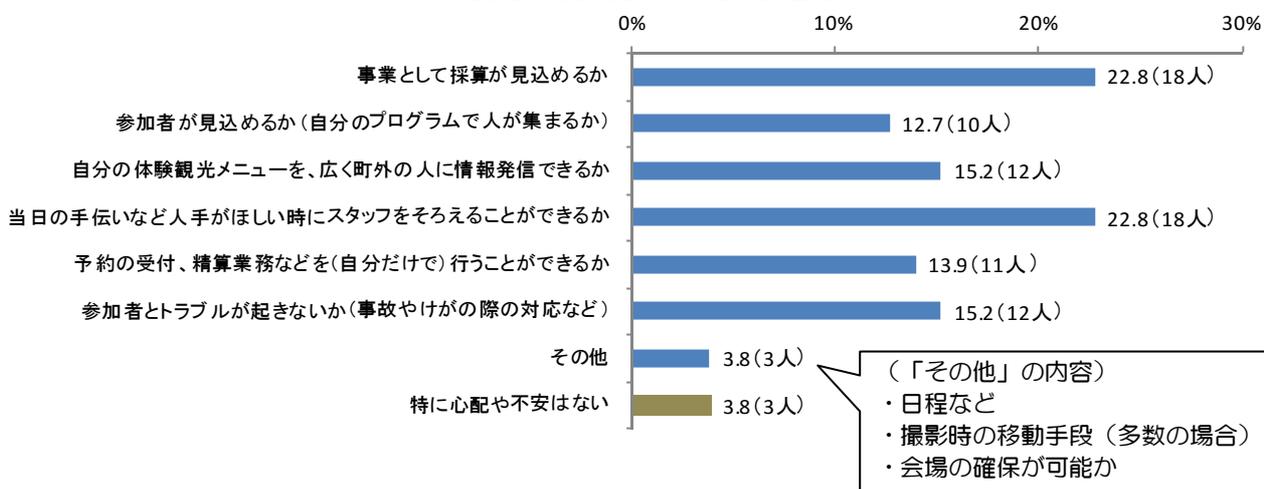
提供できるプログラム(35人、複数回答あり)



問3 (問1でAまたはBに○をつけた方) ガイドや講師としてプログラムをつくり、提供するうえで、心配な点や不安な点は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

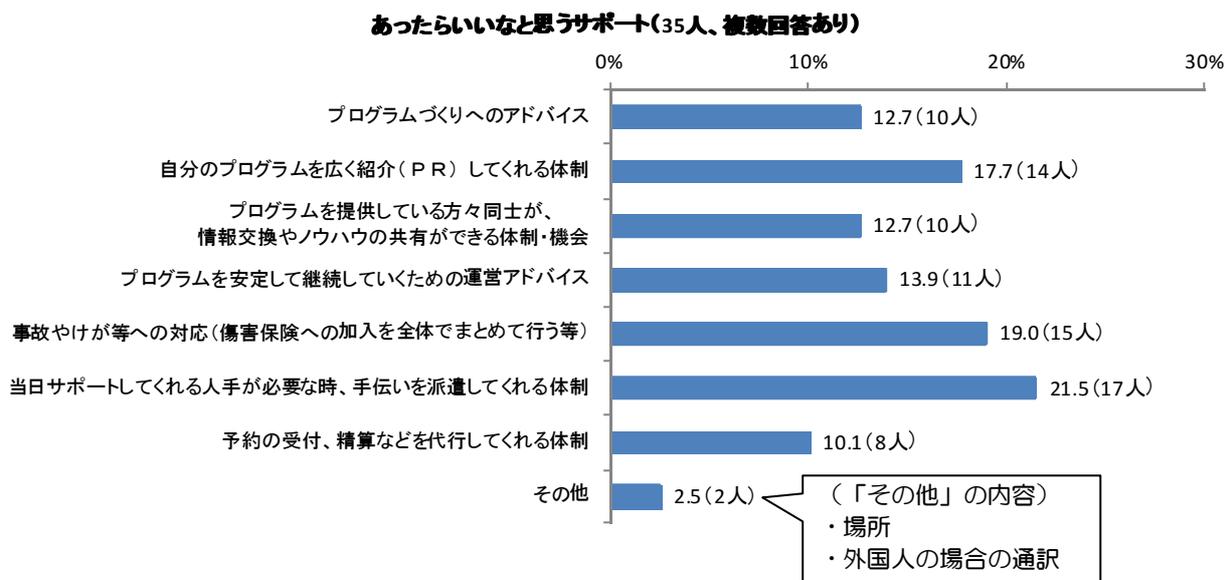
- 「事業として採算が見込めるか」と「当日の手伝いなど人手がほしい時にスタッフをそろえることができるか」が22.8%（18人）で最も多くなっています。

心配な点や不安な点(35人、複数回答あり)



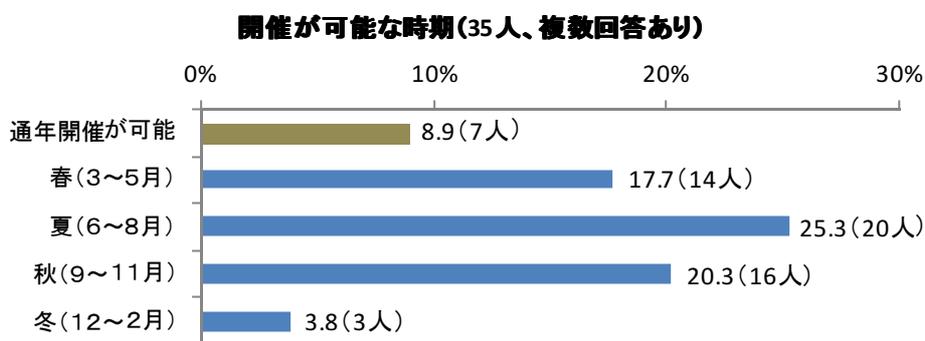
問4 (問1でAまたはBに○をつけた方) プログラムづくりをする(運営する)、あったらいいなと思うサポートは何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 「当日サポートしてくれる人手が必要な時、手伝いを派遣してくれる体制」が 21.5% (17人) と最も多く、「事故やけが等への対応(傷害保険への加入を全体でまとめて行う等)」が 19.0% (15人)、「自分のプログラムを広く紹介(PR)してくれる体制」17.7% (14人) と続きます。



問5 (問1でAまたはBに○をつけた方) プログラムを開催するとしたら、どの時期に開催が可能ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

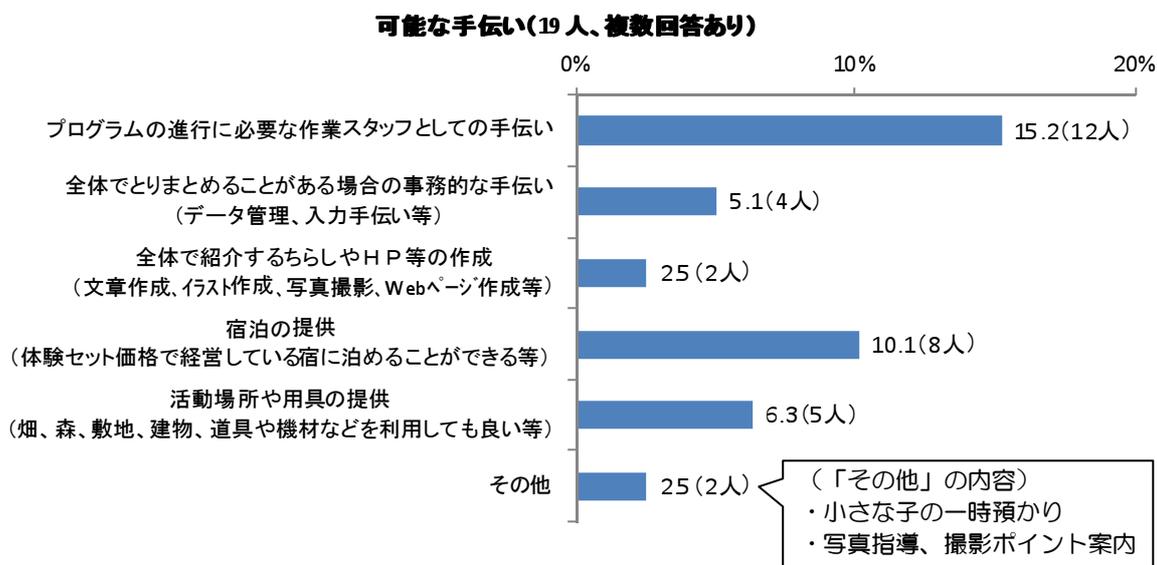
- 最も多かったのは「夏」で 25.3% (20人) です。
- 回答ごとに、問2(提供できるプログラム)の回答内訳を見てみると、いずれの季節も「0人」のプログラムはなく、1年を通してすべてのプログラムの実施が可能です。



問5 \ 問2	農業や林業などの体験	自然を生かした体験	ニセコをもっと知ってもらう講話	ニセコの食材や資源を楽しんでもらう体験	その他
通年開催(7人)	2	5	3	3	1
春(14人)	5	6	3	4	1
夏(20人)	10	8	5	8	2
秋(16人)	8	10	4	5	1
冬(3人)	3	1	1	2	0

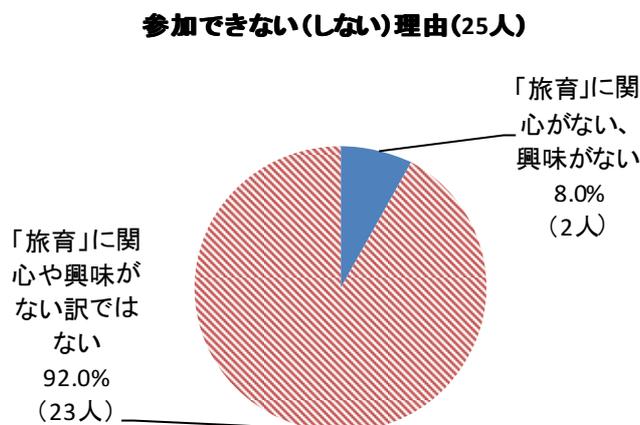
問6 (問1でCに○をつけた方) どのような手伝いが可能ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 「プログラムの進行に必要な作業スタッフとしての手伝い」が15.2% (12人) と最も多く、「宿泊の提供 (体験セット価格で経営している宿に泊めることができる等)」が10.1% (8人) で続きます。



問7 (問1でDに○をつけた方) どのような理由でプログラムの提供や手伝いはできない (しない) ののでしょうか。あてはまる方に○をつけてください。

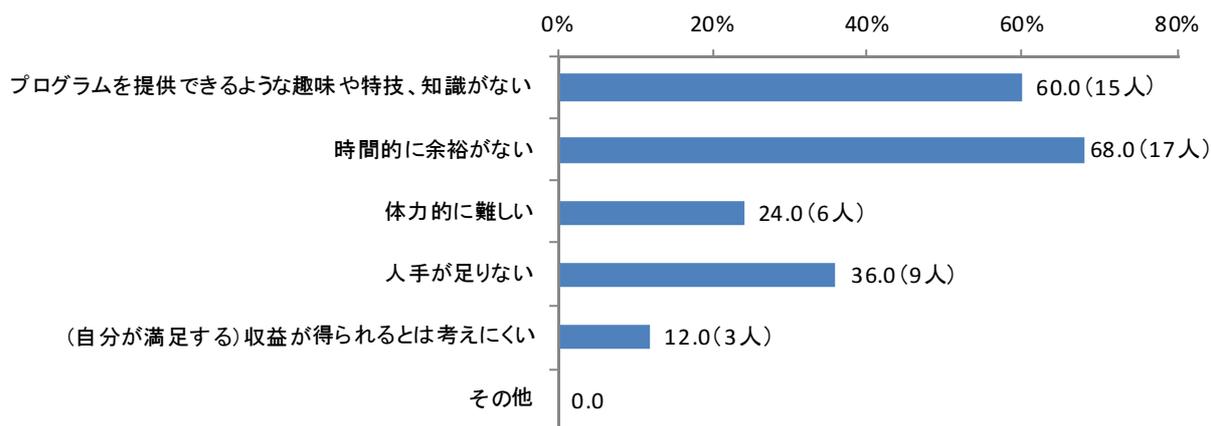
- 参加できない (しない) と回答した 25 人のうち 92.0%にあたる 23 人は「旅育に関心や興味がない訳ではない」と回答しています。



問7-1 「旅育」に関心や興味がない訳ではない」に○をつけた方）関心や興味があってもプログラムの提供や手伝いはできない（しない）理由はどのようなことでしょうか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 「時間的に余裕がない」が68.0%（17人）と最も多く、「プログラムを提供できるような趣味や特技、知識がない」が60.0%（15人）で続きます。

（「関心や興味がない訳ではない」方の）参加できない（しない）理由（複数回答あり）



問8 プログラムをつくるにあたって、みなさんがおすすめの二セコの素材はありませんか。「観光客に楽しんでもらえそうな場所、風景、食材、料理がある」「〇〇さんの話や趣味、特技をプログラムにしては」「歴史や文化、町が取り組んでいる〇〇をテーマにしては」など、ご自分のことに限らず、広くおすすめできるものがありましたら、お書きください。

<農業体験>

- ・眺めのいい場所で、収穫体験ができる。時間もかからず日帰り客でも対応可能。ただし、期間限定。
- ・畑作の1年を感じてもらおう。種をまいて育てて手を加えて収穫する順序を知ってほしい。
- ・新鮮な野菜（トマト、ズッキーニ、かぼちゃ、きゅうり）は美味しいので、野菜の観光農園がもっとあってもいいのではないのでしょうか。

<食>

- ・観光客を、二セコのレストランなどで食事を一緒に食べながら、二セコの歴史、良さや苦労話など、スライドやDVDなどを見せながら説明する。食事をする場所ではできる限り、地元の食材を使うなど。
- ・北海道の食用米の品質が向上するとともに、酒造好適米の品質も上がり、道産の日本酒の品質が向上しています。二セコにも「蔵人衆」というおいしいお酒がありますが、二セコ産にこだわらず、道産酒の飲み比べなどの企画も道外の人にはうけるとおもいます。
- ・二セコ産の米(粉)や小麦を使ったパンづくり
- ・駅の松田裕子さんのじゅうごばあ料理でおもてなし。

- ・じゃがいもはもちろん、冬場の甘いキャベツなど、季節の食材を使った料理
- ・観光客が農業体験したその作物を調理してくれるレストランなどがあればいいと思う。
- ・ニセコの土にこだわった作物をテーマにいろいろ考えるとおもしろいと思う。

<地域の人の技術・知識など>

- ・本通在住の亀田禮子さんの詩吟をプログラムに組み込んではどうでしょう。
- ・字ニセコ・佐藤雅哉さんのログハウス、字ニセコ和中忠雄さんの竹細工・しめ縄作りほか、字ニセコ・工藤伸一さんのピザ釜づくり、字曾我・田中協子さんは漬物の達人、字ニセコ・山崎常雄さんは村の鍛冶屋さん。溶接、鉄材を使用してもものづくりなど。
- ・ニセコ町には、多くの移住した人々が住んでいます。その人々が如何に生活し、どのような価値観でお持ちなのか、など参考にしたい人々は多くいられるように思います。
- ・ニセコ町に人材バンク（教育委員会できりまとめ）がありますが、登録だけで終わって活用されていないようです。学習交流センターあそびっくと連携もあれば、もっと広がると思います。

<歴史>

- ・アンヌプリ山頂のゼロ戦関連施設跡
- ・ニセコの素材と言える疑問ですが、おおよそ 100 年あまりで現在の様子になった経緯など、何か今の私たちの力になったのか開拓者精神を力強く語ってほしいと思います。
- ・有島武郎がニセコでやってきたことの意味をもっと広める。
- ・ニセコ町の歴史を掘り下げて説明するなど、スキーだけでない遺産の紹介。

<アクティビティ、スポーツ>

- ・ニセコ大橋よりバンジージャンプ
- ・乗馬施設を運営しています。いわゆる体験乗馬やニンジンを与えるなどではなく、馬の特性や乗馬スポーツを行う上での知識・技術・マナーを提供したい。
- ・近藤、久保さん宅前のクロスカントリースキーコースで羊蹄山、アンヌプリ連峰を眺めながらクロカン。

<写真>

- ・ニセコ周辺ほど写真の素材が豊富にある観光地はそうないと思う。天気が悪くて羊蹄山が雪に隠れていると写すものがないと言って帰ってしまうカメラマンが多いが、ポイントはもっとたくさんあります。みなさん、知らないだけです。せっかく来ていただいた観光客、カメラマンに、ニセコのすばらしい景観を教えてあげたい。
- ・羊蹄山や自然に着目した写真を撮影する（デジタルカメラが普及しているので、手軽に撮影できるようになっているので）写真家や村やすしさんにご指導いただくなど。
- ・写真撮影の場として、ニセコのスキー場の夜景（夕方、春まで）、光を受けた雪原の雪山、いとう橋（光のある朝、今は雪があってステキです）
- ・地元写真家の案内による隠れスポット撮影ツアー。ニセコ周辺には、四季や時間によって姿を変える撮影スポットがたくさんあります。プロの指導で撮影する。

<散策>

- ・有島記念館とフットパスの組み合わせ
- ・四季を通じて表情を変える風景を散策する（散策の後に食事というの流行しているとか）
- ・フットパスのように歩きながら風景を楽しむイベントを定期的実施する。これにはガイドも必要になる。
- ・以前、2組ぐらい結婚式に使用した曾我神社の風景が良いので、ウォーキング等のコースに入れたら良いと思います。
- ・フットパスをもっとたくさんつくる。
- ・フットパスの道を整備し、魅力あるものにしたらよい。

<町が取り組んでいること>

- ・水力発電や温泉発電、今話題の水道管水圧差での発電、二セコの発電。
- ・水源地や地中熱利用への現場を案内する。
- ・町が取り組んでいる自然エネルギーの活用。地中熱や温泉の利用。（例：二セコ連峰から尻別川へ向けて急傾斜地をたくさんの小川が流れています。そこに水車を設置して発電するとか）

<温泉>

- ・温泉体験
- ・造山と温泉。二セコからの風景で、羊蹄山は欠かせない。羊蹄山の造山とアンヌプリ、チセヌプリ他の造山の関係、年代からみた関係、現在の各山周辺の温泉状況。学術的根拠と小学生でも分かる見せ方（ビジュアル説明の内容）地質の鉱物等と温泉との関係と熱自体の地中熱温泉もこの地下調査で地層があまり変わらず、山の地上断面地層の場所による違いで流水温泉の泉質の違いがあれば、アンヌプリ、チセヌプリの地質が良いと思います。各温泉地の泉質温度にたどりつく感じでも良いと思います。温泉地のマップをもとに、地下 50M-100M-200M・・・と地層帯の図面で、なぜ、互いに近隣にありながら、違う泉質の温泉が出ているのか、羊蹄山が火山でできた山に見えるが、なぜアンヌプリやチセヌプリの方が温泉が多いのか、この辺を学術的に見せ、二セコは良質温泉のゾーンであるなど説明する。素材があることからプログラムではなく、旅育ということで学びは地質学的に、体験は各々の温泉に入ってもらおうということで。

<その他>

- ・水源地を整備してはどうか。
- ・有島地区の整備（例えば、用水路に沿って散策できる道を整備するとか）をして、親水公園を含めてゆっくり一日を過ごしてもらう。
- ・夏のシーズン前後の暖かい日に、屋外での野外映画鑑賞ができれば良いと思う。町民と観光で訪れた人々との交流の場にもなるようなセッティングをする必要があると思うが。
- ・芝生、土地（大自然）の提供。時期は要相談。
- ・場所、食材、風景、温泉
- ・二セコの水の豊かさ、日本の水の豊かさを海外と比較して見れるマップをつくる。

- ・倶知安～二セコ間の鉄道は、車窓からの眺めがとてもきれい。特に紅葉の時期はいい。去年、羊蹄まちしるべ研究塾のメンバーがJRの「特急ヌプリ号（臨時列車）」内で観光案内アナウンスを行っていたが、この区間で、そういうサービスを継続できないだろうか。
- ・二セコの山々（アンヌプリ、イワオヌプリほか）
- ・当店、細々とカフェを続けてまいり19年目を迎えます。お客様の9割以上は女性で主婦がほとんどです（1人客）。最近思いますことは、幸せそうに見える主婦が意外にご自分の居場所がなく、自分探しや友達探しをしていらっっしゃいます。暇な主婦、子育てが終わった主婦が若い方のサポートができるといいということから、ゆめくらぶを立ち上げてみました。二セコに旅に来たついでに安く結婚式をあげたい、子どもたちのお菓子料理教室など、ボランティアでお手伝いできればいいと思います。問題点は、それをどのようにお知らせしていたら良いのか悩んでおります。
- ・風景は、天気が良ければ福井地区のゴルフ場近くで見る羊蹄山、二セコ連峰の景色は最高だと思う。
- ・二セコアンヌプリにある、それぞれのスキー場のリフト、ゴンドラ等を冬だけでなく活用して、春から秋までのアンヌプリを観る。羊蹄山、昆布岳、二セコ町内の景観を楽しんでもらうのはどうでしょうか。それぞれのスキー場にもプラス！？になるのでは…。
- ・自然、農業、食材
- ・山ガールとのお見合企画など。

問9 「旅育」に取り組んでいくうえでのアイデアやアドバイスをはじめ、「旅育」全般に対するご意見をお聞かせください。

- ・昔から二セコに住んでいる人を大切にしてもらいたい。
- ・旅育は「たびいく」と読むのでしょうか。
- ・参加者と共に話し合いながら、企画等の立て方や色々なアドバイスをプロから話を聞いてみたい。
- ・その場所、土地の利点を理解して来てほしい。ばくぜんと北海道だから～というのは無理。
- ・教育旅行誘致を積極的に行い、経済波及をもたらす。
- ・日頃から二セコが「体験する町」から「学ぶ町」になればと思っていました。体験だけでは伝えられない本質の部分、自己責任、マナーなどが広く伝えられると思います。乗馬で学ぶことの7割は、馬に乗らない時間です。
- ・長年にわたって続いていくように、長期的視点で行ってほしい。スタートしたが無くなってしまうものや、最初は盛り上がり、続いてはいるがエネルギーが最初より注がれなくなるのではなく、少しずつ発展しながら継続されていくようなものになればいいと思う。
- ・地域の歴史本州各地の他に例を見ない北海道の歴史を伝え、各自身の力になればと思います。
- ・どこにどんなものがあるのか、マップ作りとその提供は不可欠でしょう。
- ・小学校の廃校（例えば宮田小）を宿泊施設にして、観光客や地元民（例えば小学生の宿泊研修）に利用してもらおう。キャンピングカーなど車で旅行している人には有り難い施設になるのでは。

- ・体験プログラムは全国同じパターン化しているのので、農作物、酪農、花、小魚、オリジナルなもの開発促進を。
- ・たびいくプログラムについて、もっと詳しい意見交換がほしい。現在 SAJ スキースクール（レッスン、修学旅行、レンタル全般）（他アウトドア）、鮎・そば店などを経営しており、検討できる内容であればぜひ参加したいと思います。
- ・近年、田舎暮らしがはやっています。二セコでも本州のスギ花粉の時期に、スギのない暮らしを提供できるのではないのでしょうか。
- ・雪のない地域の方には、ただ雪が多いということだけでも楽しいのでは。雪かきやそり遊びでも。雪国の普通の暮らし体験が良いのでは。
- ・私費を投じてギャラリーを建設して、土日のみ観光客に無料で提供しているが、道の駅を拡張して写真を展示してほしい。もちろん、データは無料でお貸しできるので、プリントだけやってほしい。私もあと10年も活動できないと思う。このままお蔵入りさせるより、多くの観光客に見てもらいたい。少しでも二セコ町に貢献したい気持ちです。
- ・プログラムには個人対応のもの他に、グループ化することにより魅力を増すものがある。単品だけではなく、町全体の個人をうまくつなぐやり方を追求してほしい。
- ・アンケートの内容が限られている。目的を矮小化していないか。このアンケートからどのような結論を想定・期待しているのか。たびいくプログラムを探す目的ならば別の方法、やり方があるだろう。
- ・有償プログラムを対象とするために自ずから制約ができ、広い意見を求めることが難しくなっている。無償プログラム、集合（個人だけでなく束ねることで可能性が高くなるものもある）プログラムなど広く検討できるが、それに枠をはめている。全体的に中途半端なアンケートで、国の予算がついたからとにかくやってみようかという印象をぬぐえない。アンケートをやる前にやるべきこと（検討すべきこと）がもっとあるように思う。その上で実のあるアンケートを実施していただきたい。
- ・現状では、メニュー体験は定価が高く、時間があっても予算面で多種のメニューをこなすのが難しいようです。また、アクティビティな体験が多く、楽しみながら学ぶメニューが少ないようです。ボランティア（多少の謝礼はあり）で参加いただける方を広く募集する取り組みもやってほしい。
- ・二セコ町はいろいろな組み合わせでいろいろなたびいくが考えられます。若い人はラフティングから始まり、テニス、ミニバレーなど。また、熟年者はフットパス、登山、記念館の見学など、さまざま考えられます。年齢別にプログラムを作成し、二セコの食堂およびペンション等を活かした教育を作成していただきたい。
- ・いろいろな体験の中で、またやってみたい、やりたい、また二セコへ、というお客様が増えればと考え、私としては、農業を通して、またやってみたいと思ってもらえるようにしたいです。私の家では、まだ、なかなか人を受け入れて体験されることはできませんが、今後したいと思います。
- ・二セコの農業と観光はもっと深くつながりを持つべきです。例えば、農業の体験ツアーをすることで、二セコの食にまで興味を持ってもらえる。二セコの魅力をアピールできる。
- ・写真は自然、天気によ左右されます。例えば、冬であればイベントとして「餅つき」などした時は、その姿の撮影を組み込むなど、記録写真ではなく作品としての写真撮影などを取り入れてはいかがでしょうか。

- ・過去 11 回も水質ランキング日本一に輝く尻別川を活用した、自然体験活動を 1 泊か 2 泊で行う。他の地区で実績はあるがニセコ町内で行ってみたい。何点か課題があり、1 つは流れる水の透明度が低く、川の中に飛び込むのに気が引ける、すこし臭い（上流の工場排水？）がある、ゴミが目につく、といった環境。2 つ目は、川にアプローチしにくい。車を止めたり大人数が集まれる場所がないといった条件、である。改善は難しいと思うが、観光資源の整備として水環境の改善と川周辺の整備は必要と考える。
- ・福島原発事故以来、自然エネルギーへ注目が集まっています。ニセコ町には利用できる自然エネルギーがたくさんあります。例えば、地中熱利用、水力（尻別川）、火山熱など。町民のアイデアを募集して、アイデアコンテストなどどうでしょうか。ニセコ町などではという自然エネルギーの活用法が見つかるかも。
- ・ギャラリーやアトリエが少ない。多くの芸術家がニセコにはいるが、ばらばらになっている。例えば、宮田旧校舎をアトリエ兼体験工房、さらにギャラリーなどに利用すると、プログラムを行うにあたっての心配な点や不安な点も多少改善されるのではないか。文化協会もあるので、もっと活発になっても良いと思う。すごい方々が大勢いらっしゃるのに、すごくもったいない気がする。
- ・ニセコでしか買えないお土産はないものかと悩むことがあります、あったとしても高すぎたり見栄えがしないので困っています。
- ・最近ニセコの日本酒が出回っていますが、店頭での管理がなっていないところ（日光がガンガン当たっている、温風の真下にある、など）、点検、巡回があってもいいのではないのでしょうか。
- ・ニセコのファンを増やしたい。

問 10 「ニセコ旅育プログラム」に取り組んでいくうえで、意見交換や提案募集などを行う際、ご案内などを送付させていただくことが可能な方は、連絡先をお書きください。

●80 名中、24 人から連絡先の記載をいただきました。

4 たびいく展開の可能性、課題

各種調査の結果から、ニセコ町でのたびいく展開の**可能性**と、展開する際の**課題**についてまとめると、次の通りです。

(1) 「環境型」プログラムについて

①環境施設（堆肥センター、農業ハウス等）の見学について

可能性 熱意ある説明・細やかな対応は、環境学習の理解と満足を高める

今回、環境学習をプログラム化するための実証実験として体験してもらった「堆肥センター」や「地中熱ヒートポンプを利用した農業ハウス」の見学はおおむね好評でした。好評の理由として、熱意ある説明のほか、堆肥センターでは町長、農業ハウスでは高校生が対応したことが、参加者にもてなしとして印象に残ったと思われます。特に「農業ハウス」では、高校生が参加者の質問に答えるという光景が多々あり、地域の高校生と交流しながら学べたことが良かったという参加者の声もありました。

今後、「環境型ニセコたびいくプログラム」にこのような施設見学を取り入れていく際には、現場からの熱意やもてなしが伝わる対応が大切であると思われます。また、一方的な説明以外にも、見学の合間に参加者からの質問に答えたり、補足の説明を行うなどの細やかさが環境学習としての理解と満足を高めることにつながると考えられます。

可能性 他プログラムとの組み合わせ、視察ツアーとして有料化

実証実験の参加者に商品化した場合の金額を尋ねた際、これらのプログラムについては、他の体験プログラムと比べて“払ってもいい価格”が低い結果となりました。個人客の場合は、「試食」や「収穫体験」などがない場合、施設見学だけで有料化する（事業化する）ことは難しいと思われます。他の体験プログラムと組み合わせたツアーとして参加してもらうなど工夫が必要です。

一方、教育旅行や視察などの場合は、本町が取り組む環境・エネルギー対策を学んでもらう重要なプログラムとなることが考えられます。北九州市のように、複数の環境・エネルギー関連プログラムを取り入れて視察ツアーを設定すれば、有料化の可能性があります。

可能性 自然環境など施設以外の地域資源の活用

今回の実証実験は、施設の見学をメインとしたものでしたが、そのほかのプログラムの素材として、「水質日本一に輝いた尻別川を活用した体験活動」や「水源地の見学」などがアンケート調査から提案されました。水の豊かさや環境の良さを学ぶ野外体験プロジェクトなど、施設見学以外にも、地域資源を組み合わせた環境教育プログラムがいろいろと考えられます。

課題 快適に見学できる環境やスケジュールの調整

各施設を見学する上での課題として、堆肥センターは時間帯によっては臭いが強まることもあり、施設見学にベストなタイミングや時間帯を選んでプログラムを実施することが必要です。また冬場は雪で足下がぬかるみ、靴の汚れを気にかける参加者も見られたため、快適に見学できる環境が求められます。

農業ハウスについては、ニセコ高校が所有している教育施設であり、プログラムを実施する場合は、高校側との調整が必要です。さらに、高校生の対応や野菜の収穫体験の実施などを考えると、希望に応じていつでも開催することは難しく、回数や期間を限定して実施することが必要と思われます。

課題 ストーリー性のあるプログラム構成

「地産地消の旅」では、“食べた残りが土に返り、また土になる”を感じることができるプログラムをつなげたストーリー構成が評価されました。一方、「食と環境を美味しく学ぶツアー」は、1泊2日の中で多様なプログラムを実施し、それぞれのプログラムに対する反応を確かめることが目的であったため、各プログラムのつながり（一貫性）が弱く、的を絞った内容構成を求める声がありました。

「環境教育」に焦点をあてたプログラムを複数で構成する場合、環境に関する理解や意識啓発をより効果的に促せる構成にすることが重要です。

なお、「地産地消の旅」では、ストーリーをより際立たせるために、堆肥センターの見学を午前と午後の2回行いましたが、1回で良いとの声もありました。プログラム提供側の「伝えたいこと」が強すぎてストーリー性を追求するあまり、参加者の「期待や満足」に答えられないことも考えられます。「環境教育として伝えたいこと」と「旅としての期待や満足」のバランスをうまく保つことが必要です。

②電気自動車の利用について

可能性 「ちょっと出かけたがたい」時の交通手段として、利用ニーズは高い

今回実証実験を行ったホテルにはレンタカー会社の営業所があり、空港で借りたレンタカーをホテルで返却し、滞在する観光客も少なくないため、（レンタカー利用の多い）夏ならばもっと参加者がいたのでは、という担当者の声もありました。滞在中にちょっと外出したい、ドライブしたいという人たちのニーズは高いと思われます。

また、今回のモニターツアー参加者は、6件ともニセコ町までバスで来ており、電気自動車を利用した理由の多くは「ちょうど外出したかった」ということでした。レンタカーを使わずバスを使って来る人たちにとっては、滞在中ちょっと外出したい時に短時間電気自動車を借りるニーズは、季節に関わらずあるものと思われます。

課題 冬期に利用することへの不安の解消

モニターツアーで電気自動車を実際に試乗したのは6件（申し込みは10件）と、最大で30件を予定していたことから比較すると、低い利用率となりました。

ツアーの受付を依頼した担当者の話によると、利用の呼びかけを行った際、「冬道を運転したことがないから怖い」という理由で断られることがあり、冬期に実施したことが参加件数の少なさに影響したのではと推察されます。

北海道外からの観光客は、冬道を運転することに慣れていない人が多く、慣れない電気自動車を利用することには抵抗感があると思われるため、冬期に電気自動車の貸し出す場合、夏期に比べ利用が低調となることが予想されます。

しかし、利用者の感想として、普段冬道を乗り慣れているホテルのスタッフだけでなく、モニターツアー参加者からも「思った以上にパワーがあり問題ない」「乗りやすい」とい

た声が聞かれました。また、「地産地消の旅」の空き時間で参加者に電気自動車に試乗してもらった際にも、乗り心地は好評でした。このようなことから、「パワーがない」といった電気自動車のイメージと実際の乗り心地には差があると思われるため、冬道での走行についても安全であることをPRするなど、利用を促進していくことが可能です。

課題 充電に対する不安の解消

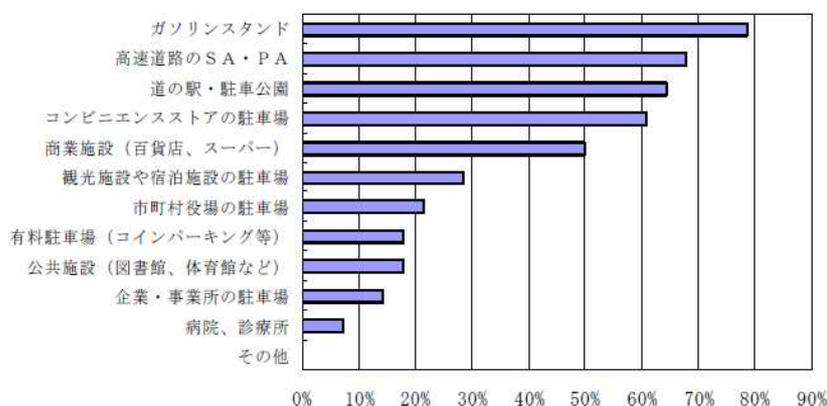
一般的に、電気自動車のバッテリーは低温時に充電時間が延びるほか、走行可能距離が低下する性能低下が起こります。また、電気自動車は、冷暖房を走行用バッテリーで行うため、エンジンの廃熱で暖房をまかなうガソリン車に比べ、暖房を使うことによりバッテリーの減りが加速します。

冬道の走行性ととも、低温時のバッテリー性能や暖房利用によるバッテリー消費は、北国での電気自動車利用の大きな問題となっており、今回のモニターツアー参加者からも、バッテリーの減りの早さを指摘する声や、不安を感じる声があげられました。

通年実施をめざすたびいくプログラムにおいて、電気自動車の利用を考えると、充電器の配置とともに、冬期においても無理のない利用方法を心がけることが必要です。

なお、充電スタンドの設置箇所については、モニターツアー参加者から、「観光&買い物ポイント（3名）」「道沿い（2名）」「コンビニエンスストア」「道の駅」「ホテルの駐車場」「ガソリンスタンド」に設置してほしいとの声が寄せられました。電気自動車カーシェアリング利用者を対象としたアンケート調査でも、ガソリンスタンド、道の駅、コンビニエンスストアなどが上位にあげられており、観光地であるニセコ町では「観光&買い物ポイント」への設置要望が多いものの、同様の設置意向が伺えます。

Q. EVの充電場所はどのような場所にあるのが望ましいですか？



出典：北海道「EV（電気自動車）に関するアンケート調査（平成22年度）」より

課題 カーシェアリング事業での採算性の確保

北九州市では、事務局とは別のNPOがカーシェア・サイクルシェアリングを運営しており、拠点を30か所つくる予定で整備を進めていますが、現在のカーシェアリング登録者は128名で、整備にかかる費用をふまえると、現状では採算が追いついていない状況です。

二セコ町では、「視察型たびいく」での交通手段として電気自動車を活用するほか、カーシェアリングとして活用することも考えられます。しかし、北九州市の状況から考えると、カーシェアリングで採算性を得ることは難しく、平日は役場が公用車として使い、土日はレンタカーとして一般に貸し出すといった、公用車・レンタカー併用のカーシェアリングからスタートしてみることが望ましいと考えられます。

(2) 「食や農」に関するプログラムについて

①料理教室や話を聞くプログラムについて

可能性 食べるだけでなく「学ぶ」プログラムのニーズは高い

「地産地消の旅」での地元レストランシェフの料理教室は、参加者20名中16名が参加目的にあげるほど人気が高く、参加後の感想も「美味しかった」以外に、「勉強になった」「分かりやすい話だった」と料理を学ぶ部分に対して高い評価を得ました。「地元農家・野菜ソムリエの話」でも、「試食したスムージーのレシピを知りたい」「野菜の美味しい食べ方について知りたい」という学びのニーズが少なくありませんでした。参加者の多くが（日頃食事を作ることが多い）女性層であったこともあり、食に関するプログラムでも「実践的な知識や技術が学べる」ことへのニーズが高いことが分かりました。

二セコ産の美味しい食材を食べ、かつ学ぶことができるプログラムが求められています。

可能性 「普段聞けない話」「現場の話」が聞ける特別感、影響は高い

地元農家の話については、普段、なかなか聞けない苦労話（特に今回は何年もかかって栽培するゆり根の話であった）を聞くことができ良かったという感想が寄せられました。

翌日は、直売所で多くの人が話で聞いたゆり根を購入しており、地元農家の話の内容が購買を誘引していました。生産者である農家の方々から直接話を聞くことはあまりなく、生産物にまつわる物語や苦労話が聞けるプログラムは、二セコ産野菜への理解を促し、その後のファンやリピーターを増やすことにつながると考えられます。

課題 スケジュール計画や会場準備は念入りに

地元シェフの料理教室は評価が高かったものの、料理教室の進行に時間がかかり、昼食も兼ねた試食の時間が遅れました。一方、「食と環境を美味しく学ぶツアー」では、アイスクリームやスムージーの試食、翌日にはいももちの試食など、昼食、夕食のほかに食べる機会が多く、試食の回数やタイミングに配慮を求める声がありました。

食べる機会を含むプログラムは、参加者にとって無理のない時間帯や回数で開催することも、参加者の満足度を高める要素となります。

また、地元シェフの料理教室では、会場に道具が十分揃っていなかったことが、時間を要した原因の一つとなりました。レストランシェフや個人が会場を借りて料理教室を行う場合、必要な道具の確認や下準備などを十分に行っておくことが必要です。

②「収穫」に関する体験について

可能性 「収穫して、学んで、食べる」の流れがあると効果的

「料理教室に使う野菜を収穫する」「越冬ジャガイモを収穫する」といった収穫体験プログラムはいずれも好評で、特に越冬ジャガイモを収穫するプログラムは、参加者の72%が「期待以上に楽しかった」と回答しています。双方とも、収穫だけでなく、収穫物に関する話を聞いたり、調理して食べたりすることによって、より収穫物に愛着が増し、満足度が高まったと思われます。

学びの要素を高めるためにも、単に収穫体験で終わらず、収穫したものについて学んで食べる、という一連の流れがあることが「たびいく」の視点からも必要であり、複数のプログラムを組み合わせるツアーをつくる際には重視すべき点です。

課題 雨天時、悪天候時など、天候の変化への対応

収穫体験のほとんどは、野外で行うことが想定されます。今回の実証実験での収穫体験は、いずれも天候の影響を受けず無事に行われましたが、プログラムとする場合、雨天や吹雪などの悪天候と重なることも想定されます。

当日予約のみ受け付ける場合は、その日の状況で中止となることに問題はありませんが、事前に予約を受ける場合は、代替として実施できるプログラムをできる限り用意しておくことが必要です。

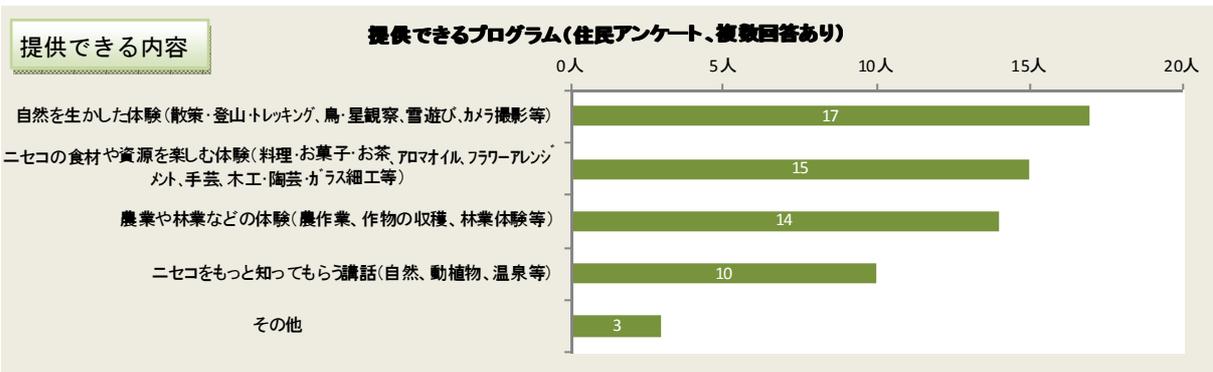
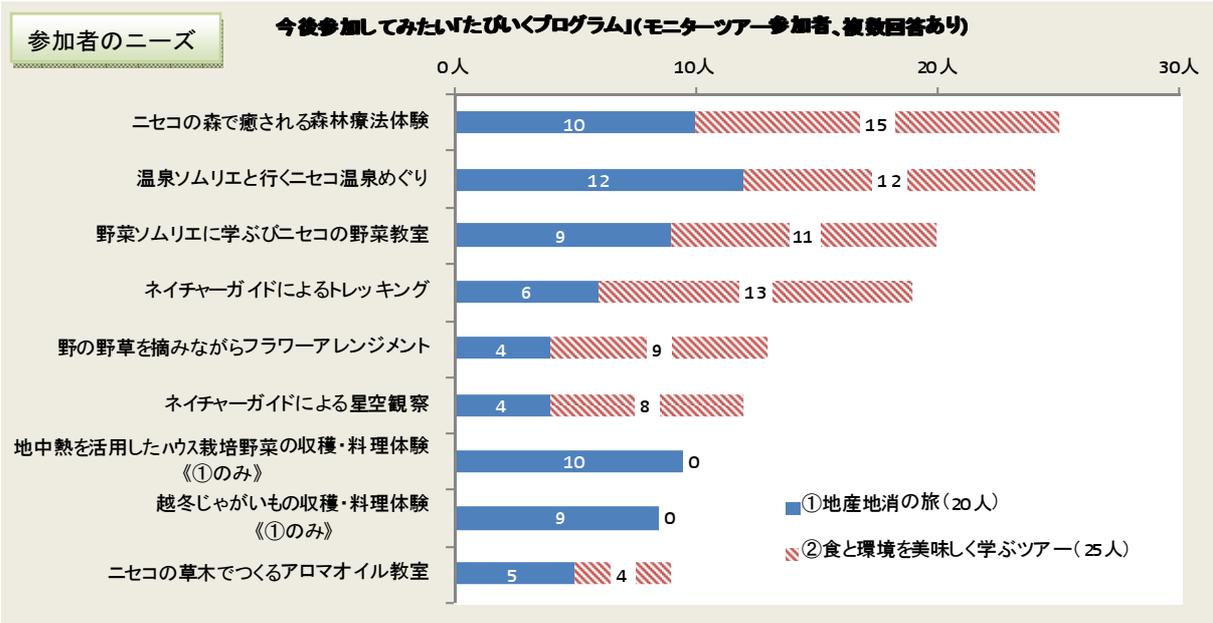
(3) その他のプログラムについて

可能性 トレッキングや森林浴など自然をのんびり楽しむニーズは高く、実現性も高い

モニターツアー参加者が今後参加してみたいプログラムとしては、温泉や野菜をテーマとしたもの以外に、「森林療法」や「トレッキング」など、自然の中で過ごしたり歩いたりするプログラムが人気でした。

これに対して、住民が提供できるプログラムは、自然を生かした体験（散策・登山・トレッキング、鳥・星観察、雪遊び、カメラ撮影等）が最も多くなっています。

町内には、ニセコを歩き楽しむためのフットパスコースが設定されており、多くの人が散策を楽しんでいます。これらの資源と住民の自然に関する知恵や技術を活かして、歩きながら自然を学ぶことができる「たびいくプログラム」を実施することが可能です。



ニセコ町内に設定されているフットパス

ニセコフットパス

支庁新緑国立公園、ニセコ峠丹小樽海神国立公園に囲まれた自然豊かなニセコ町。歴史的な田舎が広がる一方でリゾート地として宿泊施設や観光のお店が立ち並ぶ活気ある町並みもっています。

「ニセコフットパス」は、ニセコ町を歩くことを楽しんでいるために、自然・観光・農業といった町の特色を活かし、それぞれに特色のある全5コース(3地区)になっています。

コース紹介

- 文学・歴史の散歩道** [全長10.6km / 約3時間20分]
 - ～有馬地区を中心に戦国時代の歴史を巡るコース～
 - ニセコ駅 ▶ 鏡子の蔵 ▶ 有馬記念館 ▶ 鏡2カシユベツ川沿い ▶ ニセコ駅
- 自然と歴史の道** [全長11.0km / 約3時間30分]
 - ニセコアンヌプリ山麓コース
 - 自然豊かなアンヌプリ山麓の林道を歩くコース
 - モイリスキー場 ▶ 林道ニセコモイワ線 ▶ 林道ニセコ東山線 ▶ ミルク工房
 - 東山・巻巻コース
 - ～観光スポットや遺跡・史跡などの歴史を巡るコース～
 - ミルク工房 ▶ 巻巻神社 ▶ 東得郷 ▶ ニセコ駅
- 田舎と風景のさど**
 - 宮田コース [全長9.0km / 約3時間]
 - ～ルベン川沿い、田舎と様々に変化する風景を楽しむコース～
 - バス停「宮田小学校」 ▶ 善訪「元町」神社 ▶ 道の駅ニセコユープラザ
 - 播磨コース [全長12.0km / 約3時間30分]
 - ～雄大な風景を楽しむながら田舎のかわらさを歩くコース～
 - 道中町ニセコセンター ▶ 名瀬川神社 ▶ 相馬神社 ▶ 湯井地区ニセコセンター

フットパスコース

ニセコフットパスコース

- 1 ニセコカントリーロードコース 12Km**
～見物川沿いを散策するコースです。～
- 2 文学・歴史の散歩道 10.6Km**
～有馬地区を中心に戦国時代の歴史を巡るコースです。～

コースを詳しくみる

ウェルカムフットパス実行委員会ホームページより

「ニセコフットパスマップ」(ニセコ・ようていフットパス推進協議会製作・編集)

森林療法体験についても、里山を歩きながら森の動植物や生態系などについて学ぶプログラムや、美味しい空気の中で食事を楽しむプログラムも考えられます。

モニターツアー参加者からは、野鳥観察や野草の勉強、写真撮影などを求める声もあり、フットパスや森林療法をベースにしながら、多様なプログラムをつくっていくことが求められています。

森林療法体験プログラムの事例「春の森林セラピーロード散策」の様子と「癒しの森弁当」



山口市ホームページより

可能性 入るだけでなく、学びのニーズも高い温泉

ニセコ町には 23 もの源泉が点在しており、たくさんの泉質を楽しむことができます。近年は、「温泉ソムリエ※」という資格もあり、入浴だけでなく温泉の効能に関心を持つ人も増えています。実証実験の参加者からも今後参加したいたびいくプログラムとして「温泉ソムリエと行くニセコ温泉めぐり」を希望する声が高く、プログラムのテーマとして温泉を扱うことは有効と考えられます。

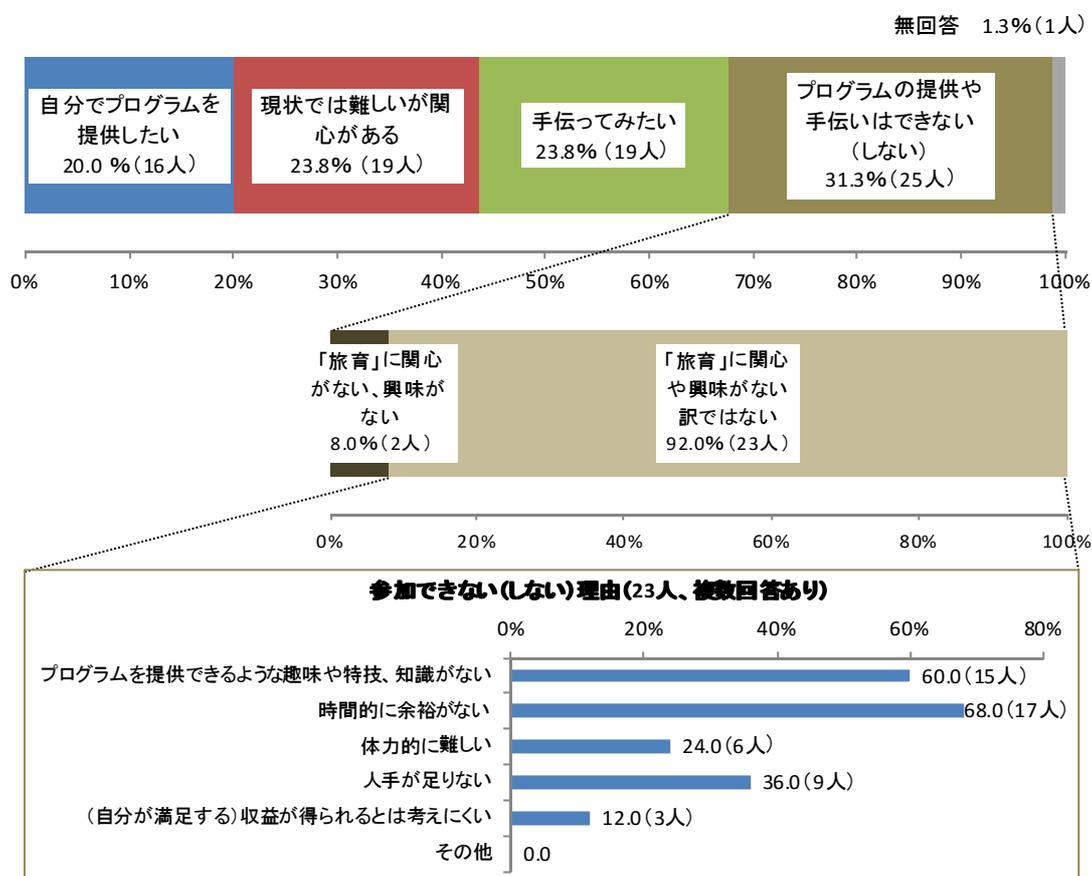
※温泉ソムリエ協会が「温泉の知識」と「正しい入浴法」を身につけた方に認定する民間資格で、ワインの知識を持ち、テイastingやでキャンタージュのような技術を持つ「ソムリエ」資格にならない、「温泉の知識」と「入浴法という技術」を身につけようというものです。試験はなく、温泉ソムリエ協会が公認した1泊2日の「温泉ソムリエ認定ツアー」やワンデーセミナーの「温泉ソムリエ認定セミナー」に参加することで認定されます。（平成 25 年 2 月現在温泉ソムリエ検定合格者は 238 人）

(4) 住民アンケート結果から考える、実施体制について

可能性 たびいくプログラムに対しては肯定的

住民アンケートによると「自分でプログラムを提供したい」「現状では難しいが関心がある」「手伝ってみたい」人を合わせると67.2%となり、プログラムに何らかの関わりを持ちたい人は多くいるものと考えています。一方、3割を占めた「プログラムの提供や手伝いはできない(しない)」人の多くは、「提供できないことがない」「時間に余裕がない」という理由で選択肢を選んでおり、旅育に関心がないわけではない、と回答しており、アンケート回答者においては、おおむね「たびいくプログラム」に対して肯定的であることが伺えます。

プログラムへの参加意向（住民アンケートより）



課題 プレイヤーもサポーターも求めているのは「当日の手伝い、スタッフ」

また、提供したい、関心があると回答した方に、プログラムをつくり提供する上で“心配・不安な点”や“あったらいいなと思うこと”を尋ねたところ、いずれも「当日の手伝い、スタッフ」が最も多くあげられました。一方、手伝ってみたいという回答者が手伝える内容として最も多くあげたのも「作業スタッフ」であり、双方のニーズが合致していることが分かりました。

提供する人（プレイヤー）を増やすには、作業などを手伝える人（サポーター）を増やすことも重要です。

(5) 先進地視察から考える、プログラムや体制のつくり方について

①北九州スマートコミュニティ創造事業（視察ツアー）より

北九州市では、平成 22 年度から北九州スマートコミュニティ創造事業がスタートし、視察や研修、マスコミ取材など多くの来街者が訪れるようになりました。

当初、見学視察の窓口が、北九州市、参画企業、NPO 法人の 3 つあったため、複数の窓口によるスケジュール調整の難しさ、対応や説明にかかる各企業や施設の負担などの問題が発生しました。そこで、見学や視察を無理なくスムーズに運営するシステムづくりが必要となり、北九州スマートコミュニティ創造事業の関連企業、行政、東田立地企業、大学、そして NPO 法人が協働事業として取り組むガイドツアーとして、「ココスマツアー」が誕生しました。「ココスマツアー」は、平成 24 年 8 月にスタートして以来、これまで 120 組延べ 1,300 名の参加者があり、参加者のうち 8 割以上が企業からで、メーカーやデベロッパーが視察に来ています。

可能性 「視察型・教育旅行型」の受け入れ

[北九州市では]

- 北九州スマートコミュニティ創造事業では、環境に関する取り組みに対して多くの視察を受け入れており、受け入れの体制や流れが確立していました。

[ニセコ町では]

- ★視察に来る 8 割を企業が占める北九州市と異なり、ニセコ町では観光客の参加割合が高いと思われませんが、ニセコ町においても、施設見学を含め、複数のプログラムでツアーを造成することによって、視察や教育旅行などを受け入れることは可能と思われれます。

北九州の視察ツアーの流れとニセコ町での実施を考えた場合の例

	北九州市の「視察ツアー」	ニセコ町で想定した場合
受け入れの流れ	<p>【前日までに】</p> <p>①HPから視察受入れ空き状況を見て、事務局にメールで申込み</p> <p>②事務局から連絡と見積り（視察時間やバスの要不要、行程の調整など）</p> <p>③正式依頼（名簿など提出）</p> <p>【当日】</p> <p>④最寄のJR駅合流</p> <p>⑤バス車内で事務局がマイクを使って案内、車窓から施設を見学</p> <p>⑥センターで車を降り、屋内で事業全体のプレゼンを聴く</p> <p>⑦別の場所へ移動し、スペシャルトークを聴く（視察ニーズに応じてゲスト設定）</p> <p>⑧解散</p>	<p>【前日までに】</p> <p>①HPから視察受入れ空き状況を見て、事務局にメールで申込み</p> <p>②事務局から連絡と見積り（視察時間やバスの要不要、行程の調整など）</p> <p>③正式依頼（名簿など提出）</p> <p>【当日】</p> <p>④JRニセコ駅またはニセコビュープラザで合流</p> <p>⑤屋内でニセコ町全体のプレゼンを聴く</p> <p>⑥車内で事前説明後、環境やエネルギーの配慮した関連施設に到着し、見学</p> <p>⑦別の場所へ移動し、スペシャルトークを聴く（視察ニーズに応じてゲスト設定）</p> <p>⑧解散（2日間コースの場合は宿泊所へ）</p>

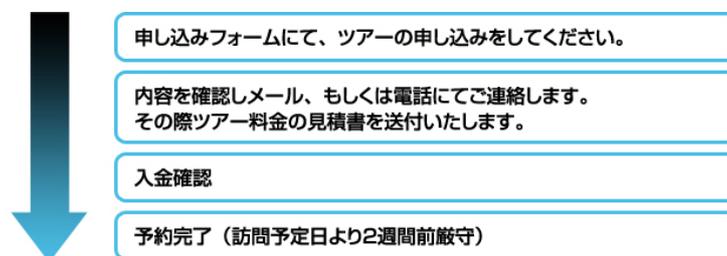
ガイド	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理者として環境教育に特化したガイド業務を行っていたNPOがガイド役を担っている。 NPOの拠点である東田エコクラブもエコ施設で、その視察が多い。視察対象企業は多々あり、個々の企業で視察受入ができないのでNPOが担っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境やエネルギーの配慮した関連施設については、それぞれの施設担当者がガイドを行う。あるいは、説明内容を熟知した上で事務局等でガイド役を担う。
対象	<ul style="list-style-type: none"> 視察の8割は企業 	<ul style="list-style-type: none"> 教育旅行 一般団体（ツアー） 一般個人 自治体 など <p>（現在、ニセコ町に視察で来る（道内）自治体は、年間10組未満）</p>

課題 参加者のニーズに沿ったツアーの提案とスケジュール管理

[北九州市では]

- ココスマツアーは、オンライン上で予約状況を確認することができ、希望日の空き状況を確認した後、申込みフォームから申し込む流れを取っています。予約申し込み後、「NPO 法人里山を考える会」から直接連絡があり、ツアーの目的や特に視察したいポイントを打ち合せ、その内容をもとに、「NPO 法人里山を考える会」からツアーの行程案が提案する形を取っています。

ココスマツアーの予約の流れ（NPO 法人里山を考える会のホームページより）



- ココスマツアーは受入れ開始当初、1日に何件も受入れていた結果、品質の維持とスタッフの確保が課題となったため、現在は受け入れを1日2件（午前午後各1回）までとしています。ツアーは、NPO 法人里山を考える会の案内によりエリア内をミニバスで巡るスタイルで、行程は事前に調整し、「車窓から見学」「降車して見学」「PRルームでのプレゼン」「スペシャルトーク」の4つを時間内に収めて行われます。

[ニセコ町では]

- ★本町においても、より魅力的な視察プログラムを提供するには、ツアーの申し込みを受けた際、相手の視察ニーズを把握し、それらに応じたツアー内容を提案することが必要です。
- ★実証実験でも感じたとおり、複数のプログラムを組み合わせるツアーの際には、スケジュール管理が重要です。視察ニーズをふまえて、どこでどれだけ時間をかけるのか（かかるのか）を計算し、綿密なスケジュールを立てることが必要です。

課題 ツアーガイド役の育成

[北九州市では]

- ココスマツアーのガイド役は、町内の施設概要や取り組みを詳しく把握しており、また、町内の環境施設を見学するため、錠の管理を行っています。

[ニセコ町では]

- ★本町でツアーを実施する際にも、町内の施設概要や取り組みに詳しく、施設の管理が任されるガイド役が必要です。長期的な視点で、ガイド役を育成する必要があります。

課題 案内板の整備

[北九州市では]

- 視察スポットに案内板が設置されており、分かりやすい説明が記載されています。また、案内板の設置により、「北九州スマートコミュニティ創造事業」のPRや統一感につながっています。

[ニセコ町では]

- ★本町でも、統一の案内板やサインを用いることで、参加者への情報提供となるほか、「たびいく」の取り組みが可視化され、町全体の理解が深まることにも寄与すると考えられます。

北九州市のスポット案内



②久留米まち旅博覧会より

「久留米まち旅博覧会（以下、久留米まち旅）」は、平成 23 年春に九州新幹線鹿児島ルートが全線開業するのを前に、地域資源を生かした観光商品を開発しようと平成 18 年からはじめた「商品化戦略プラン事業」の取り組みの一つです。

“街を知り、人と出会う新しい旅の形”の意味を込め「まち旅」と名付け、博覧会開催の数年前から準備を進め、実施に至った経緯がありました。

可能性 観光業以外の人々によるプログラムづくり

[久留米市では]

- 久留米市がまち旅に取り組んだ経緯は本町とは異なるものの、住んでいる人も含め“地域の資源”を活かした観光をめざすという基本的な考え方は共通しています。

[ニセコ町では]

- ★本町には体験プログラムを実施している観光業の方が多くいますが、そのほかにも、さまざまな知識や技術を持っている人がたくさんいます。それらの人に呼びかけて、個性あふれるプログラムをつくっていくことは、本町においても可能であると考えられます。

可能性 プログラムの研究、コーディネート

[久留米市では]

- 久留米まち旅は、地域全体での着地商品の開発、市民の連携、地域ならではのホスピタリティを醸成するため、まちづくりや農業に携わる市民 22 人で「商品化戦略プランワ

ーキングチーム」を立ち上げ、市民主体でプログラムを考案していました。その結果、「B級グルメ」「体験プログラム」「ニューツーリズム」「まち歩き」の4テーマで53プログラムを考え出し、その後、その案をもとにコーディネーターがプレイヤーに働きかけ、第1回博覧会開催時には39プログラムが実施に至りました。行政主体で推進体制を立ち上げつつ、まずは市民の発想を大切にアイデアを引き出し、さらにコーディネーターが商品化に向けて調整を行うという、開発段階における役割分担がありました。

[ニセコ町では]

★本町においても、地域の資源を総合的に考えてプログラムのアイデアを出し合ったり、複数のプログラムをコーディネートしてツアー化していく仕組みがあると、地域に根ざした魅力ある内容となる可能性が高まります。住民アンケートでは、「たびいくプログラム」に関心がある人は一定量存在する結果が出ており、プログラムの研究やコーディネートを行っていくことが可能と考えます。

可能性 人の魅力を活かした内容

しめ飾り作り体験の様子

[久留米市では]

●今回体験したプログラムは、しめ飾り作りでしたが、しめ飾り作りは手段であり、目的は異文化交流やおもてなしを受けることでした。また、食事をふるまわれる内容も含まれており、九州と北海道の、食文化の違いを楽しむことができました。



[ニセコ町では]

★プログラム内容以外に、参加者目線に立ったもてなしを受けることが満足度に影響することは、実証実験でも分かりました。参加者は、知的好奇心を満たすほか、プログラムを通じて地域の人と交流し、風土や文化の違いを楽しんだり、温かいもてなしを受けることを楽しみにしていると思われます。本町には、さまざまな知識や技術、経験を持った人たちが多く、「人」の魅力を感じることができるプログラムをたくさん生み出すことは可能であると考えます。

課題 プレイヤーの自主性を基本としたプログラム

[久留米市では]

●久留米まち旅に参加することを楽しさを感じたプレイヤーは自ら内容のブラッシュアップを考えるようになりました。一方、受け身的なプレイヤーは継続には至らず、現在は約20のプログラムが存在しています。実施・継続の意志はあくまでもプレイヤーの判断とし、やる気のあるプレイヤーによるプログラムづくりを基本としています。

[ニセコ町では]

★本町においても、数をそろえることにこだわるのではなく、プレイヤーが主体的に責任を持って提供するプログラムをそろえることが重要と考えます。

課題 プログラムのブラッシュアップ体制

[久留米市では]

●久留米まち旅では、事務局のほか、運営委員会8名が、プログラムの品質管理などをボランティアで行っています。プレイヤーは自分がやりたいプログラムを企画シートで提

出し、運営委員会はその内容がより良くなるためのアドバイスや、予約受付の代行などを行い、プレイヤーを支えています。プレイヤーの自主性に任せながらも、商品の質を高め、継続・発展していくためのフォローを事務局と運営委員会が行っています。

[ニセコ町では]

★すでに多くのアクティビティプログラムが行われている本町では、参加者がたびいくプログラムにもそれなりの質や満足感を求めることが予測されます。「ニセコたびいくプログラム」という看板を掲げていく上で、プレイヤーに任せきりにせず、スタート時最低限の質を保つための支援や、実施後も、ともに内容を高めていく体制が必要と考えます。

課題 運営のサポート体制

[久留米市では]

●久留米まち旅は、サポーターという役割を担っている市民が10名おり、無償でプログラムの写真記録を撮ったり、ブログ等への掲載によるPRを行っています。

[ニセコ町では]

★住民アンケートでは、「全体でとりまとめることがある場合の事務的な手伝い」や「全体で紹介するちらしやHP等の作成」、また、小さな子どもの一時預かりや写真指導、撮影ポイント案内といったことに協力できる、という回答が寄せられました。個々のプレイヤーのプログラムを支援するサポーターだけでなく、ニセコたびいくプログラム全体の運営をサポートしてくれる人たちを増やし、推進体制を強化することが必要です。

課題 プログラムのコンセプト、有料の考え方の整理

[久留米市では]

●久留米まち旅では、プログラムを企画シートで提出する際に、事務局から「事前予約で行うこと」「有料とすること」「新規性があること」「普段は体験できない内容とすること」を基本事項としてお願いしています。

●久留米まち旅は、久留米コンベンション観光協会がコーディネートを行い、事業費は久留米市が補助しています。そのため、プレイヤー自身は、まち旅で「稼ぐ」ことはあまり考えておらず、その代わりに、事業者にとっては新しい集客と信用を得る機会、また、生産者にとっては普段聞けないお客さんの声を直接聞くことができる機会となることに魅力を感じ、プレイヤーとして参加しているようでした。視察先の農家さんも、普段は卸業者との接点が多く、実際に自分の生産したもの（お米）を食べている人たちはどう思っているのか「お客さんの声」を聞くために、まち旅のプレイヤーとして参加しているとのことでした。一方久留米市はまち旅により、「交流人口の増加」「プレイヤーになることでの市民活動の活性化」「プレイヤー同士の交流」「市民が市の魅力を改めて知る」「定住の促進」などといった地域活性化に効果が得られることを重視して、取り組みを支援しています。

[ニセコ町では]

★本町においても、「ニセコたびいくプログラム」としての枠組みや質を保つことを考えると、コンセプトを明確にし、有料を基本としていくことが良いのではと思われます。

★本町でプレイヤーを募った場合、経済的な利益を得たいという目的以外に、人と交流したい、本業のPRやマーケティングをしたい、やりがいを感じる場を得たいなど、参加する意義や動機はプレイヤーによって異なることが予想されます。プログラムの有料化

を全体の基本としながらも、採算性や価格の設定をどのように考えるかは、個々のプレイヤーにある程度ゆだねることが必要と考えます。

課題 全体としてのプログラムの通年化

[久留米市では]

- 「久留米まち旅博覧会」は、原則として期間を決めて実施していますが、平成 24 年度からは、これまで実施されたプログラムの中で特に人気のあるものを「いつでもまち旅」として、通年受け入れを行っています。

[ニセコ町では]

- ★本町で想定されるプログラムは、季節によって実施が限られる内容がかなりあることが予測されます。また、同じプレイヤーが季節によって異なるプログラムを行うことも想定されます。さらに、環境型プログラムについては前述の通り、環境施設の見学をいつでも受け入れ可能な状況にすることは難しく、回数や期間を限定して実施することが現実的です。このようなことから、ニセコフェスティバルなど既存イベント期間に合わせて提供するプログラム、通年実施が可能なプログラム、季節ごとのプログラムなど、プログラムごとに開催可能なスケジュールを設定し、「環境型たびいくプログラム」全体としては、一年を通して楽しめるプログラムが用意されている状況にしていくことが理想です。

課題 分かりやすい情報発信、多言語対応

[久留米市では]

- 久留米まち旅は、ホームページをつくり、「歴史と城下町」「芸術とものづくり」「地酒とB級グルメ」「農と花」「学び」という5つのテーマでプログラムを紹介し、キーワードでの検索も可能となっています。

[ニセコ町では]

- ★本町においてもプログラムを多くの人に知ってもらい、参加を呼びかけるには、プログラム情報を一元化し、ホームページ等でPRしていくことが不可欠です。また、マークやロゴを用いて分かりやすく各種プログラムを紹介したり、内容や実施期間で検索できるなどの工夫も必要です。
- ★本町の特徴として、外国人観光客が多く訪れることがあげられます。これらの人たちも気軽に参加できるようにするため、多言語表記や、外国語対応可能なプログラムづくりなどをできるだけ行うことが望ましいと考えます。

体験プログラムの紹介と検索の画面（久留米まち旅博覧会ホームページより）



課題 外部機関との連携、ネットワークづくり

[久留米市では]

- 久留米まち旅は、まち旅プログラムを取り入れた多種多様な着地型観光商品づくり、情報発信、次年度事業の提案などを、旅行代理店をはじめ、地域資源を活用した体験型観光に関するノウハウを持つNPO法人などの外部機関の協力を得て行っています。また一部のプログラムは、全国各地の体験型イベントやサービスの紹介・予約受付を行っているサイトから、直接受付ができるようになっています。

[ニセコ町では]

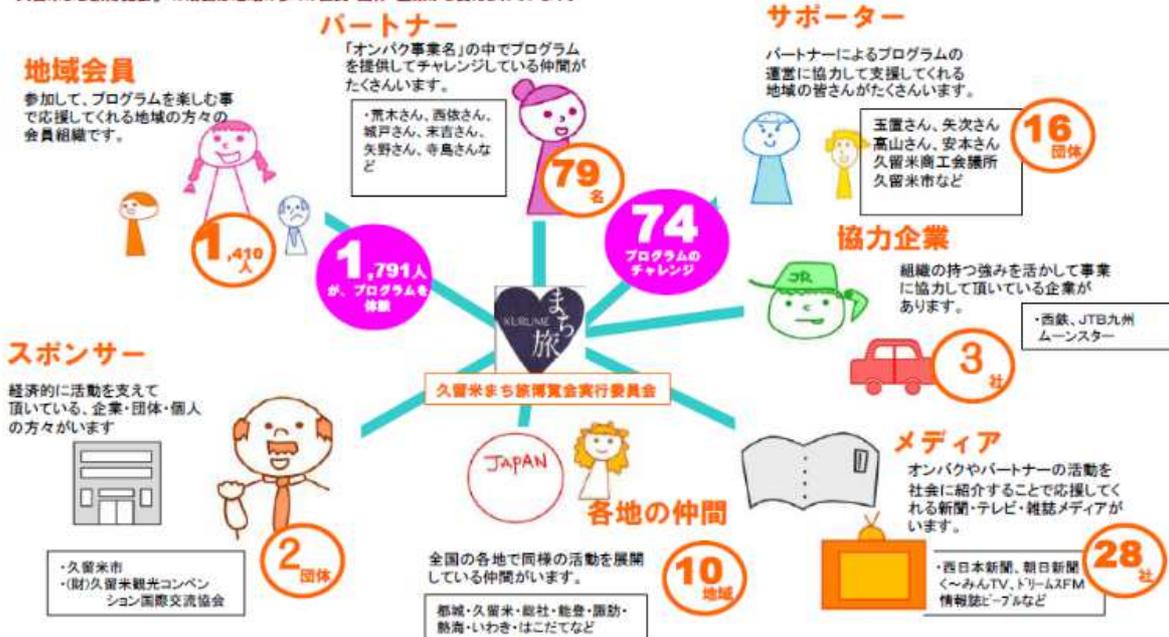
- ★本町においても、町独自でプログラムをPRする以外に、旅行代理店等と連携してツアー造成やPRを行うなど、外部機関とのネットワークを築き、幅広い取り組みにしていけることも必要です。

久留米まち旅のステークホルダー（利害関係者）を示した図
（一般社団法人 ジャパン・オンパクホームページより）

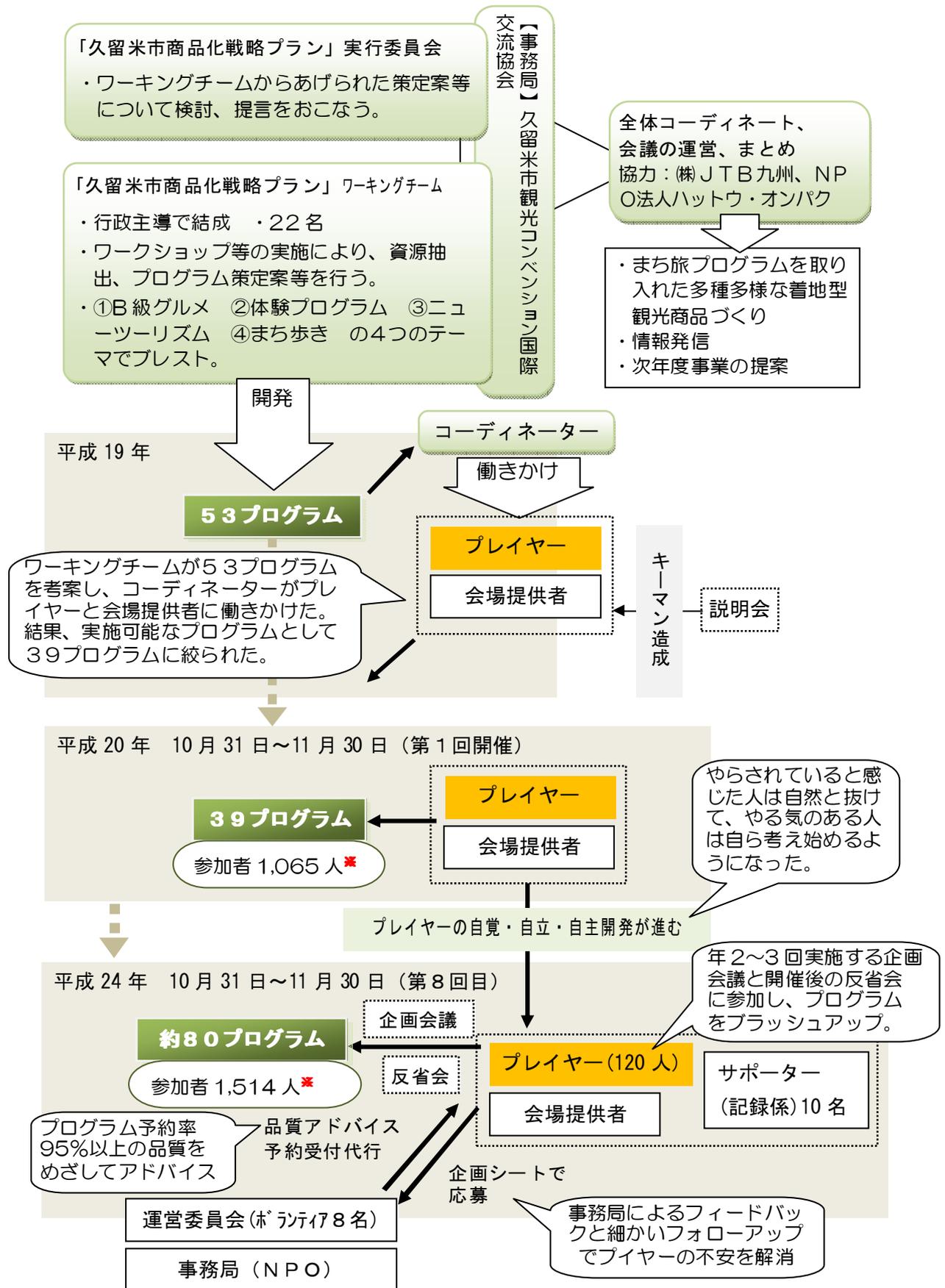
「久留米まち旅博覧会実行委員会」 ステークホルダーマップ

2009年度「久留米まち旅博覧会」

「久留米まち旅博覧会」の活動は地域の多くの住民・団体・企業から支えられています。



久留米まち旅のこれまでの経緯



*延べ数。いつでもまち旅や特別なまち旅などの期間外の人数は含まれません。

第1回久留米まち旅博覧会の主なプログラム（平成19年度）

プログラム名	実施時期	（集合・開催）場所
藍胎漆器事始め	11/1(土)～5(水)	末吉藍胎漆器製作所
池町川そぞろ歩き・飲み歩きツアー	11/6・13(木) 19:00	昭和酒BAR MODERN-YA
発酵を極める田主丸の旅	11/7・14・21・28 (各金) 10:30	若竹屋酒造場「元祿蔵」
久留米の屋台を極める夜のまち旅	11/8(土) 18:00	久留米市役所正面玄関
久留米六ツ門の童心にかえる昭和なB級グルメの買い食い	11/8(土) 11:00	六角堂プラザ
世界で一つのマイワインづくり	11/8(土)・9(日) 10:00	巨峰ワイン
筑後川クルーズで祝うとっておきの七五三	11/15(土) 10:00	水天宮 または くるめウス（防災施設）
田主丸の柿づくしの旅	11/18(火) 10:30	井上果樹園
文化街ナイトツアー	11/20・27(木) 19:00	文化街入り口の甘栗屋前
梅林寺座禅体験	11/22～24(3連休) 10:00	梅林寺
柳坂はぜ並木ウオーク	11/23(日) 8:30	JR久大線久留米大学前駅
達人に学ぶ郷土の芸術久留米餅	11/24(月・祝)～28(金) 13:00	藍生庵
“くい呑み”作りと古民家レストランの自然食	11/26(水) 9:30	乾太郎窯
ものづくりの伝統 久留米餅でペンダントづくり	11/29(土) 10:30	地場産くるめ（久留米地域 地場産業振興センター）
久留米のナイトはしご酒	11月の月～木 18:00	昭和酒BAR MODERN-YA など



←2008～2012年プログラム表紙



マイワインづくり

久留米まち旅博覧会ホームページより

第3章 事業化に向けて

1 事業化に向けた留意点

今後、二セコ町におけるたびいく展開を検討する際には、国際観光地であるという本町ならではの実情や地域性をふまえることが重要です。

「環境型二セコたびいくプログラム」の展開を進める上で、留意すべき点をまとめると、次の通りです。

既存の体験観光事業者への配慮

町内には、すでに体験プログラムを事業化している方々が多くいます。体験プログラムを同じ地域で実施するにあたって、既存の体験観光業への配慮が必要です。

また、既存の体験プログラム事業者がプレイヤーとして参加してもらうことによって、プログラムのブラッシュアップや運営ノウハウの向上が図られると思われれます。

事業化を進める際には、既存の体験プログラム事業者の方々に「環境型二セコたびいくプログラム」の趣旨を理解していただき、参加を促していくことが必要です。

観光客を意識したプログラム

二セコ町は道内でも有数の観光地であり、年間を通じて、多くの観光客が訪れています。

本町でたびいくプログラムを事業化した際、参加者の多くは、従来の二セコ観光のために本町を訪れる人たちが想定され、質の高い体験観光プログラムに期待する人も多いと思われれます。「環境型二セコたびいくプログラム」のコンセプトや方向性を重視するとともに、従来の二セコ観光目的で訪れた人たちが参加者になることをふまえたプログラムづくりが必要です。

また近年、地元の人とのふれあいを旅に求める観光客も増えており、本町においても「あの人ガイドを受けたい」というように、人の魅力にひかれて体験プログラムに参加するケースも増えていきます。個性的な町民がいることも本町の魅力と言えます。プログラム自体のブラッシュアップも重要ですが、同等に、プログラムに関わる人の魅力を活かした内容にすることも必要です。

さらに、本町の観光客には外国人観光客も多く、これらの方々が参加できるような環境整備やプログラムづくりも積極的に行っていくことが必要です。

観光受け入れ環境の活用

町内には多くの宿泊施設など、滞在型観光や団体観光を受け入れる環境がすでに整っています。二セコ観光の滞在の合間に、たびいくプログラムを楽しむというようなスタイルが可能です。

このようなリゾート性の高い環境をうまく活かしながら、個人参加から視察や教育旅行などの団体参加まで、さまざまな参加形態に対応できる強みを活かしていくことが必要です。

2 事業化に向けた取り組みとロードマップ

「環境型ニセコたびいくプログラム」の事業化に向けて、必要な取り組みとロードマップを示します。

(1) 「環境型ニセコたびいくプログラム」のコンセプト（ねらい）を定める

“旅を通じて地域の文化や産業を学んだり、地域の人と交流したりすることで、感受性や知見を高めていく”という一般的な『たびいく』の考え方をベースに、ニセコらしい要素を加えた「環境型ニセコたびいくプログラム」のコンセプト（ねらい）を定め、共通認識を持つことが必要です。

これまでの調査結果から、次のようなコンセプトと、その取り組み方向が考えられます。

【コンセプト】「環境にふれる旅を通じて、環境への思いやりの心が育つ」

一般的に、旅を通じて感受性や知見などを高めていく内容を「たびいくプログラム」と言いますが、本町では、環境教育に焦点をあてたプログラムづくりを意識しています。

ここでの環境教育とは、子どもを対象とした「教育」だけでなく、参加した誰もが、プログラムを通して環境にふれ、その大切さに改めて気づき、環境に対する思いやりが育つ「学びの場」となることが望ましいと考えます。

このようなことから、「環境型ニセコたびいくプログラム」のコンセプトは、「環境にふれる旅を通じて、環境への思いやりの心が育つ」ことをねらいとします。

方向1. 多面的な環境から学びや気づきを得られる

「環境」の言葉の意味は幅広く、エネルギー対策など対象を絞って用いられる場合もあれば、人間の周りにある空間や自然、経済などを幅広く指すこともあります。

実証実験では、環境としてのテーマの分かりやすさから、堆肥センターと農業ハウスの見学を行いました。町内には、このような環境関連施設や設備は他にもあり、ハードだけでなく、環境保護や省エネルギーに向けた活動も行われています。また、ニセコ連峰や羊蹄山をはじめとした山々、水質にすぐれた川、これらによってつくられる景観など豊かな自然環境もあり、自然と共生するために人々が生み出した知恵や技術もたくさんあります。

「環境型ニセコたびいくプログラム」は、多面的な環境から学びや気づきを得ることができる内容とすることが望ましいと考えます。

方向2. 環境になるべく負荷をかけないツールを用いる

電気自動車を用いた実証実験を行った目的は、町内で運輸に関わる二酸化炭素排出量が町全体量の1/4を占める（2007年現在）中で、環境になるべく負荷をかけない移動手段として有効に活用できるか可能性を探るためです。実証実験の結果、充電や冬期の運転に不安を持たれることが分かりましたが、それらの課題をクリアしていけば、「環境型ニセコたびいくプログラム」で活用していくことは可能です。

このような視点から、「環境型ニセコたびいくプログラム」は、環境になるべく負荷をかけないツールを用いた内容とすることも考えられます。

移動手段では、電気自動車以外にも、（電動）自転車や馬、カヌー、スノーシュー、犬ぞりなどの利用も考えられます。また、環境負荷の軽減につながる持ち物として、マイバックやふるしき、マイ箸などがあり、これらを持参したり作成することをプログラムに取り入れることも考えられます。

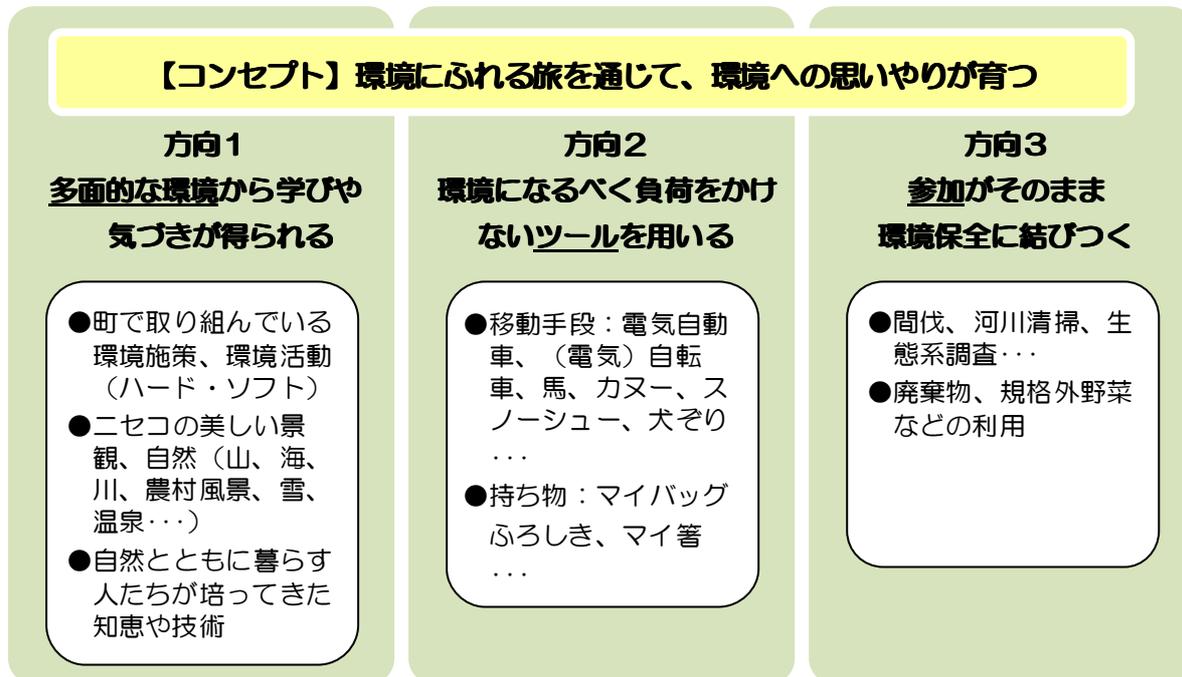
これらのプログラムの目的は、環境負荷の軽減だけでなく、参加することによって環境保護への意識を高めてもらうことをねらいとするものですが、自家用車やレンタカーから電気自動車に乗り換えてもらう、マイバックやマイ箸を用いてもらう、ということは、参加者に不便を強いることにもなります。そのため、参加すれば何らかのサービスが受けられるなど、参加への感謝を示すインセンティブを与える工夫なども必要と思われる。

方向3. 参加がそのまま環境保全に結びつく

プログラムに参加することが環境保全につながる内容も「環境型ニセコたびいくプログラム」としてふさわしいと考えられます。

森林の間伐や河川の清掃、生物の生態調査など、普段行われている環境保全に関する取り組みに参加してもらうことをプログラムに取り入れ、参加者の行動そのものが「環境保全」に結びつき、環境教育にもなり得る内容とすることも考えられます。

「環境型ニセコたびいくプログラム」のコンセプトと取り組みの方向



(2) プログラムを支えるそれぞれの役割が生まれ、育つ

プログラムの実施、それらのサポート、より魅力を高めるコーディネーターなど、さまざまな役割が育つことで「環境型ニセコたびいくプログラム」が行われるようになり、ブラッシュアップされていきます。これまでの調査結果から、次のような役割が必要と考えられます。

プレイヤー

「環境型ニセコたびいくプログラム」のコンセプトを共有したうえで、コンセプトに沿ったプログラムを企画し、実施するプレイヤーが必要です。

本町ではすでに体験観光を行っている人たちも多く、住民アンケート結果からも、自らプレイヤーとして関わりたい人はすでにいる状況です。その一方で、たびいくプログラムに関心を持ちながらも、不安や自信のなさなどから、プレイヤーになることに躊躇している人も少なからずいると思われます。このような方々の背中を押すことも重要です。

さらには、農家や職人の方など、本人は認識していなくても、たびいくプログラムのコンテンツとしてとても魅力的な話ができる人たちもいます。このような方々を掘りおこして、参加を促していくことも必要です。

サポーター

住民アンケート結果からも分かる通り、プログラムを進めるにあたって、当日の手伝い、スタッフがサポートとして最も望まれています。サポーター希望者が手伝える内容も「作業スタッフ」が最も多く、プレイヤーとともにサポーターの参加を促すことが必要です。

また、会場や道具の提供などハード面でのサポート、通訳や託児などソフト面でのサポートなど、作業スタッフ以外でサポートが望まれるケースも考えられます。また、PRに必要な写真撮影、記事のとりまとめ、映像加工など、プログラム運営をサポートする人員も必要になると想定されます。プレイヤーの募集とともに、町内に幅広く参加を呼びかけることが必要です。

コーディネーター

推進体制を整えるうえで、重要な機能を担う存在となります。目利き役として、プレイヤーとなり得る人の掘りおこしや、売り手と買い手のニーズを汲み取って、それぞれのプログラムの魅力を組み合わせるといった役割を担います。「環境型ニセコたびいくプログラム」をより深く満喫できるプログラムをつくり、情報発信していくことも必要です。

そのようなコーディネーターが担うことが想定される役割を例示すると、次の通りです。

[例えば]

- 対外的に「環境型ニセコたびいくプログラム」の窓口となる。(予約受付、料金精算を代行する、など)
- 目利き役として、プレイヤーとなり得る人を掘りおこし、参加を促す。
- 売り手と買い手のニーズを汲み取り、プログラムを組み合わせる。
- プレイヤーとサポーターを把握し、ニーズに応じてコーディネートする。
- 「環境型ニセコたびいくプログラム」全体のPRを行う。ホームページなどを管理する。

- プレイヤー全体のサポート体制を整える。（トラブル時の対応策を整える、全体で調整が必要な場合に主導する、ブラッシュアップの機会を設ける、など）
- ツアー会社など外部機関との交渉などを行う。

プログラム研究会

久留米まち旅における「商品化戦略プランワーキングチーム」のように、プレイヤーが自ら企画するプログラム以外に、顧客ニーズをふまえて、「環境型ニセコたびいくプログラム」としてより魅力的なプログラムを研究する場も必要です。

プログラム研究の場には、多くの住民の理解と協力を得て「環境型ニセコたびいくプログラム」を展開していくために、行政も含め町内のさまざまな立場の方々が参加することが望ましいと考えます。

（3）スモールビジネスとしての定着をめざす

「環境型ニセコたびいくプログラム」は持続可能な運営をめざしており、スタート当時は厳しい運営となっても、継続していくことにより参加者やプログラムを増やし、売上や収入の増加に努めることとします。

スモールビジネスとしての定着をめざしていくために留意することは次の通りです。

有料化に見合う質の維持、ブラッシュアップ

先進地視察の検証でも示した通り、「環境型ニセコたびいくプログラム」という枠組みの中で取り扱うプログラムは、参加者が満足できる質を保つため、有料にすることが望ましいと考えます。また、町内ではすでに「環境型ニセコたびいくプログラム」に相応する体験観光やアクティビティプログラムが有料で提供されている現状もふまえ、プログラムづくりや価格の設定を行うことが必要です。

価格については、プレイヤーによって設定の考え方に差があると思われることから、プレイヤーの意志で価格を設定することを基本としますが、将来的に、「環境型ニセコたびいくプログラム」全体がスモールビジネスとして採算性を保つことをめざすこととします。

ニセコ観光に訪れる客を誘引する

本町は、年間約 150 万人が訪れる観光リゾート地です。パウダースノーや川遊び、数多くある温泉、自然や農村が生み出す景色、整った宿泊・リゾート環境、美味しい食べ物などを求めて、外国人も含め多くの方がニセコを訪れます。これらの観光客が「環境型ニセコたびいくプログラム」に関心を持ち、参加するように誘引していくことが重要です。

そのためには、旅の要素として、何がニセコに求められているのかを観光客目線で分析し、プログラムづくりに意識的に取り入れていくことが必要です。

また、外国人観光客の割合が高い本町では、外国人も参加者として誘引していくことが必要です。参加する側、受ける側ともに言葉の壁に不安を持つケースが多いことから、多言語表記や会話に対応できる人員を整えるなど、外国人にも情報発信し、参加を呼びかける環境も充実させていくことが必要です。

視察型・見学型ツアーを造成する

本町では、環境・エネルギー対策に関連した取り組みがさまざまな分野で行われています。北九州市で行われていた「ココスマツアー」のような視察ツアーを造成し、町内をミニバス（少人数の場合は電気自動車）で回り、ガイド役と共に環境施設を巡り学ぶ「視察型たびいくプログラム」として展開することも可能です。また近年は、「工場見学ツアー」のように、施設の設備や仕組みに関心を持つ人も増えており、行政や関連企業を対象とした視察だけでなく、一般客を対象とした見学ツアーとして開催することも考えられます。

ツアー造成の場合、ガイド料と資料代として参加費を集めることも可能であり、単独のプログラム実施よりも収益性が高まると思われます。

（４）事業化に向けたロードマップ

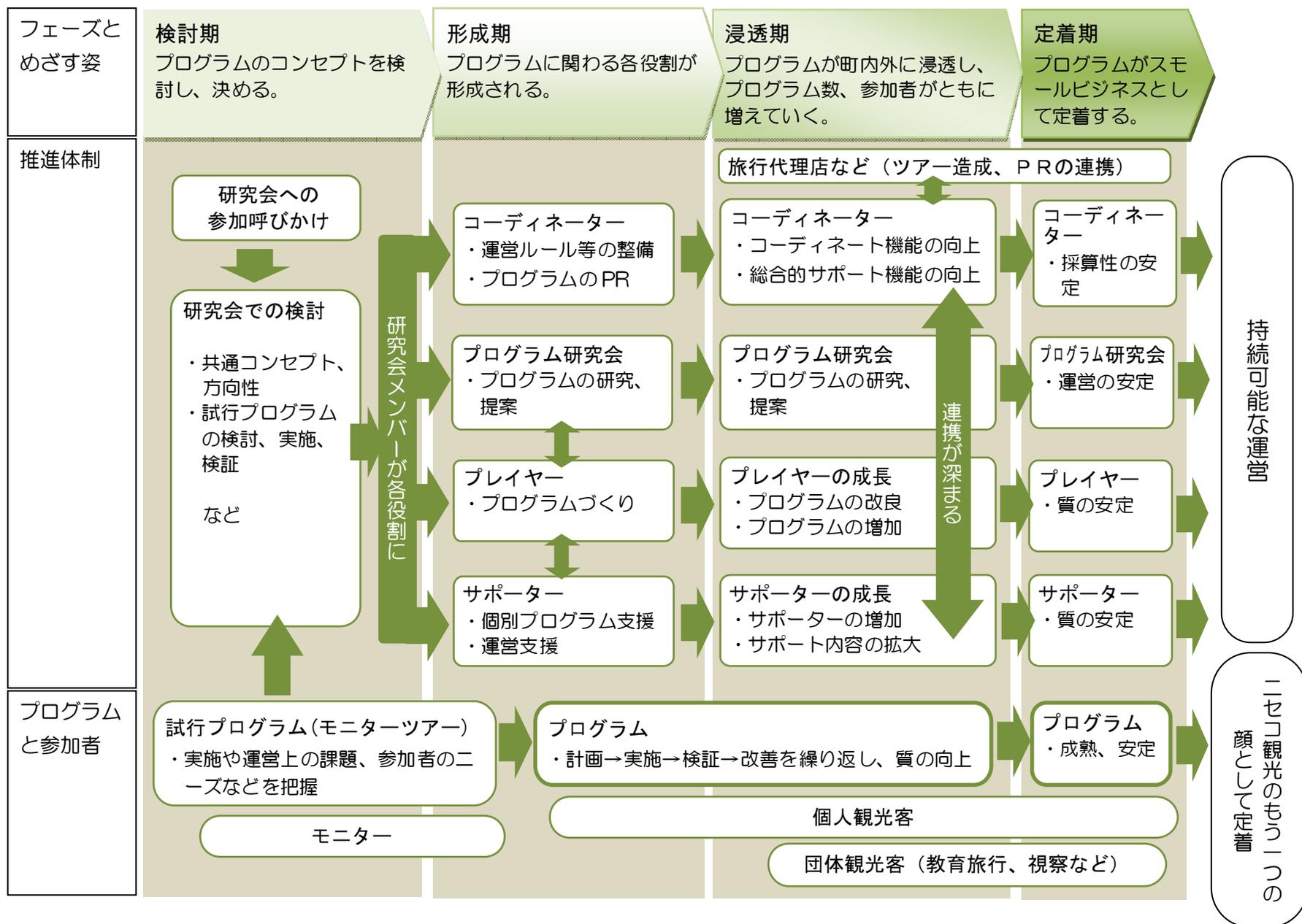
今後「環境型ニセコたびいくプログラム」を実践していくには、たびいくに関心のある人に幅広く参加を呼びかけて「研究会」を立ち上げ、協議を進めていくことが望ましいと考えます。

研究会を通じて、町内のさまざまな立場の人々によって、コンセプトづくりやプログラムの試行が行われるようになり、最終的には、研究会に関わった人たちがそれぞれ、プレイヤー、サポーター、コーディネーター、プログラム研究会といった「環境型ニセコたびいくプログラム」を進める担い手となり、それぞれの立場で関わっていくようになるのが望ましいと考えます。

また、「環境型ニセコたびいくプログラム」の将来の姿として、対外的には、現在ニセコ観光の柱となっている“大自然でのアウトドア体験”に加えて「環境型ニセコたびいくプログラム」がもう一つの顔として定着することをめざします。また町内においては、プログラムの定着によってスモールビジネスとして安定し、住民の経済と心を満たすようになることをめざします。

これらのことを、ロードマップに示すと次の通りです。

事業化に向けたロードマップ



3 事業化モデルの検討

「環境型たびいくプログラム」の事業化について、より具体的な数字も示しながら事業化した際の想定収入（事業化モデル）を検討します。

事業化モデルは、個々のプレイヤーの事業としてのモデルと、プログラムをツアー化した場合の事業としてのモデルが考えられます。各種調査結果をもとに、両者の事業化モデルを示します。

(1) プレイヤーの事業化モデル

本町の場合、プログラムの有料化によって収益をあげられる可能性が高く、プレイヤーが継続的に収入を得てプログラムを運営し、スモールビジネスとしていくことをめざします。

プログラムを提供する個々のプレイヤーの事業として捉えた場合、「直接経済効果」と「間接経済効果」に分けて考えることができます。

①「直接経済効果」

参加者がプログラム料金として支払う対価のうち、プレイヤーが直接的に受け取る収入の総額を言います。

②「間接経済効果」

参加者がプログラムに参加することによって、プレイヤーの本業に対するブランドイメージの向上や新たな顧客の開拓といった効果が生まれ、プレイヤーが間接的に受け取る収入の総額を言います。

以上のことをふまえ、プレイヤーの事業化モデルを検討すると次のようになります。

①直接経済効果について

プレイヤーが直接的に受け取る収入は、次の式で表すことができます。

$$\text{総収益} = \boxed{\text{A}} \text{プログラム料金（単価）} \times \boxed{\text{B}} \text{参加者数} - \boxed{\text{C}} \text{プログラム提供にかかるコスト}$$

直接経済効果を増やすためには、**A**プログラム料金（単価）を上げる、**B**参加者数を増やす、**C**プログラム提供にかかるコストを減らす、の3つの方法があります。

Aプログラム料金（単価）は、参加者ひとり当たりの料金で、プログラム内容によって大きく異なります。

久留米まち旅博覧会において、初年度に開催した39のプログラムのひとりあたりの料金をみると200円～8,000円と幅があります。

一方、本調査で実施したモニターツアーのアンケートから、実験的に設定したプログラムを商品化する場合の金額をみると、「アイスクリーム作り体験」は1,000円～1,500円までの値段、「越冬ジャガ収穫・調理体験」は1,000円～2,000円までの値段を示した人の割合がそれぞれ高いという結果となりました。

A)プログラム料金単価を上げるためには、プログラムの付加価値を上げることが必要であり、たびいく推進委員会において意見があったように、「素人だから価格を下げるのではなく、設定した価格に見合う価値を提供できるよう内容を磨く」ことが必要と思われます。

[参考]久留米まち旅 39 プログラムの料金

NO	タイトル	実施日	料金
1	見つめ直す「衣・食・住」北野の酒蔵で触れる、山口怜子が織り成す優美なキルトの世界	10月31日	2,500円(昼食付・お土産付)
2	水のきれいな田主丸の餅工房、藍生庵を訪ねて達人に学ぶ、郷土の芸術久留米餅	11月24日から28日	3,300円
3	九州の名刹、梅林寺雰囲気味わいながらの座禅体験	11月22日、23日、24日	3,300円(昼食付)
4	天然醸造の醤油に味噌、そして日本酒、本物の味にふれ発酵を極める田主丸の旅	11月7日、14日、21日、28日	3,300円(昼食付)
5	秋日和、薔薇、満喫体験アートを楽しむ優雅なひととき	11月22日、30日	1,800円(お抹茶付)
6	こだわりの久留米の「もの」づくり衣食住について楽しくおしゃべりしましょう エコランチ!	11月28日	2,000円(昼食付)
7	クリスマス、あなたに伝えたい思いがあるものづくりの伝統、久留米餅でペンダントづくり	11月29日	500円
8	古民家に燻キャンドルを灯して西田麻美の歌声が響く、大人のしっとりコンサート	11月23日	3,500円
9	心も体も癒されるひととき乾太郎窯アトリエで“ぐい呑み”づくりと、古民家レストランの自然食	11月26日	7,700円(昼食付・お土産の和菓燭付)
10	草野陶房「現の証拠」で、目から鱗を落とす「お茶碗づくり」オプションプランで、体から鱗を落とす「温泉」	11月9日	2,000円(送料別途(九州域内500円))オプション別途700円で「みのう山荘」温泉入浴+ドリンク又はソフトクリーム付
11	職人の手仕事体験と、普段づかいの楽しみ方藍胎漆器事始め	11月1日から5日	4,400円(ラーメン代含む) ※マイ箸は工房で仕上げた後に郵送します
12	ゆったり流れる筑後川の河畔オーダー家具ショップで、子どもと一緒に木工製作	11月24日	840円~2,100円(4種類のキットから選ぶ)
13	屋台通がナビゲーター久留米の屋台を極める夜のまち旅	11月8日	3,500円~4,500円程度(各自屋台で精算)
14	ポケットに小銭久留米六ツ門の童心にかえる昭和なB級グルメの買い食い	11月8日	1,000円程度(各自で精算)
15	名物うなぎを堪能! 水天宮へ舟でお参り筑後川クルーズで祝う、とっておきの七五三。	11月15日	大人3,300円(田中鱧屋セイロ付)小人2,200円(田中鱧屋子供セイロ付)幼児700円(セイロなし、3歳以上)300円(セイロなし、3歳未満) ※七五三祈祷料は、子ども一人につき3,000円別途必要
16	船上ライブ! 久留米のシンガーソングライター野田かつひこ「筑後川」を唄う。	11月15日	3,900円
17	「セグウェイ」が久留米に登場! 未知の乗り物に乗って、久留米の風景を楽しもう	11月16日	無料
18	遊び上手なヒデキと行く! 池町川そぞろ歩き・飲み歩きツアー	11月6日、13日	3,500円(各店舗でのドリンク1杯・小鉢1皿付)
19	大人の街を飲み先案内人トオルと行く! 文化街ナイトツアー	11月20日、27日	3,500円(各店舗でのドリンク1杯・小鉢1皿付)
20	久留米にライブば、しに来んの! 熱い夜を楽しむビターナイトライブ in久留米	ジャンルごとに調整	エントリー料金2,000円
21	達人一押しコースをご紹介久留米のナイトはしご酒(※ガイドなし)	11月の月曜日から木曜日のみ	3,500円(各店舗でのドリンク1杯・小鉢1皿付)
22	ふるさとくめ農業祭りで、久留米の豊かな「農」を知るわくわく農業体験バスツアー	11月8日	2,000円(おとな・子ども1組)
23	自家農園で旬の野菜を収穫体験道の駅ぐるめで“生命力豊かな”野菜をいただきます!	11月29日	1,700円(弁当・お土産付)

NO	タイトル	実施日	料金
24	久留米の桃源郷「水車谷」で蕎麦打ち修業と廃油石鹸づくり	11月16日	3,300円(昼食付)
25	食べることは生きること筑後の食材でおうちご飯をつくろう!	11月13日	2,000円(昼食付)
26	秋のみのうを満喫。吉井十八プロデュース「温泉みのう山荘」で食べる“みのう柿豚”しゃぶしゃぶコース	11月19日	3,900円(昼食付)
27	美牛コンテストに美味しいスイーツ酪農王国久留米で牛さんと仲良くなる	11月15日	1,100円(弁当・スイーツ付)
28	美味しい牛乳の秘密森光牧場で乳搾りモ～の酪農体験	11月23日	600円
29	思わず童心にかえる干し柿作りに柿狩り、そして柿飴アイス田主丸の柿づくしの旅	11月18日	1,100円(柿3個、作った干し柿、柿飴アイス、シナモンティー付)
30	久留米の秋を一鉢「茶花の里」で風情ある寄せ植えづくり	11月13日、27日	基本の寄せ植え 3,800円
31	巨峰開植の地で仕込む世界で一つのマイワインづくり	11月8日、9日	7,700円(昼食付) ※生ジュース360ml×1本、ワイン720ml×1本(12月中旬お届け)
32	平田優シェフのマクロビオテックディナーと生演奏古民家レストラン「紅い櫓の庵」で至福のひとときを	11月14日、15日	8,000円(食事付、ミュージックチャージ付)
33	“緋の小径”久留米緋の故郷を訪ねて緋の小物づくりと、職人さんに教わるまんじゅう作り	11月20日	1,700円
34	紅葉の秋。耳納連山の魅力を体感柳坂はぜ並木ウォーク	11月23日	200円
35	歩いてわかる山苞の道の楽しさほとめき歩き<田主丸編>	11月15日、16日	500円(小学生以下無料)
36	歴史あるたたずまいの残るほとめき歩き<草野編>	11月15日、16日、29日、30日	500円(小学生以下無料)
37	歴史を物語る城下町ほとめき歩き<篠山編>	11月20日、21日	500円(小学生以下無料)
38	懐かしい昭和の色が残る街「荘島」ほとめき歩き<荘島編>	11月8日	500円(小学生以下無料)
39	江戸時代の面影と郷土の先達の足跡を訪ねてほとめき歩き<南薫編>	11月29日、30日	500円(小学生以下無料)

出典：平成20年10月1日市長記者会見資料

〔B〕参加者数は、1回あたりの受け入れ可能人数に関連します。通常、ガイドが必要なプログラムの場合、20名が受け入れ可能人数の限界と想定されます。また、乗り物を利用するプログラムの場合、乗車定員が受け入れ可能人数の限界となります。

「環境型たびいくプログラム」は「学び」や「交流・もてなし」などを重視する内容であり、受け入れ可能人数を安易に増やすという考えは避け、慎重に設定する必要があります。

また、参加者数は、開催日数に比例することから、日数を増やすことによって、直接経済効果を増やすことが考えられます。

〔C〕プログラム提供にかかるコストは、プログラム実施に係る材料費や資料代のほか、事業全体を統括する事務局の人員費やプロモーション費の一部負担などがあります。事務局経費は、事業全体の品質管理やプロモーションなどを担うためにはできるだけ確保することが望ましく、減らすべきコストではないと考えられるため、プログラム実施に係る材料費や資料代などを減らすことによって、直接経済効果を増やすことが考えられます。

以上のことからプレイヤーの事業化を想定した場合、収入モデルは次のような展開が考えられます。

プレイヤーの事業化モデル

			1年目	2年目	3年目	4年目
ニセコ旅育プログラム実施日数			1日	4日	14日	30日
プログラム数			1	1	1	1
プログラム参加人数(1回当たり)			10人	20人	20人	20人
延べ参加者数			10人	80人	280人	600人
プログラム料金(平均)			2,000円	2,000円	2,000円	2,000円
総売上			20,000円	160,000円	560,000円	1,200,000円
パターン1	経費	事務局手数料(10%)	2,000円	16,000円	56,000円	120,000円
		プログラム材料費等※1	4,000円	32,000円	112,000円	240,000円
	総収益		14,000円	112,000円	392,000円	840,000円
パターン2	経費	事務局手数料(10%)	2,000円	16,000円	56,000円	120,000円
		プログラム材料費等※2	10,000円	80,000円	280,000円	600,000円
	総収益		8,000円	64,000円	224,000円	480,000円

※1 プログラム料金のうち2割を材料費等に使ったとして想定。

※2 プログラム料金のうち5割を材料費等に使ったとして想定。

事業化の検討にあたっては、初年度から大きく収入を上げることは考えにくいいため、4年間継続した場合とし、プログラム数は、1プレイヤーにつき1プログラムとして想定しています。

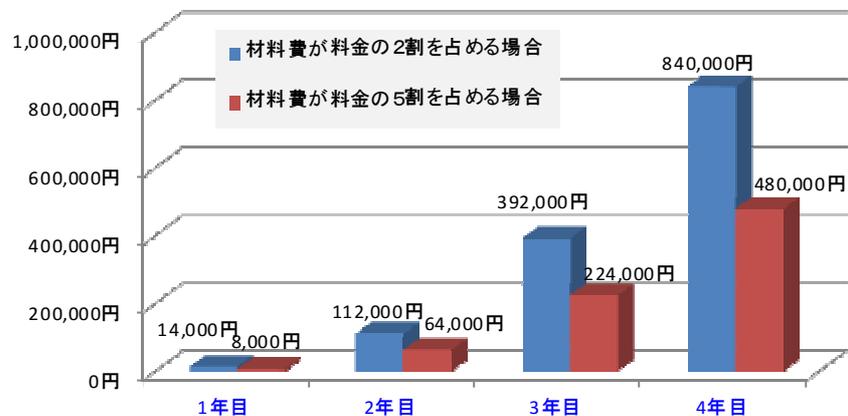
プログラム参加人数は、前述の通り多くとも20人が限度であり、初年度は開始直後に付き参加者数が少ないと考えて10人としています。

プログラム料金は、久留米まち旅におけるプログラム料金と、実証実験における商品化した場合の金額の調査結果から、平均で2,000円として想定しています。

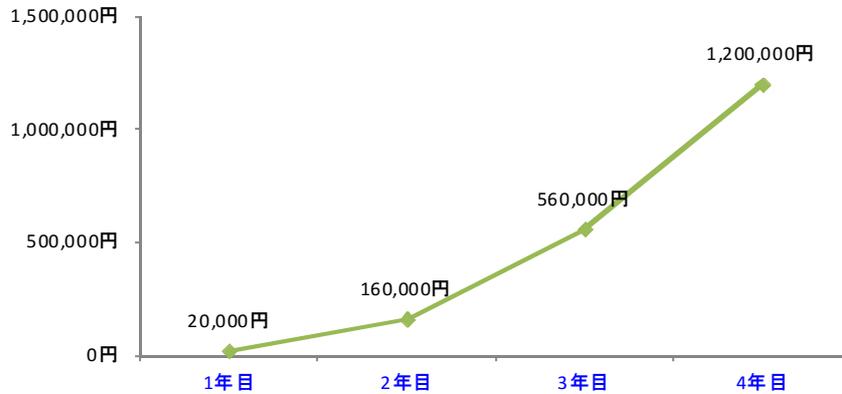
経費は、前述の通り、プログラム実施に係る材料費や資料代のほか、事業全体を統括する事務局の経費として手数料10%を支払う想定をしています。また、プログラム実施に係る材料費や資料代などを減らした際の比較として、材料費がプログラム料金の2割を占める場合と、5割を占める場合を示しました。

グラフに示すと次のようになり、継続していくにつれて、材料費が占める割合の違いによってプレイヤーが直接的に受け取る収入（総収益）に差が出てくるのが分かります。

プレイヤーの総収益の推計



プレイヤーの総売上上の推計



以上のことから、本町における「環境型たびいくプログラム」のプレイヤーが直接経済効果（直接収入）を期待する場合の方策を示すと、次の通りです。

直接収入を上げる方策	実行の可能性	実行時の留意点
A プログラム料金を上げる	<ul style="list-style-type: none"> 観光客が多く、観光地として質の高いプログラムに期待する人が多いと思われる。 町内には既存のプロの体験事業者がおり、連携や切磋琢磨でプログラムのブラッシュアップは進むと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ブラッシュアップによってプログラムの質を高め、プログラム料金を上げていく。
B 参加者数を増やす	<ul style="list-style-type: none"> 「学び」や「環境保全」がコンセプトであり、受け入れ可能人数を安易に増やすという考えは避け、慎重に設定する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 参加者一人一人に、きめ細やかな対応ができる体制で実施するには、最多でも20人程度が望ましい。
C 材料費を減らす	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境や環境対策施設など既に価値のある素材がある。 プログラム実施のノウハウが積み重なり、他のプレイヤーとの連携が深まっていくなかで、コストの削減が可能になっていくと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 既にある自然環境や環境対策施設、町民の趣味や技術を上手に有効活用し、材料費をかけずに高価値の内容にする。

事業化の検討においては、プレイヤーがどの程度のビジネス規模を求めるかによって、設定日数・受け入れ人数・プログラム料金・経費を決定していく必要があります。

②間接経済効果について

直接経済効果のほかに、プログラムの参加者のうち、一定程度の割合で「プレイヤーの生産物を購入したい」「プレイヤーの提供するサービスを継続的に利用したい」と考える参加者が出てくるのが想定できます。

プレイヤーが間接的に受け取る収入は、次の式で表すことができます。

$$\text{総収益} = \boxed{\text{B参加者数}} \times \boxed{\text{一定係数（うち購入者割合）}} \times \boxed{\text{プレイヤーの生産物またはサービスの購入単価}}$$

例えば、視察調査を行った久留米まち旅に参画されているプレイヤー（田中さん）は、現在お米の販売・配達を行っており、間接経済効果が久留米まち旅のプレイヤーを担うモチベーションのひとつになっています。田中さんに及ぶ間接経済効果は次の通りです。

間接経済効果項目	内容
お客様との接点が増える	顧客は地元住民が多く、普段は接点が少ないが、プログラムをきっかけに関係を深くすることができている。
地域が盛り上がる	地域を活性化させたい。プログラムによって地域が盛り上がっていることを実感している。
広告宣伝として	本業は、ウェブサイトなど個人での宣伝となっている。しかし「まち旅」のパンフレットを通じて多くの人々に知られることとなり、本業の宣伝にもなっている。 テレビの取材で取り上げられることもある。
外貨獲得、スモールビジネスとして	今後もプログラムを継続していきたいと考えている。継続することで、ブラッシュアップやプログラム提供のしかたなどの研究の場になっている。
リピーター獲得の機会として	ただし、プログラム参画によるリピーター獲得に多大な期待はしていない。受入20名のうち1名が顧客になる程度

一方、本町における条件は異なります。

参加者の多くを地元の人たちが占める久留米市と異なり、本町では町外や道外さらには海外から二セコ観光に来る人たちが多くを占めることが想定されるため、プレイヤーが生産者の場合、生産者が作った生産物が売れるという経済効果もかなり期待できます。

実証実験においても、地元農家の佐藤氏がゆり根の話をした翌日、「佐藤さんのゆり根を購入したい」という参加者が現れる効果が見られました。このような参加者はその後も生産者のファン、二セコのリピーターとして継続して購買する可能性も高く、さらには、「口コミ効果」で周囲に購買が広まることなども期待できます。

以上のことから本町における「環境型たびいくプログラム」のプレイヤーにとって期待できる間接経済効果は、次の通りです。

間接経済効果項目	内 容
ファンやリピーター獲得の機会として	<p>ニセコ観光に来た客が参加するため、土産としてプログラムに関係のあった商品（農産品など）を求めて買っていくことが期待できる。</p> <p>商品だけでなく、プレイヤーの本業（宿泊、レストランなど）に関わる部分での経済効果（宿泊者が増える、レストランの客が増えるなど）が見込める。</p> <p>また、ファンやリピーターとして定着し、継続して購買や来訪につながることを期待できる。</p>
広告宣伝として	<p>現在、個人での宣伝に限られている場合でも、たびいくプログラムとして共同で宣伝することによって効果が期待できる。</p>
外貨獲得、スモールビジネスとして	<p>観光事業者が多く、体験プログラムも行われており、採算性の高いプログラムを生み出しやすい素地がある。</p> <p>はじめて体験観光に取り組む場合も、プロの観光事業者と関わることで、ブラッシュアップやノウハウを身につけることができる。</p>
産業相互の連携、さらには、農業や商工業の活性化として	<p>これまで、観光に携わっていなかった人々が観光との接点を持つことによって、観光振興にも積極的に関わってくることが期待できる。</p> <p>また、農業や商工業など観光以外の分野で活躍する人たちがプレイヤーとなることで、農業や商工業への理解が深まり、農作物や商品の消費が拡大する。</p> <p>産業相互の結びつきが深くなり、農業や商工業が活性化されることが期待できる。</p>

「環境型たびいくプログラム」をプレイヤーの事業として捉えた場合、直接経済効果が多分に見込めなくても、リピーターの確保や新規顧客の開拓など間接経済効果を期待するプレイヤーが現れることが考えられます。

個々のプレイヤーの経済効果に対する考え方はさまざまですが、「直接経済効果」と「間接経済効果」の双方をふまえて事業化を検討することが望ましいと考えます。

（2）プラットフォーム事業による事業化モデル

プレイヤー個々での事業化のほかに、複数のプログラムを組み合わせたり、予約受付や情報発信などを担っていく「プラットフォーム事業」を事業化するというスモールビジネスが考えられます。

プラットフォーム事業では、各種プログラムをコーディネートして、プロモーションを行うための経費を確保する必要があります。収入源は、

- ①各プログラム提供者からの手数料
- ②各プログラム提供者へのサポートによるサービス料

③内外からの補助金・協賛金・広告掲載料、の3つに分類されます。

①各プログラム提供者からの手数料

プラットフォーム事業に関わるプレイヤーから手数料という形で収受することが考えられます。プレイヤーは、手数料分を考慮してプログラム料金を設定することとします。

プログラムや参加者が増えることによって手数料が増加し、プロモーション活動が積極的に行いやすくなり、その結果、参加者がさらに増加するという好循環も期待できます。視察調査を行った北九州市では、ガイドの専任が2名おり、1名分の人件費は、視察ツアーのガイド代金で賄っています。

②各プログラム提供者へのサポートサービス

プラットフォーム事業の一環として、プログラムに対するサポートサービスを用意し、サービス料を収受することが考えられます。具体的には、一時的に必要な物資のレンタルや予約受付の代行などが考えられます。視察調査を行った久留米まち旅事務局は、予約受付代行を行っており、1予約につき100～200円の代金を受け取っています。

③内外からの補助金・協賛金・広告掲載料

プラットフォーム事業の運営経費として、行政からの補助金や地元企業からの協賛金が考えられます。また、「環境型たびいくプログラム」の参加者（観光客）をターゲットにした広告掲載を誘引し、広告掲載料を収入源とすることも考えられます。久留米まち旅事務局は、初年度から5年目に至るまで、久留米市が補助金を予算化しています。後述する事業化を想定した場合の収入モデルでも、初年度～2年目は、初期投資のために赤字運営が予想されるため、できる限り初期コストを押さえながら運営していく必要があります。

以上のことからプラットフォーム事業の事業化を想定した場合、収入モデルは次のような展開が考えられます。

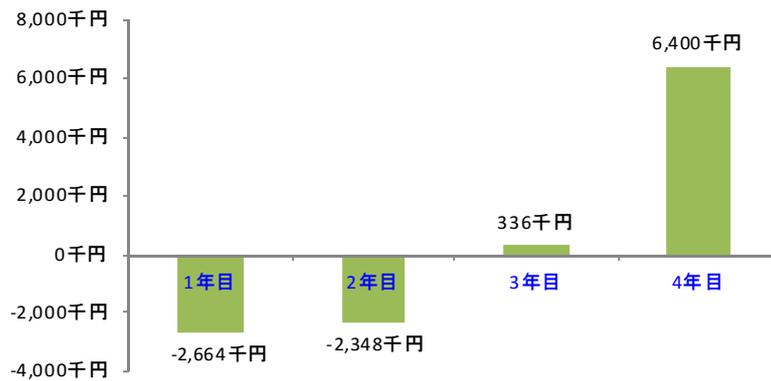
プラットフォーム事業の事業化モデル

		1年目	2年目	3年目	4年目
ニセコ旅育プログラム実施日数		1日	4日	14日	30日
プログラム数		20	30	40	50
プログラム参加人数(1回当たり)		10人	20人	20人	20人
延べ参加者数		200人	2,400人	11,200人	30,000人
プログラム料金(平均)		1,500円	2,000円	2,500円	3,000円
総売上		300千円	4,800千円	28,000千円	90,000千円
収入	手数料(10%)	30千円	480千円	2,800千円	9,000千円
	受付代行 ※1	6千円	72千円	336千円	900千円
	補助金・協賛金・広告収入	0千円	200千円	500千円	1,000千円
経費	人件費 ※2	200千円	800千円	1,200千円	2,400千円
	パンフレット制作費	2,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円
	WEB制作費	500千円	300千円	100千円	100千円
総収益		-2,664千円	-2,348千円	336千円	6,400千円

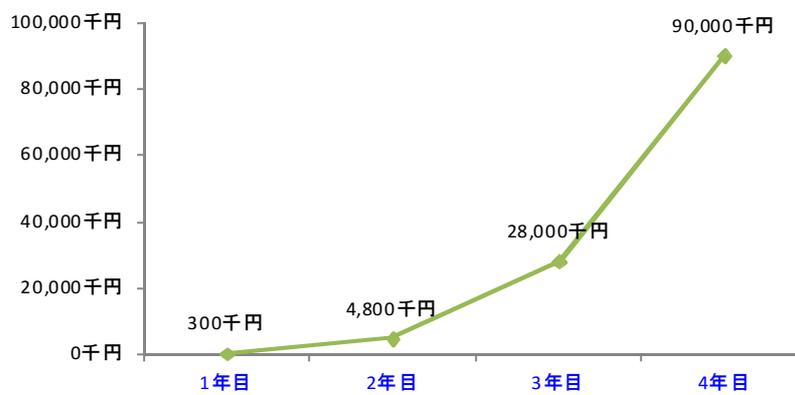
※1 プログラムのうち3割が受付代行し、1人につき100円として想定。

※2 1か月当たり200千円として想定。準備期間を含め1年目1か月間雇用、2年目4か月間雇用、3年目6か月雇用、4年目12か月雇用と想定。

プラットフォーム事業の総収益の推計



プラットフォーム事業の総売上の推計



プラットフォーム事業化の検討にあたっては、収入が手数料に大きく影響を受けるため、総売上が重要となってきます。そのため、プログラム数や延べ参加者数を増やすことが重要となります。

初年度～2年目はプログラム数が少ないことから赤字が想定されます。しかし設定日やプログラム数を増やし、延べ参加者数を拡大していくことで、黒字転換を図ることが可能です。

よってプラットフォーム事業化にあたっては、初年度～2年目の経費を確保することが重要となります。

4 たびいくビジネスによる就労や雇用の可能性

たびいくビジネスとして、「環境型ニセコたびいくプログラム」が定着すれば、個々のプレイヤーやサポーターにとって、新たな就労の場となり、バリエーションが増えると、大きな市場を生み出す可能性もあります。

また、参加者が拡大する中で、新たに求められるニーズが出てくる可能性もあり、それらをビジネスチャンスとして、起業や事業の拡大が行われることも考えられます。

このようなことから、「環境型ニセコたびいくプログラム」によって生まれることが考えられる、就労や雇用の可能性についてまとめてみると、次の通りです。

「プレイヤー」としての就労、雇用

「環境型ニセコたびいくプログラム」は、これまで体験観光などの事業に関わりのなかった一般住民の方々がプレイヤーになることを想定しています。

すでに体験プログラムを行っている観光事業者や、何らかの職業についている方がプレイヤーになるケースも多いと思われませんが、現在職業をもたない方がプレイヤーとなることも考えられます。

特にスタート時は、プログラムだけで生計を立てるような高い収益を得ることは難しいと思われませんが、プログラムが成熟し継続されていく中で、スモールビジネスとして定着するプログラムが増えることが予測されます。また、参加者の拡大などにより、プログラムの実施体制を増員することで、新たな雇用が生まれることも考えられます。

「サポーター」としての就労、雇用

「環境型ニセコたびいくプログラム」は、プレイヤー単独で実施する内容ばかりではなく、当日の作業を手伝うサポーターがスタッフとして関わることも想定されます。

参加者の増加により、必要とされるスタッフも増えると思われることから、サポーターの就労も拡大することが期待できます。

参加者やプログラムのバリエーションが増えると、作業スタッフ以外にも、会場や活動場所の提供、用具の提供、写真撮影、通訳などを行うサポーターのニーズも高まり、就労機会が増えることが予測されます。

「プラットフォーム事業」に関する就労、雇用

個々のプログラムを組み合わせたツアー造成や、予約受付や情報発信などを行う「プラットフォーム事業」に関する事務作業を担う人材が必要となります。

スタート時において十分な運営費を見込むのは難しいと思われませんが、参加者の増加により事務量が増えていく中で、新たな雇用が生まれることも考えられます。

新たなビジネスに取り組む人の増加

「環境型ニセコたびいくプログラム」は、市場のニーズを把握したり、生の声を聞くことができるマーケティングの場となります。参加者の生の声を聞くことによって、新たなビジネスを思いついて起業したり、自分の業務内容を拡大する人たちが現れる可能性もあります。

そのようなビジネスの創出・拡大によって、就労や新たな雇用が生まれることも考えられます。

輸送や移動に関するビジネスの創出

「環境型ニセコたびいくプログラム」は、電気自動車など環境に配慮した乗り物を積極的に活用することを想定しています。住民対象の電気自動車のカーシェアリング事業は、北九州市の事例などからも採算性は厳しいと思われませんが、レンタカーで来て一旦返却し、町内滞在中は自動車を持たない観光客も少なくないことから、住民と観光客の双方を対象としたレンタル業の展開も考えられます。

自転車については、本町では無料レンタルサイクル「ニセコグリーンバイク（NGB）」を行っています。坂の多い本町において、より多くの方に利用してもらえ、可能性の高い電気自転車のレンタル業を展開することも考えられます。

久留米まち旅には、タクシー業者によるタクシーツアーのプログラムがあります。本町でも、ニセコ町内の観光ポイントや、たびいくプログラムをめぐるタクシーツアーなどが事業化されることにより、就労や新たな雇用が生まれることも考えられます。

タクシーツアーが展開されている例（久留米まち旅博覧会ホームページより）

	<p>久留米のまちの歴史と観光ならおまかせください！</p> <p>S 楽々と旅する久留米 ほっとめきタクシーツアー【希望日時】</p> <p>タクシー協会所属の一押しドライバーが、久留米の魅力をタクシーでご案内します。①久留米餅の発祥の物語から工房を訪ねるコース、②田主丸の「山芭の道」を中心に、耳納連山の豊かな自然、歴史、食を楽しむ2コースです。</p> <p>料金／①小型1台貸切ご利用10,500円、②小型1台貸切ご利用15,700円 定員／小型タクシー1台4名まで 所要時間／①約3時間、②4時間半 スケジュール／①五穀神社→徳雲寺→地場産くるめ→藍染餅工房山村健 ②若竹屋酒造場→紅乙女酒造→巨峰ワイン→旬の果物狩りなどと歴史散策</p> <p>• 予約／実施日の3日前までに要予約</p>
--	--

5 観光クラスター構想

「環境型ニセコたびいくプログラム」は、個人のプレイヤーでも参加可能な事業規模を想定しています。事業規模が小さい分、さまざまな分野や立場の人がプレイヤーとして参加することが可能となり、個々のプレイヤーが単独で実施するほかに、複数のプレイヤーで協力し合ってツアーを造成したり、コラボレーション企画を行うことなどで、より付加価値の高い内容になることも考えられます。このような「環境型ニセコたびいくプログラム」によって生まれる動きやネットワークは、既存の観光に刺激を与えるとともに、他の産業にも好影響をもたらす可能性を持っています。

「環境型ニセコたびいくプログラム」への参加を機に、これまで観光にあまり関心がなかった住民や事業者が観光に目を向けるようになり、その結果、町内のさまざまな産業や人が「環境型ニセコたびいくプログラム」を軸に結びつき、地域全体で強固な観光基盤が確立されることが期待できます。

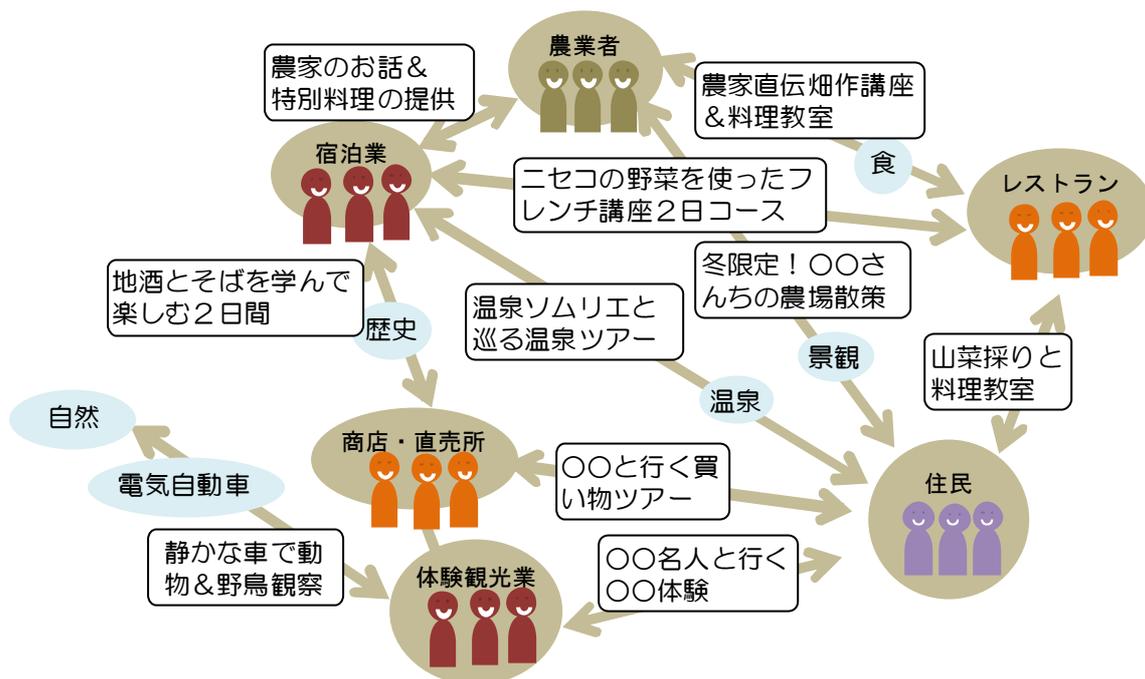
このような、「環境型ニセコたびいくプログラム」を核に「観光クラスター」が成長していく姿を順に示すと、次の通りです。

①プレイヤー・サポーターのつながり、地域の人と資源のつながり

「環境型ニセコたびいくプログラム」をともに運営していくメンバーとして、プレイヤーとサポーターの連携が深まります。また、コラボレーション企画の増加により、プレイヤー相互の連携も深まります。

プログラムの多様化とともに、プログラムに関わる人や地域資源も拡大し、町内の人や資源の循環、産業連携などが加速します。

プレイヤー相互の連携によるコラボレーション企画のイメージ



②環境教育の関連機関、外部機関のつながり

環境教育に焦点をあてたたびいくプログラムをつくりあげ的过程中で、行政や企業、大学など研究機関などのつながりが深まり、産官学民の連携が進みます。

また、「環境型ニセコたびいくプログラム」を広くPRし参加を呼びかけるため、旅行代理店や同様の取り組みをしている地域等と協力して情報発信やツアー造成などを進めていく中で、外部機関とのネットワークも拡大します。

その結果、プログラムの質が向上し、大人も学べるプログラムとして、個人観光客のほか、教育旅行や視察の数が増加します。

③プレイヤー・サポーターの拡大、参加者の拡大

「環境型ニセコたびいくプログラム」をスモールビジネスとして成功させるプレイヤー、サポーターが現れることにより、新たにプレイヤー、サポーターになる人が増え、新たな分野からの参加も進み、つながりが深まります。

「環境型ニセコたびいくプログラム」の質が高まるにしたがって、プログラムへの参加者が増加します。その結果、地域に流入する外貨や参加者との交流も拡大します。「外貨」と「交流」が地域にもたらされることは、プログラムに関わる住民にとって「経済と心の潤い（やりがい）」となり、プログラムの一層の充実につながります。

参加者にとっても、従来のアクティビティなニセコ観光に加えて、地元の人とふれあいながら知的好奇心を満たすことができる新たな魅力ができた結果、これまでニセコ観光に来たことがなかった客層も来るようになり、ニセコ観光の裾野が広がります。また、「環境型ニセコたびいくプログラム」が年間を通じて行われるようになり、季節に関わらず、あるいは四季ごとの異なるニセコを楽しむ観光客が増加します。

④町全体のつながり

参加者の増加、滞在の長期化が進むにつれて、地域への経済効果が高まります。また、農業者や商工業者がプレイヤーとして参加することにより、消費者と農業・商工業との距離が縮まり、生産者意識や売上げが高まるなどの活性化が進みます。来訪者のみならず移住者の増加もみられるようになり、地域経済の循環がより一層活発になります。

そして、「環境型ニセコたびいくプログラム」が、大自然でのアウトドア体験と並んで、ニセコ観光のもう一つの顔として定着し、環境と観光を軸とした地域振興がより一層進みます。

「環境型ニセコたびいくプログラム」を核に成長する「観光クラスター構想」

